



平成28年度 農林水産省 産地活性化総合対策事業
国産花きイノベーション推進事業(花育活動全国推進事業)

学校・地域活動

全国花育活動事例集



全国花育活動推進協議会

はじめに

花や緑の多様な機能に着目し、花や緑を教育、地域の活動に取り入れる取り組みである「花育」の推進は、幼児・児童・生徒の成長期において、花と緑に親しみ・育てる機会を提供しやすさや美しさを感じる情操面の向上等が図られ、また、地域活動においても、花や緑を介した世代交流や、地域のつながりを深めていくことも期待されています。

このため、全国花育活動推進協議会は、このような花育の社会的な効果や意義を踏まえ、花き業界関係者、教育関係者、都市緑化関係者及び地方自治体の教育・農林・都市緑化担当部局等と連携を図りつつ、花育活動の取り組みを全国的な運動として推進するために平成20年3月28日に発足し、これまで、花育活動の普及啓発、モデル地区での花育活動、花育アドバイザーの登録・紹介及び花育活動に関するアンケート調査等を実施してきたところでもあります。

本年度は、平成28年度農林水産省 産地活性化総合対策事業のうち国産花きイノベーション推進事業(花育活動全国推進事業)を活用し、これまで全国で実践されてきた花育活動について、実践事例を募集いたしました。

全国から多くの応募があり、花き業界の専門家が創意工夫して開発・実践されてきた多様な花育活動や地域での特色ある取り組みなど多くの事例を取りまとめて「花育事例集」を作成しました。

今後この花育事例集を参考に、花育を指導される方々の資質向上や研修会等、小中学校の教諭にも積極的に活用されて、全国各地での効果的な活動が展開されることを期待しております。

おわりに、この花育事例集の作成に当たり、農林水産省生産局並びに花き業界の専門家や教育関係者で構成する花育活動推進検討会及び花育事例集作成委員会の委員をはじめ多くの方々にご協力・ご指導及びご執筆頂きましたことに対して厚く御礼申し上げます。

平成29年3月

全国花育活動推進協議会
会長 今西 英雄

「花育推進検討委員会」

順不同

所 属・役 職 名	氏 名
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師、グリーンアドバイザー	中道 光子
一般社団法人日本ハンギングバスケット協会 理事	山口 まり
公益財団法人日本いけばな芸術協会 理事	新藤 華盛
一般社団法人日本造園建設業協会 技術調査部長	野村 徹郎
元東京都目黒区立大岡山小学校 校長	三神 雄司
元川口短期大学 こども学科 教授	丹伊田 弓子
日本生活科・総合的学習教育学会 顧問	吉田 豊香

「花育事例の収集・分析委員会」

所 属・役 職 名	氏 名
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師、グリーンアドバイザー	中道 光子
一般社団法人日本ハンギングバスケット協会 理事	山口 まり
公益財団法人日本いけばな芸術協会 理事	新藤 華盛
神奈川県小田原市立泉中学校 教頭	石塚 英雄

目次

誰でもが参加できる花育 花や緑を育てたり触れる活動を通して心を育てる

花育推進検討委員会 委員

元川口短期大学 こども学科 教授 丹伊田 弓子…………… 1

- ①幼稚園・栽培 幼稚園における花育活動…………… 5
東京都中央区立月島幼稚園 園長 岩城 眞佐子
- ②小学校・栽培 千葉県佐倉市小学校「ビオラで学校を明るくしよう」…………… 13
GA・ちば花緑の会（グリーンアドバイザー） 山口 まり
- ③地域・栽培 水苔で作る顔付き苔玉「こけっぴ」作り…………… 25
緑花星 主宰 代表 石戸 明一
- ④幼稚園・栽培 幼稚園の園庭を活かした花のある環境作り…………… 35
花育アドバイザー 佐藤 幸子
- ⑤小学校・栽培 岩手県久慈市「あまちゃん」の小学校を花いっぱいに!…………… 43
花育アドバイザー 佐藤 幸子
- ⑥地域・職業体験 キッズジョブまつやま 2016 での（子ども職業体験イベント）
お花屋さん体験…………… 51
NPO 花育・花活プロジェクトえひめ 代表 渡部 千恵美
- ⑦小学校・栽培 岐阜県産の花で飾ろう私の学校・種まき体験…………… 59
一般社団法人 寄せ植え華道協会 事務局
- ⑧小学校・栽培 岐阜県産の花で飾ろう私の学校・寄せ植え作り体験…………… 65
一般社団法人 寄せ植え華道協会 事務局
- ⑨幼稚園・栽培 東京都内での花壇作り～幼稚園での花壇計画～…………… 71
東京都花き振興協議会
株式会社フラワーオークションジャパン 村松 得至
- ⑩小学校・切花 小学校のクラブ活動における花育～お茶・お花クラブ～…………… 75
東京都花き振興協議会
株式会社フラワーオークションジャパン 村松 得至
- ⑪幼稚園・切花 高校生の協力を得て行った幼稚園での花育活動…………… 79
有限会社千寿園 千葉 道代

目次

- ⑫小学校・切花 ワンコインクラブ活動
小学校へのお花のお届けと「花の楽しみ方教室」…………… 87
ワンコインクラブ 高木 凌介
- ⑬保育園・切花 富山県内全域での「花の出前体験教室（フラワーアレンジメント・
いけばな・チューリップ球根植付花育体験）」…………… 93
富山フラワーネットワーク
- ⑭保育園・切花 奈良県 保育園で行う季節の花を使った「花育教室」…………… 101
奈良県花き振興協議会 奈良県花き植木農業協同組合 箕輪 繁
- ⑮小学校・栽培 キク栽培を通じて人々と植物のかかわりについて学ぶ…………… 105
長野県岡谷市三沢区民農園 林 弘旦
長野県岡谷市立川岸小学校 教諭 井出 竜也
- ⑯小学校・切花 青少年育成事業としての花育活動…………… 113
藤沢中央ライオンズクラブ 和田 晃一
- ⑰農業高校・栽培、切花 農業高校における花育活動…………… 125
公益財団法人全国学校農場協会 常務理事
千葉県立鶴舞桜が丘高等学校 教諭 風間 龍夫
- ⑱小学校・切花 花を観察して生けてみよう「一花一葉」…………… 141
株式会社姫路生花卸売市場 清田 秀豊
- ⑲保育園・栽培 花市場での花育事業 湖東白ゆり保育園…………… 151
株式会社浜松生花地方卸売市場 開発営業部 谷口 伸彦
- ⑳イベント・栽培 2016 市場まつり・花育
「ガーデンシクラメンのウェルカムボード」作り…………… 159
株式会社東京砧花き園芸市場 矢島 武志
- ㉑高校・切花 日本の伝統文化 五節句を学ぼう
「重陽の節句フラワーアレンジメント体験授業」…………… 165
特定非営利活動法人フラワークラブなな夢 村上 博子
- ㉒地域・栽培 地域のコミュニティを育む花・緑の街
～みんなで創る住みよい街・片平～…………… 175
名古屋市緑区片平学区連絡協議会 会長 杉野 友昭

誰でもが参加できる花育

花や緑を育てたり触れる活動を通して心を育てる

花育推進検討委員会 委員

元川口短期大学 こども学科 教授 丹伊田 弓子

花育実践者の皆様や、花き業界のいろいろな立場の皆様のご尽力により、ここ数年、少しずつ「花育」が注目されてきた確かさを感じてはおりますが、ひとたび花育推進仲間の輪の外へ出てみると、学校教育関係者であっても「花育」という言葉すら知らないという現実を突き付けられます。今では誰でも知っている「食育」が体を育てる教育の代名詞であるなら、「花育」は、心を育てる教育の代名詞であってほしいと考えています。

「栽培」や「花緑に触れる活動」は学校教育の中で子ども達に知識面での学びはもちろん、情意面、感性や学びの意欲を育てる事への効果を発揮しています。また社会教育では、癒しや潤い、そして生き甲斐を生み出すことに、その役割を果たしてきました。

聞いただけのことはやがて忘れてしまいます。体験したことは、体が覚えていて何時か芽を吹いて人生を豊かにするための力となります。植物を育てたり、花緑に触れる活動は、体験して心に残る活動です。植物にしても、人の心にしても、育てるということは積み重ねでとても時間のかかることです。しかし、育てるということは、その人の生活を豊かにするためにいつか役立つ力を根付かせるという、時間をかけるに足る価値あることであり、それが花育だと考えます。そしてそれは、近道はないけれど、いろいろな形で、誰にでもできる教育活動だと考えます。

花育実践者の皆様の活動は、家庭で、学校で、地域で、花緑を心の糧に、子どもの、青年の、さらには、高齢者の生き甲斐を育てようとしている多くの方々の知恵や力になっていることを確信しています。花育実践者の方々の交流と連携により、着実に花育の輪が広がっていくことを期待しています。

地域での私の花育

春と冬が行ったり来たりする季節になりました。そんな冬の終わる頃の朝、塀の外に、にぎやかな子ども達の声が近づいて来ました。

家の前を通りかかった保育園のお散歩行列でした。

垣根の外の小さな我が家の畑を見て、

「ブロッコリー食べたんだね。2つなくなってる」

「お花が、この前よりいっぱいじゃあない？」

「咲いたね」

「これはキャベツよ、今度また見ようね」

先生や子どもが頭を寄せ合って眺めている姿、かわいい声と先生の弾んだ声のキャッチボール、爽やかな朝に素敵なプレゼントをもらったような気持ちになりました。



こんな小さな畑でも、子ども達の気になる場所になっている。それはこのお散歩で、通るたびに先生の問いかけがあったからでしょう。2～3日前にも見ていたから「ブロッコリー食べたんだね。2つなくなってる」という子どもなりの気づきが生まれたのでしょう。

小さな植物が、見るたびに姿を変え、知っている野菜になったり、緑の中から、鮮やかな色の花が現れたりすることは子どもにとっては心をワクワクさせることなのでしょう。しかし、

散歩途中の猫の額ほどもない畑に心をかけ、子どもに問いかける先生があったからこそ、子どもたちが野菜や花にワクワクするのではないのでしょうか。最近、ビルの中であったり、ドアを開けるとすぐ道路といった環境にある保育園や幼稚園が増えています。現実問題として、プランターひとつ置くスペースもない園も少なくありません。散歩の道中の環境を活用しての保育士先生の花育に、我が家の小さな畑が少しは役に立ったかなと嬉しくなりました。

年齢を重ね、時間的にも精神的にも地域に目を向けるゆとりができた私は、家の周りの草取りをするときも、タンポポ、ハコベ、オドリコソウ、ナズナ、エノコログサなど、子ども達に出会って欲しい野草は、全部抜かずにその一部を残しておきます。小さい子供ほど、手をひいている大人に「これ、なあに?」「何か、かわいい」と眺めたり立ち止まってみたりしていますし、また、ある時はタンポポのそばで「朝お花開いていたのにしぼんじやった」と友達と話しながら過ぎていく1年生か2年生の女の子たちを見かけました。明日の暖かい時にまたこのタンポポに気付いてほしいなと思いながら道路の掃き掃除を続けました。

バス停から家まで歩きながら周りを意識して見てみると、街路樹、道路わきに作られた細いグリーンベルト、お花好きと思われるお宅の塀際のちょっとしたスペースを利用したブロックの小さなフラワーポットなど、コンクリートに埋め尽くされた街並みにも、子どもの心をワクワクさせる材料はたくさんあります。誰のためではなく、誰もが自然にこんな環境を作っていることを感じました。きっと、あの保育園のお散歩を率いる保育士先生は、私が見付けた以上に色々見つけて子ども達に語りかけながら歩いて行くのだろうなとその姿や言葉を想像してしまいました。

環境作りという点では、誰でもが出来る花育、でもその環境を生かして活動のきっかけを作るのは、少しだけ早くそのことに気付いた人・・・あの保育士先生のように…という思いを強くしています。

花育実践者の方々が提供して下さる具体的な「花を生かす活動」こそ、環境を生かして語りかけたり活動のきっかけを作る力となるのだと思います。

幼稚園における花育活動

作成者：東京都中央区立月島幼稚園 園長 岩城 眞佐子

■ 実施主体

名 称：東京都中央区立月島幼稚園

担当窓口：園長 岩城 眞佐子

所 在 地：東京都中央区月島1-9-7

■ 対象者・人数：3年保育 在園児180名 花育活動は
5歳児（年長67名）を対象にしている

■ 取組地域：東京都中央区月島地区

■ 概要



- 幼稚園の年長組を対象に年間5回の花育の活動を行っている。園行事との兼ね合いを考慮し、年間計画を立てて、育苗、蝶についての生き物教室、自然物を使ったリース作り、フラワーアレンジメントなどと、多様な体験ができるようにしている。
- 花育アドバイザー（グリーンアドバイザー）を講師に迎え、保護者のボランティアの援助を受けて活動を進めている。
体験を積み重ね、保護者も活動に参加することで、花育のねらいや幼児の変容を理解し、積極的に協力してくれている。
- 幼児は体験を重ねながら植物への関心をもち、知識を深めたり、心情面が育ったりしている。

■ 取組開始時期・経緯

平成23年度から、幼稚園の栽培活動に花育アドバイザーをゲストティーチャーとして招き、幼児の経験を次に活かすようにしながら、この取り組みを始める。

- | | |
|--------|--------------|
| ① 年長5月 | ② 年長5～6月 |
| ③ 年長7月 | ④ 年長11月 |
| ④ 年長2月 | の計5回 行なっている。 |

■ 取組開始時期・経緯

幼稚園の教育は、文部科学省が告示する「幼稚園教育要領」に則ってなされている。その要領は、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域から成り立っている。

幼児は5つの領域に関わる様々な活動を通して、小学校以降の学習の基盤となる学びをしている。「花育」は主に領域「環境」に関わるねらいを経験できる活動と考えられる。花育アドバイザーの先生に入っただくことで、苗の育て方、扱い方など専門的な知識を分かりやすく教えていただき、教員の勉強にもなっていることも大きな効果である。

【取り組み内容】

◆事例①「野菜苗の植え付け」

■ 時期：5月上旬

■ 苗の種類

- ・きゅうり ・ナス ・枝豆
- ・トマト ・小玉スイカ 等

■ 園芸資材

- ・プランター（深さは、40～50cm程度）
- ・土は培養土
- ・土すくい
- ・ジョーロ（350mlペットボトルにシャワーのキャップをつけたものを園児分準備する）
- ・ラベル（幼児が準備する）
- ・支柱

■ 指導者：花育アドバイザー

補助者：園児のお母さんボランティア5名

■ 当日の流れ

- ・ボランティアの保護者に活動の流れを説明する。
（保護者は、自分の子どもがいないグループを担当する。）
- ・苗や用具を並べたり準備をする。
- ・1学級（クラス）ずつ、プランターを囲んで活動する。
花育アドバイザーから苗の扱い方（ポットからの取り出し方や扱い方など）について話を聞く。
- ・グループごとにプランターに苗を植える。
- ・大きなプランターであれば、野菜苗の周りにひまわりなどの花の種も植えると良い。
- ・ペットボトルのジョーロで各自水やりをする。
- ・支柱の立て方や苗の育て方について、花育アドバイザーの先生がやって見せながら説明をする。
- ・翌日からも水やりを欠かさないように…と話をしていただき、お礼のあいさつをして、活動を終わる。



野菜苗や土の準備



大型のプランター



野菜苗の植え付け

◆事例②「花苗の植え付け」(ペットボトルのハンギングバスケット)

■ 時期：5月下旬

■ 苗の種類

- ・ベゴニア ・トレニア ・マリーゴールド等

■ 園芸資材

- ・(事前の準備)

2リットルの角形のペットボトルを底から14cmくらいのところで切る。切り口にビニールテープを貼り、指を切らないように保護する。

背に穴を2か所開け、針金を通して、フックが掛けられようにする。底には4か所穴を開けておく。

(水が流れるように) 表面には幼児が絵を描き、自分のオリジナルポットにする。

- ・培養土 ・土入れ ・割り箸 ・S字フック
- ・ジョーロ (350mlペットボトルにシャワーのキャップをつけたものを園児分準備する)

■ 指導者：花育アドバイザー

補助者：園児のお母さんボランティア5名

■ 当日の流れ

- ・ボランティアの保護者に活動の流れを説明する。担当するグループを決める。
- ・暑くなる時期なので、熱中症などの対策として室内で活動する。使用するテーブルには、新聞紙を敷いて動かないようにテープで止めておく。
- ・グループごとにバケツに培養土を入れておく。土入れ、割り箸も人数分準備する。
- ・初めの挨拶をする。花育アドバイザーからペットボトルに入れる土の量や苗の扱い方(カップからの取り出し方や扱い方など)について話を聞く。
- ・各自、自分のポットに花苗を植える。
- ・苗を入れて、ポットの周りに土を入れていく。割り箸で土を隙間に入れながら必要な量の培養土を入れる。
- ・S字フックを玄関前のポットを掛けられるところに各自掛け、ジョーロで水やりをする。
- ・席に戻り、お礼のあいさつをして活動を終了する。



ペットボトルのハンギングバスケット



ペットボトルの切り口にビニールテープを巻く



ベゴニアの花苗を植える

◆事例③「カレーパーティーとセンニチコウの苗の植え付け」

■ 時期：7月下旬

■ 苗の種類：センニチコウの苗

■ 園芸資材

- ・プランター深さ20cmくらいのもので良い。
- ・土は腐葉土を混ぜて、石灰を入れておく。
- ・土すくい
- ・ジョーロ（350mlペットボトルにシャワーのキャップをつけたものを園児分準備する）



大型プランターにセンニチコウの苗を植える

■ 指導者：花育アドバイザー

■ 当日の流れ

- ・5月に植えた野菜の苗が育ってきたら、幼児は前日までにカレーに入れる、玉ねぎ、ナス、サラダ用のキュウリなどを収穫しておく。
- ・カレーに入れる具材を包丁で切って調理する。（保護者が手伝いながら園児が切る）
- ・カレーが出来上がるまで、センニチコウの植付けを行う。
このセンニチコウは、開花したらドライフラワーにしておき、秋にリースづくりの材料として活用する。
- ・花育アドバイザーからペットボトルに入れる土の量や苗の扱い方（ポットからの取り出し方や扱い方など）について話を聞く。
- ・3人1組になり、センニチコウの苗を植える。
- ・ジョーロで水やりをする。
- ・お礼のあいさつをして、カレーパーティーの準備を行う。
- ・花育アドバイザーと一緒に会食する。



野菜のまわりにヒマワリを植えている



小玉のメロンも大きく育っている



野菜たっぷりのカレー

◆事例④「リースづくり」

■ 時期：11月中旬

■ 材料：

- ・リースの土台（つる性の植物をリース状にしたもの…乾燥している状態）
- ・リボン、モールなど
- ・センニチコウ（7月に植えた）の花をドライにしたもの、メタセコイヤ、ドングリ（近隣の公園で見つけてきたもの）テイオウカイザイクの花など
- ・紙皿
- ・ボンド

■ 指導者：花育アドバイザー

補助者：園児のお母さんボランティア5名

■ 当日の流れ

- ・センニチコウは、適当な花の大きさになったら、摘んで乾燥させておく。
他にも飾りとなるドングリやメタセコイヤの実などを集めて乾燥させておく、ドングリは虫が出るので煮沸しておくが良い。
- ・ボランティアの保護者に活動の流れを説明する。担当するグループを決める。
- ・室内でグループごとに座り活動する。
紙皿に各自の材料を各種載せ、リース台も一緒に置いておく。
- ・ボンドは、一人ずつ作業しやすいようにダンボール片に出しておく。
初めの挨拶をする。花育アドバイザーからリースづくりについて話を聞く。
- ・各自、作業を進める。
- ・テーブルに1人はボランティアがつくようにして、作業しやすいようコツを知らせていく。
- ・出来上がったリースを紙皿に載せ、名前のカードを付けてテーブルの上に置き、ボンドを乾かす。
- ・友達の作品を見る。
- ・テーブルの上を片付ける。
- ・お礼のあいさつをして活動を終了する。



ドライフラワーや木の実のリース



リースの材料



先生から作り方を教えてもらう



リボンを土台に巻く

◆事例⑤「ひな祭りのフラワーアレンジメント」

■ 時期：2月下旬

■ 花の種類：・桃 ・チューリップ
 ・菜の花 ・スプレーカーネーション
 ・グリーンとなる葉 など

■ 材料：

・カレー用発泡スチロール皿 ・吸水性スポンジ
 ・容器の周りに飾る紙（赤紙） ・ハサミ（切花用）

■ 指導者：花育アドバイザー

協力者：花市場の方、華道の先生方

補助者：園児のお母さんボランティア数名

■ 当日の流れ

- ・ボランティアの保護者に活動の流れを説明する。担当するグループを決める。
- ・室内で活動する。遊戯室内にテーブルを出し、グループごとに座るようにする。
- ・テーブルに花材を一人分ずつ置いておく。
 容器に吸水性スポンジを入れたものを園児が入口で受取り着席する。
- ・初めの挨拶をする。
- ・市場の方から「花がどこで育てられているかやどのようにお店まで運ばれてくるかなどのお話」と花の名前の説明を聞く。
- ・花育アドバイザーからアレンジメントの作り方について話を聞く。
 （ハサミの使い方については、安全な使い方を指導する）
 幼児が、自分で考えて花の長さを決めたり、アレンジができるように大人が補助をする。
- ・ハサミは、安全面に配慮して、使用する直前に配り、使い終わったら回収する。
- ・花育アドバイザーの先生方やお母さんボランティアには、幼児の様子を見ていただきながら、声かけをしていただく。
- ・出来上がったアレンジメントを台の上などに飾る。友達の商品を見る。
- ・席に戻り、お礼を言って活動を終わる。



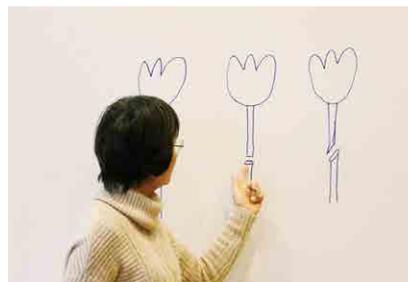
ひな祭りをイメージしたフラワーアレンジメント



切花用のハサミを使って花を切る



花市場の方から
花の流通や花の説明を聞く



花の切り方の説明
「茎は、斜めに切ります」



子供達は、集中して
先生のお話を聞いている。

■ 参加者（保護者）からの感想

- ・ 花育アドバイザーの先生に教えてもらったことをよく覚えていて、水やりのタイミングなどをお母さんが言わなくても自分で行っている。
- ・ 家族で、花や野菜のことを話題にすることが多くなった。
- ・ 幼稚園で花をアレンジして飾ったことがうれしくて、家族の誕生日に花を飾ろうと言ったので、子供と一緒に花を買いに行った。
- ・ 「生き物教室」で訪れた日比谷公園に、よく遊びに行くようになった。
- ・ 子供も親も一緒に花の名前をたくさん覚えた。
- ・ 子供が自然に興味をもつようになった。花、昆虫などが生きていることを実感している。植物にも命があることを知り、大切にするようになった。
- ・ 花育ボランティアに参加して、子どもの興味や関心、活動の意義を知ることができた。とても大事な活動だと思う。
- ・ 幼稚園の活動から4年が経ち、今では小学校3年生になりました。あの頃植えた多肉植物がまだ育っています。

■ これまでの成果

- ・ 1年を通して、幼児は様々な花や植物に触れることができ、以前に比べて、植物の育ちに興味を示し、植物の成長や変化に気付くことが増えた。苗の扱い方、土の寄せ方、道具の使い方が年度当初に比べて格段に上手になり、花の名前をよく覚えるようになった。
- ・ 保護者のボランティアを中心に、この花育活動の重要性を理解する家庭が増えた。
- ・ 植物の栽培活動は、身近に「命」を感じる機会でも、教育的な意義のある活動として継続していきたい。

千葉県佐倉市小学校「ビオラで学校を明るくしよう」

作成者：GA・ちば花緑の会（グリーンアドバイザー）山口 まり

■ 実施主体

名 称：千葉県佐倉市教育委員会
シンジェンタジャパン株式会社
GA・ちば花緑の会（グリーンアドバイザー）

■ 取組地域 千葉県佐倉市立幼稚園・小学校・中学校



■ 概要

- 8月下旬に佐倉市教育委員会と種苗会社であるシンジェンタジャパン株式会社が当年度の花育活動実施について会議を行い実施が決定した。その後、シンジェンタジャパン株式会社からグリーンアドバイザーの会「GA・ちば花緑の会」に講師・アシスタントの派遣の依頼があり実施することとなった。
- 9月上旬に佐倉市教育委員会から佐倉市市立幼稚園・小学校・中学校に花育活動の募集を行い、9月中に参加校が決定。佐倉市教育委員会から実施計画（参加校、学年、生徒数）が提示され、10月下旬より11月中旬にかけて10校前後で花育活動を実施した。
- シンジェンタジャパン株式会社が希望校に対して、日時・実施学年と人数・植え付け場所・ビオラの数量の聞き取りを行い、当日の簡単なスケジュールと講師・アシスタントの人数を希望校に伝えるなどの手続きを担当した。
- グリーンアドバイザーの会「GA・ちば花緑の会」に希望校と調整結果の連絡があり、会員の中から講師を派遣した。
- 使用する花苗は、シンジェンタジャパン株式会社の自社品種のポット苗が寄贈された。指導を担当する講師・アシスタントの交通費のサポートもシンジェンタジャパン株式会社が行っている。

■ 取組開始時期・経緯

- ・2011年から行われ、初年度は4～5月にペチュニアを植え付けたが、4～5月は新年度が始まったばかりのため、学校としても受け入れが難しいという声が上がった。翌年（2012年）からは、秋に実施（10月後半～11月）ということになり、花材もビオラに変わった。
- ・GAちば・花緑の会では、花育実施前に講師・アシスタントに「花育を实践するうえでの諸注意」を配布し、指導に対する心構え・指導方法の統一を図った。また、教室内の授業では、スライドを使い植物やビオラの役目や生態・育て方について説明。資料は低学年・中学年・高学年用の3種類を作成し、講師が異なっても同じ内容の講義が出来るようにした。スライドの内容は、実施後に毎年少しずつ改良されている。

- ・実習で使用したビオラは、佐倉市内の生産者が栽培したもので、身近で花の栽培がおこなわれていることで知り、ビオラへの親しみが一層強くなった。
- ・実施校により園児から6年生や特別支援学級生と対象学年が幅広いばかりでなく、参加人数の違い、植え付け場所の条件がまちまちなど、毎回状況が異なる。時には、臨機応変な対応が必要となることもあり、急遽、植え付け場所の変更や新設をお願いすることもある。

■ 目的（目標）

- ・種苗会社による地域社会貢献。
- ・子どもたちに花や植物とふれ合う場を作る。育てる喜びを感じ、学校をきれいにすることで心地よい空間づくりや環境づくりをしていることに誇りを持ってもらう。
- ・花を通じて、保護者・地域の大人との交流やふれ合いの場を作る。

【取り組み内容】

2016年10月～11月実施例

- 対象者・人数：幼稚園1園、小学校10校 合計人数518名
- 教 科：（小学校授業の場合）生活科、総合的な学習、その他
- 所要時間： 〃 2時限（1時限45分＋休み時間10分＋2時限45分）計100分
- 対象場所：幼稚園、小学校
- 指導者：1講座につき 講師1名とアシスタント2～4名

■ 資材（学校側が準備）

- ・スコップ
- ・培養土
- ・肥料
- ・プランター、鉢

■ 花材

- ・ビオラ



ビオラのポット苗

■ 活動内容（指導内容）

- ・子供たちに植物（ビオラ）と親しんでもらう。
- ・植え付けの作業を体験することにより、土に触れ、丁寧に植物を扱い、植え付け方法を教える。
- ・日々の観察や管理をすることにより、植物を育てる楽しみを経験してもらう。
- ・植物が大きく育つ喜びを感じてもらおう。
- ・学校を花で美しく彩ることができる喜びを感じてもらおう。

■ 活動の手順と流れ

1. 事前の準備

授業開始の30分前に講師・アシスタントは、学校に集合

- ・植え付け場所（花壇やプランター）の確認
- ・花壇の場合は、土の状態を確認し、土が固かったり石などがある場合には子どもたちがすぐに植えられるように耕し、土の改良を行う。
- ・プランターや鉢の場合は、作業場所・鉢数・培養土の量の確認をする。
- ・ビオラの数と色の確認。



ビオラの色と数を確認する

2. 花育講義（45分）

授業を行う部屋に講師・アシスタントは移動（パソコン・プロジェクターの準備）

- ・講師・アシスタントの挨拶と自己紹介後、アシスタントは植え付け場所に移動し、準備を進める。

ビオラを所定の位置に配置して、すぐに植え付けられるように準備する。



植えやすいように、ポットを花壇に並べておく

講師は、スライドを使い、花と触れ合う意義や、ビオラについて説明をする

- ・学年（年齢）により、説明する内容を変える。
- ・植え付けるビオラの実物を教室に用意して、説明終了後に実演をしながら植え方を説明する。



スライドを使って説明する

3. 花育実践（45分）

植え付け場所に移動

講義終了後、休み時間中に、植え付け場所に移動。

- ・生徒は、担任、担当の先生の指示により整列して座る。
- ・改めて、ビオラのポットからの抜き方、根鉢の調整、土への植え付け方を実物を使いながら説明する。
- ・植え付ける深さ・植え付けた後に周囲の土をギュッと軽く抑えることなどのポイントを伝える。

4. 植え付ける

- ・各自の植え付けの場所・数は、担任に指示してもらう。
- ・実際にビオラを植え付ける。
- ・子供たちの作業の様子を注意深く見守り、手間取っている子、間違った方法をとる子に声をかけさりげなく手助けをする。
- ・作業場所が狭い場合は、交代で植え付ける。



植え付け前にビオラの扱い方・植え方を説明



一人1鉢ずつ植え付け



花壇に植え付けるときは、順番に並んで植えると良い



プランターに植え付け



戸惑ったり困っている子がいたら声をかける



植え方を説明しながら花壇に植え付け

5. 植え付け終了

全員で植え付けた場所の周囲に立って、植え付けたビオラの様子を見て、植え付け後の配置等を確認する。

ペットボトルのジョウロなどを使って、ビオラの根元に水やりをする。



植え付け後にたっぷりと水やりをする

6. これからの管理について説明

- ・毎日の観察のポイントの説明（土の乾き具合・病虫害・花がら）。

- ・花がら摘みの方法と必要性。

- ・水やり（特にプランターや鉢植えの場合）のタイミングや方法。

- ・*特に、「なぜ」必要なのかという理由を説明する。



植え付け後の花壇の様子

- ・病虫害の被害があったら、先生に相談する。

- ・今後の成長の様子と卒業式や入学式を飾る花になることを説明。



今後の管理方法などを説明する

7. 終了

担任の先生の指示を受けて、終わりの挨拶をする。

8. 植え付けた苗の状態を確認

花壇やプランター・鉢などにしっかりと植え付けができていないかを確認し、道具の手入れや片付けをし、担当の先生に今後の管理を説明して終了。

参考資料（説明用スライド）

はな
花いっぱい
がっこう
学校にしよう

せんこくはないくかどうすいしんきよきかい
全国花育活動推進協議会
シンジェンタジャパン株式会社

1

家の中にもかざられているかな？

リビング

げんかん

5

せんせい
お花の先生たちは、
こんなかつどうをしています。

まちのなかで花をかざる

花をうえるおてつだいをする

2

花や植物には
どんな効果があるのかな？

心をリラックス

短時間の園芸作業は、心をリラックスさせ、特に花のある植物の世話をするとその効果が高い。

花の香で癒される

ジャスミンは幸福感をもたらし、ラベンダーは、怒りの感情を抑える効果があります。

疲れを回復

植物の見ることで目の疲れの回復を助けます。植物が身近にあると快適な環境が生まれます。

緑化でエコ

夏の暑い時期は、緑のカーテンや壁面緑化などで室内の消費電力を軽減できます。

出典：財団法人日本花緑センター「花と緑の7つの活用」

6

知っている花はあるかな？

① キンギョソウ

② ナデシコ

③ プリムラ

④ ヒナギク

⑤ マーガレット

⑥ シクラメン

3

うえる花のとくちょうを
見て見よう

ビオラ

- ・スミレ科
- ・生まれ：北ヨーロッパ
- ・花がさくじき：10月～5月

7

どんなときに花がかざられている？

にゅうがしき そつぎょうしき
入学式・卒業式

けっこんしき
結婚式

4

ビオラのとくちょう

①花がちいさい

②じょうぶ。

たくさん花がさく

③いろいろな色がある

8

いろいろな色のピオラ



9

どうやってピオラをそだてるの？



13

ピオラのマメちしき① ピオラは食べられる??



サラダとして飾りにのせる
※食用として無農薬で育てたピオラを使用しています

ピオラのゼリー

10

「ピオラ」もの知りクイズ！

Q:ピオラのタネは、どれでしょう？



① ナスタチューム

② ピオラ

③ ヒマワリ

④ マリーゴールド

⑤ アサカオ

⑥ コスモス

14

ピオラのマメちしき② ピオラの花をよ〜く見ると！



11

どうやってピオラをそだてるの？



1つのトレイに406もあながあるよ

15

「ピオラ」もの知りクイズ！

Q:むかし、スミレの花はおもちゃとしても使われていたそうです。どのようなあそびをしていたでしょう？



12

どうやってピオラをそだてるの？



タネをまいて5日ぐらいで根が出る

10日ぐらいするとふたばになるよ

16

どうやってそだてるの？

1cm

子葉 (しよう)

17

<ポットなえのうえかた>

①かだんにピオラをうえるあなをほる

②やさしくもつ

③やさしくぬく

21

どうやってそだてるの？

しよくぶつはこの土からえいようをとっています

3cm

タネをまいて1か月くらい

18

<うえおわたたら水をあげよう>

④花苗のかぶもともまできっかりつちうえます

⑤うえおわたたら水をあげましょう

花や葉にはかからないように土にかけましょう

22

ピオラをそだててくれた人

さくらしうすい いいえんげい
佐倉市臼井の石井園芸さん

19

<うえたあとのていれのしかた>

かれた花をつむ ひりょうをあげる

23

さあ！みんなでそだててみよう！

かだんやプランターにうえる
～よういするもの～

土 (はいようど) ひりょう フランター

シャベル でぶくろ ジョーロ

20

<きちんとおせわしないと……>

かれてしまう どうしてだろう？

24

<そだてた花をつかってみよう>

コップや
花びんにかざる



おしばな



25

次のじかんは、
そとでピオラをうえます。
わからないことがあったらお花の先生に聞
いてみよう。



26

■ 指導のポイント

- ・スライドを使って視覚的な講義と実際に手にとり植物を植えるという作業は、今まで花に関心のなかった子どもたちも興味を持ってくれた。
校庭に出て、植え付け時は子どもたちのワクワク感が伝わってきたり、丁寧に植物を扱う姿が見られた。
- ・実施する学年が低学年の場合は、植物の用語などは、わかり易い言葉に言い換える。
- ・説明は、ゆっくりと、はっきりした口調で話すことを心掛ける。
- ・スライドの画像を使いながら、質問やクイズを出し、飽きさせないようにする。
- ・質問があったら、時間がある限り丁寧に回答する。
- ・全員に目配りし、作業の遅い子には声がけをし、寄り添うように指導する。

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・講義では、スライドでビオラについての画像を見てもらい、植え付ける植物を理解してもらう。
特に、タネまきから発芽の様子、生育途中の画像を見ることにより、今日届いたビオラのこれまでの様子が分かり、興味を持つことができる。
- ・今回使用したビオラは、同じ市内の生産者が栽培しているので、そのことを伝えると、より一層ビオラに親しみがわく。

■ 経費

- ・ビオラのポット苗はシンジェンタジャパン株式会社より提供（佐倉市全体で約3000ポット）
- ・子供一人当たり植え付け株数4～7ポット。
- ・講師・アシスタントの交通費として、(株)シンジェンタジャパンからのサポートあり。
- ・肥料・培養土・プランターや鉢・スコップなどは、学校側が用意。

■ これまでの成果

- ・2011年より16年まで、6回実施しているが、1回行った学校はリピートする。
- ・学校がきれいになり、同時に明るくなった。

■ 参加者からの感想（児童、生徒、保護者）

- ・子供たちが、先生にビオラの様子を日々報告してくれる。
- ・植え付けの様子を家に帰り保護者に楽しかったと報告してくれた。
- ・子供が花に関心を持つようになった。
- ・花好きの祖父母と一緒に自宅の花を手入れするようになった。
- ・早速、ホームセンター等にビオラを買いに行き、自宅に植えた。

■ 今後の課題やその改善方法

栽培指導に植え付け時だけではなく、その後の管理についても継続的に関わるとよい。

水苔で作る顔付き苔玉「こけっぴ」作り

作成者：緑花星 主宰 代表 石戸 明一

■ 実施主体

名 称：緑花星

担当窓口：石戸 明一

所 在 地：埼玉県川口市鳩ヶ谷本町

H P：http://ryokukasei.com/

■ 取組地域 主に関東エリア（東京都・埼玉県・神奈川県・千葉県等）



■ 概要

水苔を使って、顔付き苔玉「こけっぴ」を作る。

土を使用せず、水耕栽培の技術を使って作るため、室内でも楽しみやすい。小さい子どもから親子教室、小学校の授業と幅広い場で実践が可能で、誰でも簡単に作ることができる。

■ 指導の内容と目的

- ・ 苔玉の球体の形状を生かした顔付きの苔玉を作り、植物に対する愛着や優しい心を育む。
- ・ 顔を付ける事により、自分が親になった気持ちで愛情を持って育てることができる。
- ・ 植物の日々の成長を楽しみながら観察できる。
- ・ 工作用モールで、好きな顔や好きな表現ができ、創作意欲も育む。
- ・ 作った苔玉を、友達の誕生日や母の日等の行事にプレゼントして感謝を伝える。
- ・ 苔玉作りを通じて、植物にも関心を持ち日本の伝統文化の一つである「盆栽」にも興味を持ってもらいたい。

■ 対象者への配慮

- ・ 必要な資材は一人分ずつ用意する。
(例えば、木綿糸は共通で使うことをせず、必要な長さを切り分けておくなど)
- ・ 園芸用の手袋は使用せず、素手で丸めたりして水苔の触感を楽しむ。
(手にケガがある人や肌の弱い人を除く)
- ・ 手の小さい小学生は、水苔を丸めて糸を巻く作業が大変な時もある。
その場合は、作業途中で少し手伝うようにする。
- ・ 気持ちを込めて作るよう「皆さんのカワイイ『こけっぴ』を作りましょう。愛情をもって作ってくださいね」等の声かけをする。
- ・ ハサミは先端の丸いものを使い、刃物の扱いに注意をし、ケガをしない様に気を配る。
- ・ 道具の後片付けや、ゴミの分別なども最後まで指導する。

【取り組み内容】

- 対象者・人数：小学校中学年以上（3年生～）5～40名
- 所要時間：45分
- 指導者：指導者1名、アシスタント1名

<顔付き苔玉「こけっぴ」づくり>

■ 資材

- ・ 木綿糸 10m（薄茶色系か白色）
- ・ 工作用モール 長さ約20cmの3本（数色）
- ・ バケツやボール 1リットル位の水が溜められる物（人数分無ければ、生徒各自で持参）
- ・ 割りばし 1本（先端が細いタイプ）
- ・ 新聞紙 机やテーブルに敷く
- ・ ハサミ
- ・ 掃除用具 雑巾・ほうき・ちり取り・ゴミ袋

■ 植物

- ・ 水苔（乾燥） 12g（直径約8cmの苔玉ができる）
- ・ タマリユウ 3株程 ※その他、殆どの観葉植物で栽培可能。

苔玉で使う材料は4品
（タマリユウ・水苔・モール・木綿糸）



工具・備品類
（バケツ・割りばし・ハサミ）



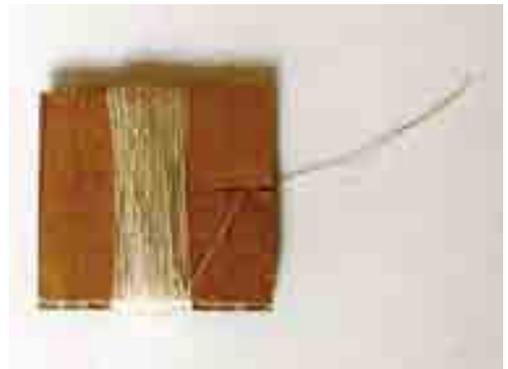
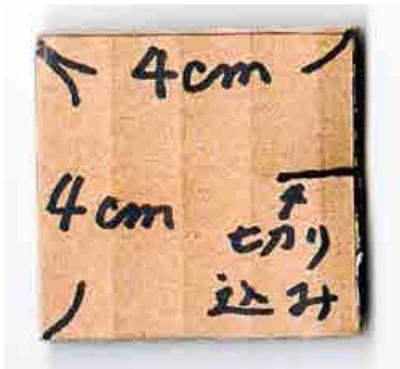
1. 事前の準備

■ 事前の作業

- ・水苔 12g (直径約8cmの苔玉ができる)
乾いた状態の水苔を、電子計りを使い12gずつ袋に小分けにする。



- ・木綿糸を10mずつに切り分ける。
段ボール紙を4cm×4cmに切り、一遍の真ん中に切り込みを入れておく。
糸を110回転して(10mになる)段ボール紙に巻き付けて、糸の最後を切り込みに挟んで止める。



- ・タマリユウを根洗いする。
ビニールポットからタマリユウを抜き取り、水で土を洗い取り除く。
根が長ければ根元から4cm程残して切る。
使用日まで根が乾かない様に、濡れた新聞紙で根の部分を包んでおく。



タマリユウのポット苗



水で根洗いする



根を4cm程残して切る



濡れた新聞で
包んでおく

2. 当日の流れ

全体の時間：（所要時間）45分（13：00～13：45など）

参加人数：5～40名

■ 説明する内容

・ 苔玉について

日本の伝統文化の一つに「盆栽」がある。

その盆栽の樹形や観賞の仕方の一つに「苔玉」というものがある。

・ 水苔について

日本では国定公園や国立公園等の湿地帯に生息している事が多く、保護植物になっている。

通常は外国産の乾燥水苔を水で戻して、蘭やその他の植物の植え込み材料として使われている。

・ タマリユウについて

ジャノヒゲ属

原産地は日本・中国・朝鮮半島

冬でも枯れない常緑性の多年草で秋には紫色の実が付く。

直射日光を好み繁殖力が強い。

・ 水耕栽培について

土を使わずに、成長に必要な養分を溶かした水と光だけで、植物を光合成をさせて育てる栽培方法。

■ 具体的な手順・作業ポイント

① 講師・アシスタント挨拶

苔玉・水苔・タマリユウの説明。

② 水苔を、水を溜めた容器（ボールなど）に入れる。

水苔を水で戻す時には、水苔の中に小枝や枯れ葉が入っているので、指に刺さらない様に取り除き、強く握らずにゆっくりともみほぐす。

③ 十分に水を含み、小枝や枯れ葉が無くなったら

水苔を強めにゆっくり握り、水苔の繊維を柔らかくしていく。

水苔は切らなように揉むようにする。

戻し具合は、水面に水苔の紐状の形が分からなくなるのが目安。



注意：

写真左：×柔らかくしないと、丸めた時にゴワゴワした見栄えの悪い球体になる。

写真右：○よく柔らかくすると、丸めた時に滑らかなきれいな球体になる。



④両手でシュークリームを包む感じで優しくコケを取り、柔らかく握る感じで丸い形状にしていく。水を絞らないで、そのまま水がたれたまま丸めるのがコツ。

水を絞るとまとまらず、綺麗な球体が出来なくなる。

手が小さく、水苔を丸めて糸を巻く作業が大変な時は、作業途中で少し手伝うようにする。

バケツに残ってる水苔は、残さず全部すくい取るようにする。



⑤木綿糸の先端を左手の親指ではさんで留めて、糸を球体に巻き始める。

玉の形状を保ちながら、万遍なく巻く（10メートルを使い切る）

木綿糸は張り過ぎず、ゆる過ぎずがコツ（糸が軽く水苔が食い込む程度の圧力）

（張りすぎると苔玉が小さくなってしまい、ゆる過ぎると糸がたるんでしまう）

木綿糸の最後は、そのまま水苔に巻きつけて終わり。（糸の終わりは結ばない）



注意：

同じ所ばかり巻いていると、同じ個所に
圧がかかり、ハンバーグみたいにつぶれてしまう。

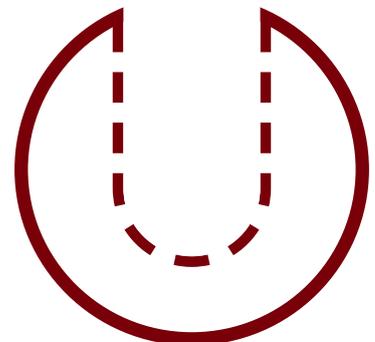


⑥糸が巻き終わったら綺麗な球体になるように形を
整える。



⑦苔玉の上から指を入れて、穴を開ける。

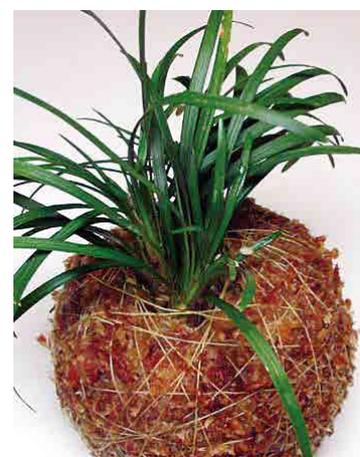
両指が2本入る位の穴を開ける。（穴が小さいとタマリユウの根が植えられない）
下に突き抜ける手前辺りまで深く開ける。



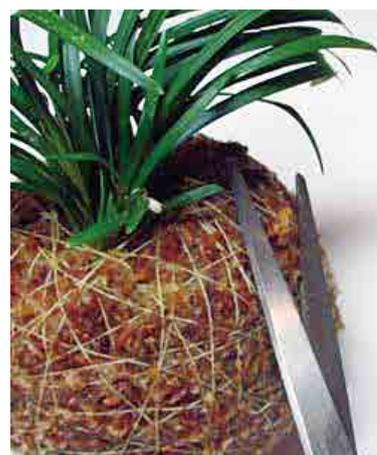
苔玉を横から見た図指二本
入るくらいの穴をあける

⑧タマリユウを穴の中に植え込む。

タマリユウの根の先端を細く束ねて、糸にひっかけないように奥まで植え込む。
入れたら、おにぎりを握る感じで穴をふさぎ、形を整える。



⑨突起している部分の水苔をハサミで切って全体的に丸く滑らかにする。



⑩苔玉の正面を決めて、モールを使って顔を作り付ける。

モールは、適当な長さに切り、好きな形を作った後、苔玉に差し込む為の爪を
モールの先を1cmほど折り曲げる。



⑪好きな顔を作り、余ったモールで手や飾り等好きな形にして付けて完成。

苔玉に、割りばしをネジ込む様に2cm程の下穴を開ける。穴を開けておかないとモールを差し込めない。



所要時間や配分

- 開始60分前 ①集合・学校の主催者への挨拶・打ち合わせ
会場準備（床・机面養生・材料運び込み・配布、水の用意）
- 5分（5分） ②児童集合・挨拶（講師・アシスタント自己紹介）
材料、苗の説明
- ↓
- 35分（30分） ③作品作り
・水苔の水戻し
・球体に丸める
・糸を巻く
・植物を植える
・顔を付けて完成
- ↓
- 45分（10分） ④後片付け・管理方法説明

■ 作品観賞方法 長く楽しむための管理方法説明

・飾り方

お好きな形や色の受皿の上に置いて管理・観賞する。

顔付きなので、名前を付けて愛情を注いで楽しむ。

・置き場所

部屋の中の間接光が当たり、風通しが良い場所に置く。

・水やり

苔玉が半乾きになったら、バケツに水を溜め、苔玉の部分だけ1分程水に浸す。

※注意

部屋の温度や日当たりにより乾き方が違うので、苔玉の表面を触って水分量を確認する。

・肥料

水と光だけで十分育つ植物なので、肥料は必要なし。

・害虫対策

外部から侵入してきた虫が苔玉に住み着く事があるので、定期的に殺虫殺菌剤を散布した方が良い。

・剪定

タマリユウの葉が伸び過ぎた時は根元近くから葉を切って間引く。

又、枯れた葉はその都度ハサミで切る。

3ヶ月位経つと苔玉の下に根が回ってくるので、伸びすぎた根は切っても構わない。

・観察

日々の観察の中で、気付いた点をメモしたり、変化してきた植物を写真に撮影したり、スケッチしたりして成長記録を付ける。

※さまざまな植物を使って「こけっぴ」を作ることができる。



多肉植物で作るこけっぴ



テーブルヤシのこけっぴ

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・自分の誕生日の花や花言葉を知ること、花や植物に興味を持つきっかけにしていきたい。
- ・自分で作る事によって愛着を感じてもらう。
- ・植物には、さまざまな色合いがある、珍しい色の花や植物を紹介することで興味を持ってもらう。
- ・身近な野菜や果物をの花を題材にした話やクイズを出題して、植物にも関心をもってもらおう。

■ 経費

- ・1人当たり500円程度（使用する植物や顔のパーツなどにより金額は変わる）

■ 参加者からの感想（保護者）

- ・顔付きなので自分の子供や友達の様子が可愛がってくれる。
- ・植物の変化の気づき分かる様になった。
- ・他の園芸にも興味を持つようになった。
- ・将来お花屋さんになりたいと子供が言っていた。

■ 今後の課題やその改善方法

- ・教室で教えた事を家でも実践できる資料や園芸キットを作りたい。
- ・子供の小さな手でも一人でできる作品を考案したい。
- ・特別な材料を使わずに誰でも簡単に購入して作れるマニュアルを作成。
- ・花育を身近に生活や学校で取り入れる為の活動を増やす。

幼稚園の園庭を活かした花のある環境作り

作成者：花育アドバイザー 佐藤 幸子

■ 実施主体

名称：花育アドバイザー
担当窓口：佐藤 幸子（岩手県盛岡市）

■ 取組地域 岩手県盛岡市
岩手大学教育学部附属幼稚園



■ 概要

岩手大学教育学部附属幼稚園は、緑が豊かで四季折々に変化のある恵まれた園庭の自然環境がある。花と緑を効果的に配することでよりよい幼稚園環境作りをする。

身近な資材を使ったペットボトルのハンギングや廃材を活用した花壇を作り、年間を通して花のある園作りを行う。

■ 取組開始時期・経緯

花を育てる知識と花育の実践経験を持っていたことがきっかけで、2010年度4月に、地域との関わりを模索していた岩手大学教育学部附属幼稚園の園庭で、花壇作りや花の栽培を行う花育活動を開始することとなった。

以後2016年度までの6年間に渡り継続して4月～11月に栽培活動を行った。

■ 目的（目標）

- ・幼稚園の環境の中に、季節の花や植物を植栽して、身近に花や緑に触れる機会をつくる。
- ・日常の遊びの中で、多種多様な植物に触れる機会を作り、五感を働かせた様々な体験を通して「心身ともにたくましく、心豊かな子ども」を育てていく。
- ・自然豊かな花のある環境で遊びを通して感性を育む。

【取り組み内容】

- 対象者・人数： 幼稚園児（年少・年中・年長）100人
- 所要時間： 保育時間内・降園後
- 対象場所： 幼稚園園庭
- 指導者・アシスタント人数： 花育アドバイザー1名、幼稚園職員5人、保護者10人

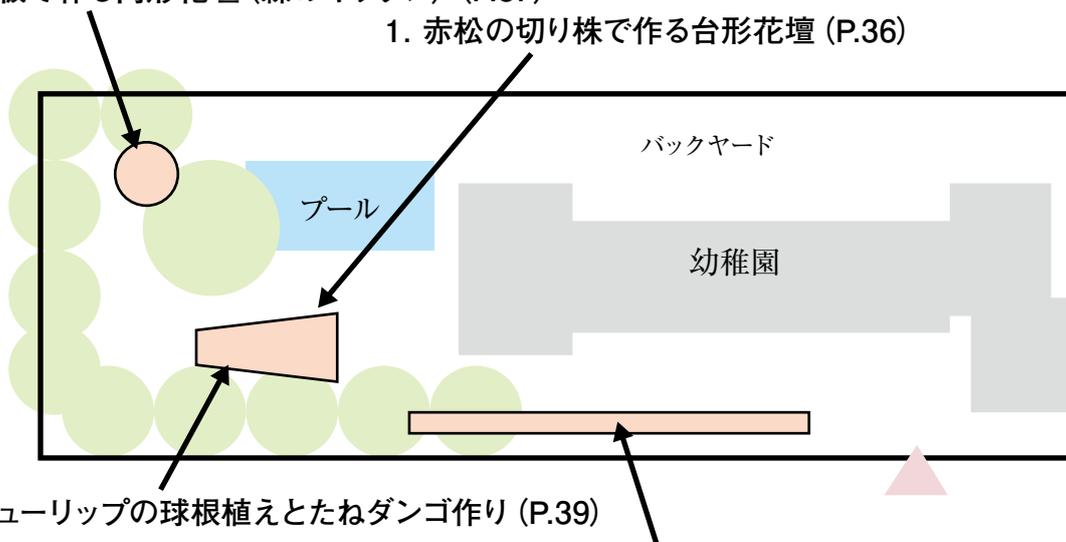
■ 活動内容（指導内容）

- ・先生方から年度ごとの植栽計画を聞き、園庭花壇で春の芽吹きから秋まで楽しめて遊ぶことのできる花壇作りや栽培方法の提案をした。
- ・生育状況を見ながら施肥・メンテナンスのアドバイス。
- ・ペットボトルのハンギングバスケット制作指導。
- ・秋植え球根植え付け・たねダンゴ作りと植え付けの指導。

■ 園内マップ 1.～4.の取り組み場所

2. 畔板で作る円形花壇（森のキッチン）（P.37）

1. 赤松の切り株で作る台形花壇（P.36）



4. チューリップの球根植えとたねダンゴ作り（P.39）

3. ペットボトルのハンギングバスケット（P.38）

1. 赤松の切り株で作る台形花壇（年長児）

2014年10月北側中央の日当たりの良い場所に園庭の赤松を伐採した切り株を使用して花壇製作を提案。先生方立会いの下で花壇面積と形を決め、土壌の掘り起こしをした。赤松の切り株を配置後、固定の為に、横板を地下部で上下2段にして釘で固定。プランター栽培した後の培養土を花壇の用土とし、鶏糞堆肥と化成肥料を投入してリサイクル活用した。以後秋に鶏糞堆肥と化成肥料を施し、夏は化成肥料を施す。秋にバックヤードで、プランター栽培後の土に堆肥を投入して再生土壌を作り、花壇で使用している。

■ 資材

- ・切り株（赤松リサイクル）
- ・平板（柵板リサイクル）
- ・釘
- ・ハンマー
- ・用土
- ・鶏糞堆肥
- ・化成肥料



切り株を再利用して台形花壇を作った

■ 経費

- ・鶏糞堆肥 300円×4袋 化成肥料1.3kg

2016年10月古タイヤを積んで作ったコンテナで高低を出し、花のある空間を作った。



台形花壇はチューリップが満開に



古タイヤの花壇と台形花壇

2. 畔板で作る円形花壇(森のキッチン) (年長児)

2015年秋 隣接する中学校の樹木伐採にともない、日あたり等環境が変化した。

2016年5月 円形花壇を制作し園児が回遊してなおかつ植栽が改善し、園児に手の届く利用しやすい花壇に改修した。

■ 資材

- ・杭
- ・スコップ
- ・化成肥料
- ・かなや槌
- ・一輪車
- ・用土
- ・鶏糞堆肥



既存の花壇の様子

■ 経費

- ・円形花壇 畔板 1枚400円×4枚 プラ角杭 230円×20本



既存の花壇の横に円形花壇を増設



花壇に花苗を植え付けた

3. ペットボトルのハンギングバスケット(年長児)

2010年より5月上旬にペットボトルのハンギングバスケットを制作して園庭を飾っている。
 ペットボトルにアクリル絵の具で色付けして自分だけのハンギングバスケット容器を制作。
 5月から11月まで園庭で園児が水やりをして管理。(夏季休暇中は自宅管理)

6月には盛岡市主催の「もりお花(か)ハンギングバスケットフェア2016」に招待展示として飾った。

■ 資材

- ・2Lペットボトル容器
- ・ビニールテープ
- ・アクリル絵の具
- ・ハンギングバスケット用のスポンジ
(隙間テープ)
- ・培養土
- ・結束バンド ・ミズゴケ



満開のベゴニア

■ 花材

- ・花苗 ベゴニア ・インパチェンス ・パンジー

■ 経費

- ・花苗など 一人当たり500円程度



アクリル絵の具でペットボトルを園児が色つけ



保護者の方々と一緒に制作



水やりお当番さんは誇りあるお役目



もりお花(か)ハンギングバスケットフェア2016

4. チューリップの球根植えとたねダンゴ作り(年中児)

11月には、年中児と一緒にチューリップの球根とたねダンゴを台形花壇に植えた。

■ たねダンゴづくり資材

- ・ケト土 極小赤玉土 培養土
- ・ケイ酸塩白土
- ・園芸用受け皿・プリン等容器

■ 花材 ・種

秋播き ネモフィラ 菜の花 ヤグルマギク ニゲラ
リナリア キンギョソウ スイートアリッサム
アグロステンマ ゴデチャ チューリップ球根

〔 春播きの場合 アサガオ ヒマワリ
 クリムゾンクローバー マリーゴールド
 コスモス サルビア 〕

■ 経費

- ・種代 7000円程度、球根100球



土とケト土を丸めてダンゴにして
種を周りについたらたねダンゴの出来上がり



球根を土に埋めてその上にたねダンゴを置く

11月花壇の草花を撤去して
花壇にバックヤードの土を運び鶏糞堆肥混入。
耕して整備しておく。
たねダンゴをつくる。
チューリップの球根を土に埋める。
球根を植えた場所に土をかぶせた後に
たねダンゴを1つ置く。



いろんなチューリップがあることに気づく

■ たねダンゴ花壇の花を使った遊び



花を使ったおままごと



きれいな花の料理ができました



色々な花のコーヒーになりました

吸水性スポンジを使って、
小さなフラワーアレンジメント作りにも挑戦

■ 指導のポイント

- ・春先から晩秋まで花が絶えないような植栽プランを提案。
- ・プランターで使用した培養土を再生して、花壇の土として活用している。
- ・先生方と情報を交換しながら計画をして進める。

■ 園児に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・なるべく園児が理解しやすい言葉づかいで話す。
- ・はっきり、ゆっくり、ボディランゲージも加えて話す。
- ・年中児の時に、たねダンゴや球根を植えることで、春を迎えることに期待が持てるようにしている。
- ・年長児になるとペットボトルのハンギングバスケット作りができるという誇りを持たせる。
- ・球根植えの頃になると先生方が絵本等で季節に応じた導入をしている。
- ・保育時間内に園庭のメンテナンスに伺い園児と触れ合っている。

■これまでの成果（岩手大学教育学部附属幼稚園 副園長下山先生からのコメント）

1. 花育活動に参加して

- ・以前から、四季折々に花がある環境づくりに取り組んでいましたが、佐藤さんのご指導の下、新たに花壇を増やしたり、花壇を作り替えたりしてきました。その結果、花の種類もプランターの数も増えました。また、教員の花への関心、意識も高まり、環境を生かして保育をするようになってきました。
- ・子どもたちは、花がある環境の中で、美しさに心が動いたり、花を遊びに取り入れる際には、色彩にも関心が向いたりしています。
- ・花がある環境の中で、きれいな花を集めることを楽しんだり、色水をつくったり、ケーキを作って飾ったり、多様な活動が生まれ、一人一人が多くのことを学んでいます。

2. ベゴニアのハンギングバスケット

- ・一人一人が自分でハンギングバスケットを作り、ベゴニアを植えるという活動を通して、愛着が生まれ、毎日の水やりなどの世話をしようという意識が生まれています。
- ・マンション住まいなどで、花を植える体験がない子もいます。子どもだけではなく、親世代でも経験がない方もいます。夏休みには、家に持ち帰って世話をしてもらいますが、親子で花を育てる体験をすることになるので、親御さんの自然への関心や意識を醸成することにも一役かっているように思います。

3. たねダンゴ作り

- ・年中組の秋の終わりにたねダンゴづくりをします。春夏と土に触れて遊びを楽しんできた子どもたちにとって、たねダンゴづくりは、抵抗なくやれる無理のない活動です。
- ・花が咲くのは、冬を越し、春が来てからです。花が咲く時期を待つ時間は、自分の成長を重ねることができます。自分が年長組になることへの期待、一番大きい組になる少し先の未来を思い描き、自分の可能性のイメージを広げることに繋がります。年中組から年長組をまたぐこの活動は、このようなことから意義深いと感じます。

■今後の課題やその改善方法

- ・様々な種類の花を使用するので、種から苗を育てるなどの方法で、予算面の解決を考えていきたい。
- ・グリーンカーテンにはアサガオだけでなく、その他のグリーンカーテンに向く品目の栽培も提案していきたい。
- ・園の畑では大根、サツマイモ、枝豆などを栽培。コンテナでの野菜作り経験が足りないこともあるが、新しい野菜品種などの栽培にも目を向けて、園を訪れる方々にも興味をもってもらえるような工夫していきたい。

岩手県久慈市「あまちゃん」の小学校を花いっぱい！

作成者：花育アドバイザー 佐藤 幸子

■ 実施主体

名称：花育アドバイザー
担当窓口：佐藤 幸子（岩手県盛岡市）

■ 取組地域 岩手県久慈市 久慈市立小袖小学校



学校で一番大好きな場所です！

■ 概要

岩手県久慈市立小袖小学校は、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」の舞台になった風光明媚な三陸復興国立公園に位置する学校で、東日本大震災からの復興に向けて取り組んでいる活気ある地域。

小袖地区は、リアス式の海岸段丘が入り組み平地の少ない地域のため、小袖小学校では、花壇や中庭を整備することで、東日本大震災の大きな被害を受けた地域の人々の心を癒して勇気付けようと考え、花壇などの環境整備を図る活動を学校活動の重点を置いている。

■ 取組開始時期・経緯

2016年2月	小袖小学校から中庭・噴水池跡の（日陰：13m×9m=117㎡）の活用の依頼があり、理科の授業時間に花育活動を実施、花壇作成の提案を行う。
2016年4月	中庭への花植え①下草や花苗を植える
2016年5月	中庭への花植え②樹木の定植と底面給水コンテナへの植え付け
2016年11月	花育アドバイザーへの感謝の会

■ 目的（目標）

- 1：小袖小学校の中庭を整備して活用をする。
体育館・音楽室・低学年廊下・水飲場の四方を囲まれた中庭を、花いっぱいの明るい場にする。
- 2：花で「学校」「子どもの心」「地域」を明るくする。
日陰で湿気が多くジメジメしていた場所を、花や植物を植えることで明るく学校で一番大好きな場所になるようにする。

【事前準備(学校用務員さんに依頼した事項)】

花を植える前に、既存の中庭を整備する

- ・池の跡地から砂利を取り、培養土を縁石より10cm程高い小山になるようにする。
- ・枯木・枯れ枝などの不要な樹木を整理して処分する。
- ・ツタや雑草などを除去をする。
- ・大型のプランターを準備して培養土を入れておく。



赤い囲みの所を整備します。



【中庭への花植え①下草や花苗を植える】

4月14日

- 対象者：小袖小学校 3・4年複式学級 8名
- 教科：理科
- 所要時間：1時限（45分）
- 対象場所：小袖小学校 中庭
- 指導者数：1クラス講師1名

■ 資材

・培養土 ・移植ごて ・スコップ ・大型コンテナ

■ 花材

<半日陰でも比較的強い植物>

- ・黄斑ヤブラン、エリゲロン、ギボウシ3種
- リグラリア、ニシキシダ、プルモナリア
- ミツバシモツケ、フシグロセンノウ
- ユキモチソウ、レンゲショウマ
- タイツリソウ、カンパニュラ、ベロニカ
- タマザキサクラソウ

【手順や流れ】

1. 苗の植え方を考えましょう！
 - ・花の名前と葉の形状と色。花色・花弁の特徴説明。
 - ・日当たりを好む植物、日陰に強い植物について説明。
 - ・植付け時の植穴の深さ、苗の扱い方。
 - ・植付け時に花が咲いている苗を植える。
(タマザキサクラソウ)
2. 苗を植えたい場所を考えましょう！
 - ・日当たりの状況と植物の特徴を考慮して分類作業。
 - ・自分が植えたい場所は、植物にとってはどうでしょうか？
子どもたちが植える場所を考えるようにします。
3. 全体のバランスを考えましょう！
 - ・小さな苗が成長した時やこれから伸びる根のことも
考え株の間隔をあける。



どんな中庭に生まれ変わるかな？



きれいな花がいっぱい。植えるのが楽しみ



植えたい場所に、花苗を置いていきます



とてもいいバランスです

- ・葉の色をよく見て互いが引き立てあう配置を決める。
- ・植える場所には、穴が掘れるか、土の深さを確認して植えることが必要。

4. 仕上げは、おいしい水です！

- ・配置が決まったら植穴を掘る。
- ・丁寧にポットから外し手を添えて植穴にそっと置く。
- ・土をかけて軽く押さえる。
- ・植付け後は、たっぷりと水やりをする。
- ・水やりで土が下がったり、穴があいてしまったところは土を埋め戻す。



最後の仕上げは、おいしい水です！



校歌から「躍進の森」と名付けました！

【中庭への花植え②

樹木の定植と底面給水コンテナへの植え付け】

5月26日

- 対象者：小袖小学校 3・4年複式学級 8名
- 教科：理科
- 所要時間：1時限（45分）と中休み（20分）
- 対象場所：小袖小学校 中庭
- 指導者数：1クラス講師1名

■ 資材

- ・スコップ
- ・ジョウロ
- ・プラスチックコンテナ ※右図参照
- ・厚手のビニール袋（72ℓ）
- ・底面給水フェルト資材
- ・培養土
- ・防草シート
- ・長くて丈夫なぬい針（縫いぐるみ針など）
- ・ナイロン糸（8号）

■ 花材

- ・ツバキ（樹木）
- ・インパチェンス（大株になる植物）



2階からは中庭がよく見える



プラスチックコンテナ

■ 活動内容（指導内容）

前回4月の活動は、花苗のみの植え付けだったが今回は、花の咲く樹木も植栽する。樹形が保ちやすく小学校の中庭に冬になると可愛らしい花の咲く木を植えることを説明。樹木の植込みの手順説明と注意点を指導。植穴を根鉢にあわせてスコップで掘り植栽。

花木植栽前に 前回4月14日活動後の花の生育状況を見
童と確認。観察しているようすをみてそこからの観察
のポイントを指導。



ツバキの樹木を植える

【手順や流れ】

1. 底面給水という方法でインパチェンスを大きく育ててみよう！

- ・インパチェンスという植物は、水をたくさん必要とする。底面給水で育てると大きく育つことを説明した。
- ・球根用のプラスチックコンテナを利用して底面給水ができるコンテナをつくることを説明。
- ・底面給水にすることにより休日、長期休暇時の水やりが楽になる。
- ・プラスチックコンテナを重ねて活用することで水をたくさん貯めることができ、高さが出せる。



プラスチックコンテナに
底面給水用シートを取り付ける。

〈底面給水コンテナの作り方〉



①コンテナの上段に、土が網目からこぼれ出ないように不織布を敷く



②不織布の中央に4か所穴を開けて、細長く切った不織布を交差させて、端をコンテナの底まで垂らす



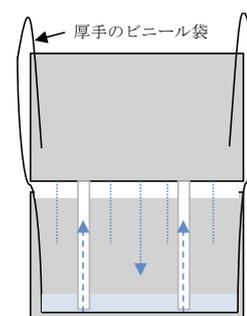
③下段のコンテナの内側に厚手のビニールを敷き、その上に上段を乗せる



④上段の側面に、空気穴を数か所開ける（ハサミなどで2～3センチ程度）



⑤上段の側面のビニールは、コンテナの内側に折り返す。※右図参照
これは、下段に溜まった水に蚊や虫などが入らないようにするため。



⑥水やりでしみ込んだ余分な水は、下段のコンテナに溜まり、水分が必要な時には不織布を伝って下段から水分を給水する。

2. 培養土を入れてみよう！

- ・プラスチックコンテナを設置する場所へ移動。
- ・プラスチックコンテナに厚手のビニール袋を入れたら培養土を入れていく。
- ・培養土24Lが何袋はいるかな？
- ・肥料を培養土に入れて混ぜる。



ビニール袋を折り返し培養土を入れる。

3. インパチェンス（大株）を植えつけよう！

- ・一つのコンテナに2株を目安に植え付ける。
- ・花苗の植え付け。
- ・水やりで作業終了。



グングン育つインパチェンス！

4. 仕上げは、カバーの取り付け。

プラスチックコンテナやビニールの袋が見えてしまうので防草シートを折り返して、プラスチックコンテナのカバーとして加工する。

これから咲いてくる花たちが引き立つ色合いで見た目も違和感なく中庭に馴染む防草シートを選択。

コンテナに縫い付ける作業は大人が行う。



コンテナにカバーを縫い付けます。



手でカバーを縫うのが大変な時は、コンテナのサイズに合わせて、袋状にミシンで縫っておいてもよい

■ 指導のポイント

- ・ 花育をどのように活用して学校に導入するのか育成場所・育成方法などを校長先生・担任とコミュニケーションを取りながら把握してアドバイザーができる指導を提供する。



落ち着いた中庭に大変身！

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・ 「花や緑が大好きな私達と一緒に花を育てましょう」という姿勢で指導。
- ・ 植栽する苗のそれぞれの特徴と魅力を説明する。
- ・ 児童に寄り添うときや、手を添えるときには声をかける。
- ・ 使用する道具の使い方を説明をして実際に使用。



■ 経費

- ・ 中庭花壇制作費 花苗、資材費 代金 30,790円
他花苗資材については、学校が応募していた企業のキャンペーン企画や支援等を活用した。

■ これまでの成果

- ・ 花や友達に対しての優しい気持ち、思いやりの心が育ってきた。
- ・ 季節や花の移り変わりなど、四季への感受性が豊かになってきた。
- ・ 水やりなどの仕事を含め、係り活動などを協力して丁寧に行っている。
- ・ 花の観察で自立心、自主性が育ってきていると感じている。



ペチュニアなども植えて
素敵な庭園になりました

■参加者からの感想（児童）

- ・中庭にいろいろな花を植えて楽しかったです。
- ・自分の家にも、花を植えてみたいと思いました。
- ・当番で水をやるのが、おもしろかったです。
- ・中庭で読書をしたり、遊んだりするのが大好きです。

■今後の課題やその改善方法

- ・中庭の改善は、まだ1年目であり、これからも継続的な指導をしていきたい。
- ・学校の予算は厳しく、継続的な支援をお願いしたい。
- ・一年草だけではなく多年草や樹木を植えることで、継続的に観察ができ、花苗代などの経費が節減できる工夫をしていきたい。



子どもたちからのお礼の手紙

キッズジョブまつやま2016での(子ども職業体験イベント) お花屋さん体験

作成者：NPO花育・花活プロジェクトえひめ 代表 渡部 千恵美

■ 実施主体

名 称：松山市小中学校PTA連合会
NPO花育・花活プロジェクトえひめ
担当窓口：渡部 千恵美
所 在 地：愛媛県松山市
S N S：花育・花活プロジェクトえひめ
<https://www.facebook.com/>



■ 取組地域：愛媛県松山市内

■ 概 要

「キッズジョブまつやま2016」は、松山市内の小中学生に仕事の意義・仕組み・やり方を体験してもらうことにより、働くことの楽しさや厳しさを学び、地元企業への関心と理解を深めることを目的としている。子ども職業体験イベントとして、さまざまな仕事を体験することができ、子どもたちが将来どのような仕事をしたいか、また、どのような仕事があるのかを発見できる。この中の職業体験の一つ、「お花屋さん」ブースを担当し指導した。

このイベント全体の参加者は、1000人を超える。

■ 取組開始時期・経緯

2014年から始まった子ども職業体験イベント「キッズジョブまつやま2016」では、松山市内の企業や団体の協力により約60種類の仕事の紹介と、職業体験の指導を行っている。

初年度から「お花屋さん」ブースを担当し、今年で3回目となる。

今年には249名の子供たちの参加があった。

■ 目的（目標）

職業体験を通して仕事への興味や関心を持つことで、将来の目標をもつきっかけになるとともに、家族で将来を語り合う絶好の機会になる。

「お花屋さん」の仕事を体験することで、花や植物がどのように生産者から市場、小売店、消費者まで流通するのかを学んでもらう。また、フラワーアレンジメント体験では、花や植物に触れる機会を通して、花に興味を持ってもらう。

「キッズジョブまつやま」の仕組み

1. 60種類ある職業の中から体験したい職業を3つ選んで、事前に申し込みをする。
(参加校が取りまとめて応募)
2. 当日は、事前に受け取っている「名札」を受付に提示する。記念品とイベント専用の通貨100きゅん（50きゅん×2枚）を受け取る。
3. お仕事体験
3つの希望した仕事のスケジュールを確認して会場に行く。体験しない職業も見学ができる。
4. お給料をもらう
お仕事を体験すると専用の通貨でお給料が支払われる。
(1時間100きゅん)
5. お買い物をする
もらったお給料（専用通貨きゅん）を使って会場内でお買い物ができる。



当日のタイムスケジュール

時 間	体験授業	1班（小学1年～4年生）	2班（小学5年～6年生）
9：00～9：25		開会式	
		移動・準備	
9：50～10：35	1コマ目	1時間目 体験授業	開会式
		移動・準備	移動・準備
10：50～11：35	2コマ目	2時間目 体験授業	1時間目 体験授業
			移動・準備
11：50～12：35	3コマ目	昼休み	2時間目 体験授業
12：50～13：35	4コマ目	3時間目 体験授業	昼休み
		移動・準備	
13：50～15：35	5コマ目	4時間目 体験授業	3時間目 体験授業
		移動・準備	移動・準備
14：50～15：35	6コマ目	閉会式	4時間目 体験授業
			移動・準備
16：05～16：20			閉会式

【取り組み内容】

- 対象者・人数：松山市内小中学生
お花屋さん体験参加者 249名
- 教科：（職業体験）生活科、総合的な学習など
- 所要時間：1時限（45分）
- 対象場所：地域のコミュニティセンター、小学校など
- 指導者：1クラス講師1名、アシスタント3名



お花さんの受付

<お花屋さん体験>

- 資材 ・器
 - ・吸水性スポンジ
 - ・リボン
- 花材 ・カーネーション
 - ・ガーベラ
 - ・ケイトウ
 - ・ユウカリ



お花さんの体験教室会場

■ 活動内容（指導内容）

● 「花の流通」 についての説明

花がどこから運ばれてくるのか、紙芝居を使って説明する。日本には、全国にさまざまな産地がありたくさんのお花が作られている。



写真を使って説明

紙芝居を使って説明を行った。

- ・市場には、全国の花の生産者が大切に育てた花がトラックで運ばれてくる。
- 季節によってさまざまな花が市場に集まる。



※説明に使用した「紙芝居」の写真
市場には、色々な種類の花が運ばれてくる

- ・集まった花は、「セリ」にかけられる。
「セリ」とは、花の値段を決める方法のことをいう。花を持った人たちは、市場のセリを担当する人で、その花を欲しい人がたくさんいると値段は上がり、欲しい人が少ないと値段が下がる。

説明に使用した「紙芝居」



たくさんのお花がセリ落とされる

- ・お花屋さんは、セリで買った花を車に乗せて店に持ち帰る。買った花が潰れたり、傷がついたりしないように大切に運ぶ。



お花屋さんのトラック

- ・店に持ち帰った花は、トゲを取ったりいらぬ葉を取り除き、水揚げ（水の中で茎を2~3cm程度斜めに切り水を吸わせること）などの下処理をしてから店頭で並べる。お花屋さんでは、水を吸い上げて元気になった状態の新鮮できれいな花を販売している。



バラのトゲを取っている所



本数を数えて新聞紙で巻いている



お花屋さんで並べられた花

●フラワーアレンジメント体験

- ・お花屋さんの仕事についての説明
「いらっしゃいませ」の挨拶から仕事が始まる。
- ・花の扱いについて
使用する花の説明、花の名前、特徴を聞く。
- ・お客さんの注文のアレンジメント作品を作る。
- ・ハサミの使い方、茎の切り方の説明を聞き
茎を切ってみる。手を切らないように注意する。
- ・花の色や形、硬い茎、柔らかい茎、細いもの
太いもの、使用する器の大きさなどのバラン
スを考えながら、全体のイメージを考えていく。



いらっしゃいませの練習から



花をよく見て配置を考えて挿していく



作品を作るときは真剣



四角いボックスにアレンジした作品



丸いボックスにアレンジした作品

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・説明用の写真をパネルにして、紙芝居形式でわかりやすく興味を引くようにしている。
- ・フラワーアレンジメントを体験してもらうことで、花の特徴などを知り、色々なことに気づいたり、感じてもらう。
- ・参加者の個性を活かして、創造性を養うように、デザインの強請はしない。
- ・楽しんで取り組めるように、良いところを褒めるなどの声掛けをする。

■ 経費

- ・1人当たり（花材・資材費）500円

■ これまでの成果

- ・今回で、「お花屋さん体験」は3回目ですが、年々希望者が増えている。
- ・前回参加した子が、今年度も2年続けての参加があり、花に興味を持ってもらえている。
- ・お花屋さん体験がきっかけとなり、学校の授業でも花育を取り入れてもらえることにつながった。
- ・保護者からの評判がよく大変喜んでもらった。

■ 参加者からの感想

（児童）

- ・普段売られている花がどのようにしてお花屋さんのお店に並ぶかがわかった。
- ・市場にも行ってみたい。
- ・花屋さんにはたくさんの仕事があることがわかった。
- ・アレンジメントが思うようにできてよかった。
- ・初めは難しかったけど説明を聞いてできた。たのしかった。
- ・花を買いに行こうと思う。

（教師）

- ・次回は子供と一緒にやってみたい。
- ・学校の事業でもやりたい。
- ・男の子が夢中になっていた。
- ・子供たちが生き生きしてやっていたのが印象的でした。

■ 参加者からの感想（抜粋）

今日はBOXアレンジをつくらせてみて、3,4種類の色や種類があったので思っようにできたけども、とたくさんの色や種類があらまっかしかなったと思います。いつも花屋さんで買っている人の手で一つ一つつく。たんだとばかり思っ、何~~も~~もつくるのは大変かもしれないけど、花屋さんにならせてみた、と思っました(おろく)

今回始めてだったのでとても楽しかったです。花屋に花がとどくまでのこと、店にならぶ前のことが、分かるのでよかったです。花をさすときに色あいや種類などのことを考えてつくるのがすごくむずかしかったです。自分なりに楽しくつくれたのでとてもよかったです。花のことがくわしく知れてよかったです。

いつもできないことができてとてもいい経験になりました。お花が店頭^に並ぶまでのことも少し分かったので、お花屋さんに行ったらいつもと違う見方ができるかなと思っました。

お花を、ボックスにつめる時、最初は、どうする、と迷っていたけど、だんだん、構成がっついてきて、最後には、自分なりの花のかざりができたので、良かったです。お花屋にならぶのが、小さいころの夢で、お花屋さんの体験がちょうどできたので、うれしかったです。お花を、お客さんにお渡していくのは、とても大切なことなんだな、と思っました。とても楽しかったし、おもいがあったです。

■ 今後の課題やその改善方法

- ・「花育」は、業界外ではまだ認知度がなく浸透していないので、今後は積極的に学校に働きかけをして活動していきたい。
- ・花を作っている生産者を訪ね、花が育っている様子を見たり、育てる苦勞などを聞いたり現場での様子を知ることも大切だと感じている。
- ・花を触ったことのない子もいるので、このようなイベントをたくさん行っていきたい。
- ・「花育」の実施には、教育委員会との連携が必要であると思う。
- ・愛媛県は、2017年に国民体育大会（国体）の開催県でもあるので、来場者をおもてなしする花の栽培や花の装飾などで大会を盛り上げていきたい。

岐阜県産の花で飾ろう私の学校・種まき体験

作成者：一般社団法人 寄せ植え華道協会 事務局

■ 実施主体

名称：一般社団法人 寄せ植え華道協会

担当窓口：事務局

所在地：岐阜県可児市瀬田1591-1

H P：yoseuekadou.com



■ 団体等構成 花や植物の生態、管理方法、植栽のデザイン等の専門知識を持つ会員で構成

(花育に関しては当協会の正師範資格を有するものが担当)

■ 取組地域 岐阜県内 12校 (小学校9校、中学校2校、特別支援学校1校)

■ 概要

早春から春に咲く花（パンジー・ストック）の種をまき、育てた苗を活用して卒業式などの花飾りにする。また育った花苗を使った寄せ植えを作成する。

「寄せ植え華道」とは

寄せ植えの技術に日本古来の華道、盆栽などの「和」の文化と、ガーデニング、フラワーデザインなどの「欧米」の文化を融合させ、容器や庭などある一定の空間に植物を植栽し、生活空間を装飾するものである。植栽する植物の選定と組み合わせにあたっては、植物の特性、形や色彩、材質を考慮し、物語性、芸術性を追求する。さらに、作品を作成するまでの技術的、精神的課程及び作品の成長に即した維持管理や作品を鑑賞する心の充足など、作品に関する課程のすべてを極めるものである。

このような専門知識を有する指導者が花育の指導にあっている。

■ 取組開始時期・経緯

2014年から岐阜県内での活動が始まり2016年で3年目の活動となる。

2016年の開催時期

8月30日 種まきの1週間前に学校との打ち合わせを行う。

9月7日 種まきを実施。

■ 目的

- ・岐阜で栽培の盛んな植物を育てることを通して、地元の産品について興味を持つことができる。
- ・種から育てることで植物の成長の過程を知ることができる。
- ・水やりなど世話をすることで植物に対する愛情を持ち、育てることの楽しさを感じ、花に対し興味や関心を持つことができる。
- ・育てた苗を使って卒業式の花飾りを作成する。

【取り組み内容】

- 対象者・人数：小学校4年生 1クラス8名
- 教 科：総合的な学習の時間
- 所要時間：2時限（90分）
- 対象場所：小学校 教室
- 指導者：1クラスに講師3名

<種まき体験>

春咲きの植物を種まきして、苗から育てる。

（育てた苗は、4種類の活用方法を選んで実践する。

1. 寄せ植え 2. ハンギングバスケット 3. フラワーアレンジメント 4. いけばな)

※今回の学校は、寄せ植えを選択した。

■ 資材

- ・種 2種類（パンジー・ストック）
- ・セルトレイ
- ・種まき用土
- ・ビニールポット（鉢上げ用）
- ・鉢上げ用用土
- ・カップ（水入れ・種入れ）各自に2個（学校で準備）
- ・つまようじ（一人2本）（学校で準備）

■ 用具

セルトレイに土を入れるために必要なもの
 プラ舟・板・底面給水用の器（育苗トレイで代用）
 ジョウロなど

■ 活動内容（指導内容）

- ・種まきへの興味を持たせるための話（クイズ形式・紙芝居など）
- ・セルトレイに種を一粒ずつまく。
- ・種まき後の管理方法（水のやり方、置き場所など）
- ・発芽した苗の鉢上げの仕方。

1. 導入

種に対する興味づけ「種のお話」
 身近な植物の種や変わった種などの
 例をあげて何の種か、クイズ形式で質問する。





種の標本（11種類の種を用意）

- | | | | |
|-------|----------|----------|---------|
| ①ごま | ②松の実 | ③ナスタチューム | ④ヒマワリ |
| ⑤アボガド | ⑥カラスウリ | ⑦ニラ | ⑧ネコジャラシ |
| ⑨ニガウリ | ⑩フウセンカズラ | ⑪スズメウリ | |



どの植物の種でしょうか？

2. 準備

- ・種まき用土に水を含ませる。



3. セルトレイに土を入れる。

- 湿らせた用土をセルトレイに詰める。
- 表面を板ですり切りながら隙間なく用土を入れる。土を入れ板ですり切る。



4. 種まき開始

- セルトレイに、つまようじを使って種をまく。
- まき終わったところにはつまようじを挿し目印とする。



5. 覆土

まき終わったセルトレイには、フルイを使って細かい土を覆土する。



6. 水やり

セルトレイに新聞紙をかける。
新聞の上からジョウロで水をまき給水させる。
(ジョウロで、用土の上から水をかけると種が流れてしまうので必ず新聞紙の上から水をかける。)
水やりの仕方など説明する。



7. 鉢上げ

発芽したものを持参し実際にビニールポットに鉢上げをする。
箸を使うとよい。



8. 管理方法の説明

- ・置き場所 雨が直接当たらない場所
日当たりがよく風通しの良いところ。
- ・肥料について 鉢上げの後に肥料を与える
肥料はどんなものが良いか与える量など説明する。



9. 最後に紙芝居

「種は旅をする」

自然界では種はいろんなものを媒介して
運ばれ居心地の良いところで発芽する。



■ 紙芝居「種は旅をする」



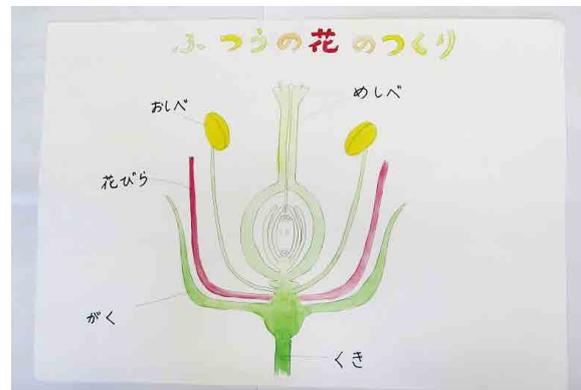
①宇宙で育てたレタスの味は？



④ミツバチは、花の色がわかるかな？



②タネは、色々なところに運ばれる



⑤花のつくり



③花はどのようにしてきれいなのかな？



⑥パンジーとビオラの違い

■ 指導のポイント

単調な作業のため、飽きないように話しかけながら一緒に作業を進める。

種に対して興味を持たせるように工夫をする。（種のお話・紙芝居など）

なるべく子供たち自身で出来るように道具や方法を工夫した。

底面給水は持ち運びがしやすいように苗入れにビニールを敷きコンパクトにする。



■ 経費

種まき用、鉢上げ用の材料・資材・種は岐阜県より配布。

その他の物は、プリンカップ、つまようじ、苗入れなど身の回りにあるものを活用。

■ これまでの成果

- ・これまで授業ではヒマワリ、アサガオなど比較的大きな種はまいて育てる経験はしているがパンジー、ストックなどの細かい種まきは初めてで、根気よく丁寧に蒔くことを体験することにより愛着がわく。
- ・家庭での野菜や草花を育てることに積極的に参加することができるようになった。

■ 参加者からの感想

<児童>

- ・種まきは大変だったが、花の咲くのが楽しみだ。自分が親になった気持ちで大切に育てたい。
- ・こんな小さい種がきれいな花になることを初めて知った。
- ・育てた花を飾ることが楽しみ。
など、やがてきれいな花が咲くことをイメージすることができた。

■ 今後の課題やその改善方法

- ・今回は、パンジー・ストックの花苗を使用しているが野菜などの種をまくことも良いのではないか。
- ・蒔き方も一律ではなくいろいろな蒔き方（たねダンゴ、直播など）も提案できると良い。

岐阜県産の花で飾ろう私の学校・寄せ植え作り体験

作成者：一般社団法人 寄せ植え華道協会 事務局

■ 実施主体

名称：一般社団法人 寄せ植え華道協会

担当窓口：事務局

所在地：岐阜県可児市瀬田1591-1

H P：yoseuekadou.com

- 団体等構成 花や植物の生態、管理方法、植栽のデザイン等の専門知識を持つ会員で構成
(花育に関しては当協会の正師範資格を有するものが担当)

- 取組地域 岐阜県内 11校 (小学校9校、中学校2校)



■ 概要

岐阜県の生産者が育てた季節の植物を使い、寄せ植えを作成する。
(秋に、種まき・ポット上げをして児童が自分で育てたパンジー、ストックなども加える。)

「寄せ植え華道」とは

寄せ植えの技術に日本古来の華道、盆栽などの「和」の文化と、ガーデニング、フラワーデザインなどの「欧米」の文化を融合させ、容器や庭などある一定の空間に植物を植栽し、生活空間を装飾するものである。

植栽する植物の選定と組み合わせにあたっては、植物の特性、形や色彩、材質を考慮し、物語性、芸術性を追求する。さらに、作品を作成するまでの技術的、精神的課程及び作品の成長に即した維持管理や作品を鑑賞する心の充足など、作品に関する課程のすべてを極めるものである。このような専門知識を有する指導者が花育の指導にあたっている。

■ 取組開始時期・経緯

2014年から岐阜県内での活動が始まり2016年で3年目の活動となる。

2016年の開催時期 12月2日寄せ植え作り

■ 目的

- ・岐阜県で栽培された植物や種から育てた植物を使って寄せ植えをつくることで地元の製品について興味を持つことができる。
- ・県内で栽培している植物を知り、花や植物を身近に感じてもらう。
- ・花飾り（寄せ植え）を見る人にも喜んでもらえるような作品作りをする。

【取り組み内容】

- 対象者・人数：小学校3年生 1クラス9名
- 教 科：総合的な学習の時間
- 所要時間：2時限（90分）
- 対象場所：小学校 教室
- 指導者：1クラスに講師3名

<寄せ植えづくり体験>

岐阜県内の生産者が育てた季節の植物を使い、寄せ植えを作成する。

秋に、種まきをして鉢上げしたパンジー、ストックなども加える。

（育てた苗は、4種類の活用方法を選んで実践する。）

1. 寄せ植え 2. ハンギングバスケット 3. フラワーアレンジメント 4. いけばな)

※今回の学校は、寄せ植えを選択した。

■ 資材

花 材：岐阜県で生産された植物

ゴールドクレスト・リナリア・ヘデラ・アリッサム・プリムラジュリアン

種をまいて育てたもの：パンジー・ストック

資 材：プラスチック鉢・培養土・鉢底石・鉢底ネット・バーク

■ 準備品

土入れ・ゴム手袋・飾り（木材で作ったクリスマス用のピック・枝などの自然素材・リボン）

■ 活動内容（指導内容）

テーマは「クリスマス」

- ・花苗の扱い方（ポットの外し方、根鉢の崩し方）
- ・土の入れ方、量（ウォータースペースの確保）
- ・デザイン（植物の配置）の指導。
- ・完成した寄せ植えに飾りをつける。

寄せ植えに飾りつけをすることで季節感を出したり、テーマ性が加わることを知る。

- ・作った寄せ植えは、卒業式の会場にも飾る。

12月～3月まで楽しめる寄せ植え作りを行う。

1. 植物の説明性質や特徴を説明する。
葉や花の形と花の名前を結び付けるように説明する。
例：「チクチクした葉っぱ・いいにおいがするよ」
・・・ゴールドクレスト



2. 鉢に鉢底石をいれ、土を半分ほど入れる。鉢内に、苗をポットのまま配置してバランスを見ながらデザインしてみる。

3. ビニールポットの外し方の指導
苗に手を添えて、ポットを持って外す。

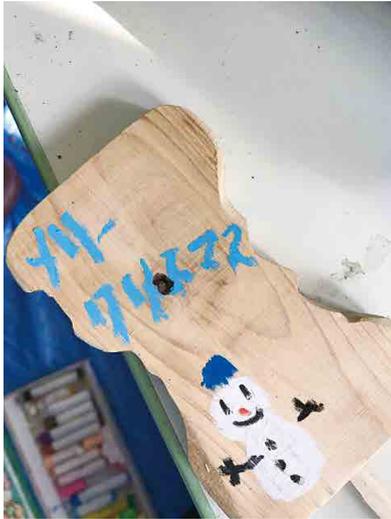


4. 苗を植える
一つずつ丁寧に土を入れる。
根鉢の崩し方も植物によって違うことを説明。



5. 植え終えたらクリスマスの飾りを作り取り付ける。

木材で作ったクリスマス用のピックにクレヨンで思い思いの絵やメッセージを描く。

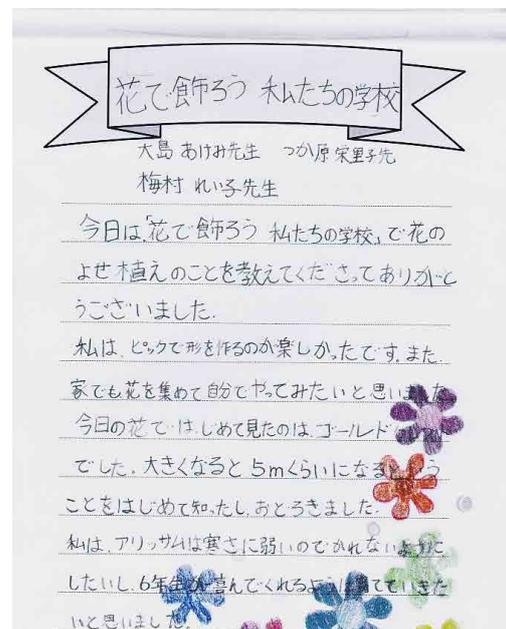


6. 木の枝・リボン・綿で飾りつけをして完成。



■ 生徒からのお礼の手紙

テーマ「クリスマス」



■ 指導のポイント

- ・使用する植物の手触り、見た目、香りなど五感を使って観察する。
- ・ポットの外し方やウォータースペースの役割などを知る。
- ・鉢の置き場所や管理の仕方を知る。

■ 経費

- ・花材・資材費は、岐阜県から支給。

■ これまでの成果

- ・1種類だけでなくいくつかの草花を形よく植えることを体験することによって、植物の性質や育て方のコツを学び興味を持ってもらえた。

■ 参加者からの感想

- ・作成した寄せ植えを、家族に見てほしい、プレゼントしたい。
- ・飾りつけが楽しかった。など

■ 今後の課題やその改善方法

- ・子供たちの個性の出る作品作りができるとういと思う。
- ・ひと手間加えた寄せ植え、多肉植物や球根などを使った寄せ植えなども体験できるとよい。

東京都内での花壇作り～幼稚園での花壇計画～

作成者：東京都花き振興協議会

株式会社フラワーオークションジャパン 村松 得至

■ 実施主体

名称：東京都花き振興協議会

担当窓口：事務局 府中 保子

所在地：東京都大田区東海2-2-1

株式会社大田花き内

■ 団体等構成 花き卸売会社、仲卸業者、花き小売店
関連事業者

■ 取組地域 東京都大田区



■ 概要

幼稚園の園庭にある花壇に、園児と共に花苗を植える花育活動を行い、活動を通して、花や植物に親しみ育てるために大切な花壇の土などについても関心を持つきっかけを作る。花を育てることによって、精神的な成長を促進し、将来の花き愛好者を育てる。幼少期に花や植物に親しむことは、情操教育として大変重要であり、協議会として積極的に取り組みを行っている。

■ 取組開始時期・経緯

平成25年度より幼稚園、小学校の授業において、花壇作りを通じた花育を実施してきたが、この度大田区内の幼稚園より花壇作りの要望があり、協議会として対応することとなった。

■ 目的（目標）

花壇での活動を通して、土は汚いものではなく、植物を育てる上で必要不可欠なものであることを理解してもらう。

幼少期に、花や植物の美しさを体験してもらうことで、花に関心や興味を持ち素晴らしさを知ってもらう。小さい頃から花にふれることで、花は大人になってからも身近なものとなり、将来の花の消費に繋がることも期待する。

子供たちが、植物栽培に関わる体験を通して、命の大切さを学び、心の教育につなげる。

【取り組み内容】

- 対象者・人数：5歳児 38名
- 所要時間：90分
- 対象場所：幼稚園
- 指導者：1クラス講師1名、アシスタント1名

- 資材：・腐葉土
・肥料

- 花材：・ビオラ苗
・ストック苗
・金魚草苗
・チューリップ球根

- 用具：・スコップ
・シャベル
・ジョウロ

■ 活動内容（指導内容）

1. 花の流通について

①花の市場の話

「お店の花はどこから来るんだろう？」

※右図：参考資料

②市場のしくみについて

全国の花農家の花は、トラックで市場に運ばれてくる。

外国の花も船や飛行機で運ばれてくる。

③小売業（お花屋さん）

市場で買い付けた花や植物は、それぞれのお店に運ばれていく。

（花屋、スーパー、コンビニ、園芸店、ガーデンセンター、ホームセンターなど）



花苗や使用する道具を用意



説明資料：「花や緑友達になろう」抜粋

2. 花を育てるための土作りについて

①土の特性を学ぶ

- ・良い土とは、水はけが良く、水持ちが良い、通気性の良い土。

②土作りの方法を学ぶ

- ・腐葉土や肥料を花壇に混ぜる。

③植栽前に耕すことを学ぶ

- ・花壇の土を耕して空気を含ませてふかふかにする。

3. 花苗について

①花の種類を覚える

- ・季節の花の名前を覚える。

②花の特性を学ぶ

- ・花や植物には、それぞれに適した環境がある。
- ・開花の季節や生育時期などを知る。



花壇を土を耕してから植える

③根の役割を学ぶ

- ・根は、地上にでている植物の体を支えている。
- ・生長するために必要な養分を蓄える。
- ・水や養分を体の中に取り入れる。

4. 植栽後の手入れ方法について

①水やりの方法

- ・土の表面がかわいたらたっぷりと水を与える。
- ・花の根元に水をかける。



植えたら水やりをする

②日光の大切さ

- ・植物は、太陽光を使って栄養づくりをすることを光合成と言う。太陽の光がないと育たない。

■ 指導のポイント

1. 花の名前を覚える。
2. 土の特性を理解する。
3. 花の手入れ方法を学ぶ。
4. 命の大切さを学ぶ。

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

1. 植物の特性を説明することで、植物に対する理解や関心を深める。
2. 園児の目線に立って、土作りについてわかりやすい言葉で説明を実施。
3. 気軽に植物に触れる機会をつくることで、植物を身近に感じてもらう。

■ 経費：園児1人当たり 700円（税込み）の予算で花苗、腐葉土、肥料を購入した

■ これまでの成果

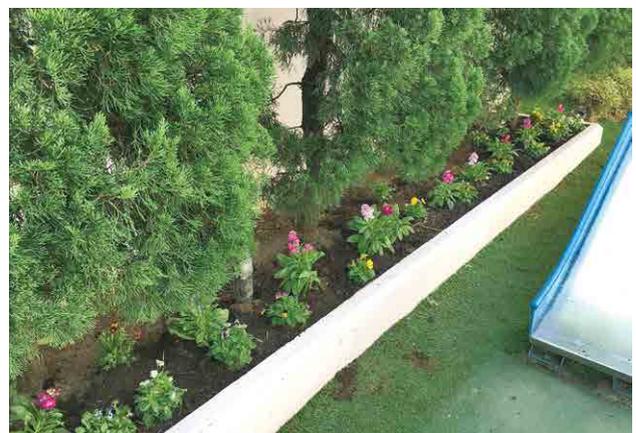
1. 多くの児童に、花に対して親しみを覚えてもらうことができた。
2. 植物を育てる喜びや花を美しいと感じるもらうことができた。

■ 参加者からの感想（児童、生徒、保護者、教員）

1. 楽しく花に親しむことができた。（生徒）
2. 子どもたちが花壇作りを協力して行うことにより、集団行動の重要性と協調性の大切さを習得できた。（保護者）
3. 当番の園児が毎日水やりをし、自分達の植えた花を大事にお世話する意識を育てる機会となった。（教員）
4. 私達大人の意識を高めていかねばならないと改めて振り返る機会となった。（保護者）

■ 今後の課題やその改善方法

1. 屋外の作業では日射病や蚊などの虫よけ対策の必要がある。
2. 屋外で実習を行う際、雨天時の対応として代替えプログラムの用意が必要となる。
3. 花育は継続的に実施することが重要であり、そのための予算の確保が必要となる。
4. 予算等の問題を解決するには、すべての幼稚園、保育園、小学校で教育カリキュラムに花育が導入されることが望ましい。



植え付けの完成した花壇

小学校クラブ活動における花育～お茶・お花クラブ～

作成者：東京都花き振興協議会

株式会社フラワーオークションジャパン 村松 得至

■ 実施主体

名称：東京都花き振興協議会

担当窓口：事務局 府中 保子

所在地：東京都大田区東海2-2-1

株式会社大田花き内

■ 団体等構成

花き卸売会社、仲卸業者、花き小売店、
関連事業者

■ 取組地域

東京都国分寺市
国分寺市立第四小学校



■ 概要

東京都国分寺市立第四小学校の授業終了後のクラブ活動（お茶・お花クラブ）で花育（フラワーアレンジメントの制作）を実施。フラワーアレンジメントの体験を通して、花に親しむ機会を作り、花を愛でることによって、精神的な成長を促進し、将来の花き愛好者を育てる。

小学校における花育は、将来の花き愛好者を育てるために大変重要であり、協議会として積極的に取り組みを行っている。

■ 取組開始時期・経緯

平成25年度より幼稚園、小学校の授業において、花壇作りの花育を実施してきたが、国分寺市内の小学校からクラブ活動での花育（フラワーアレンジメントの制作）の要望があり、協議会として対応することとなった。

■ 目的（目標）

幼少期に、花や植物の美しさを体験してもらうことで、花に関心や興味を持ち素晴らしさを知ってもらう。小さい頃から花にふれることで、精神的な成長を促し、花を身近なものと感じることで、将来の花の消費に繋がることも期待する。

子供たちが、花に関わる体験を通して、命の大切さを学び、心の教育につなげる。

【取り組み内容】

- 対象者・人数：お茶・お花クラブ 35名
- 教 科：クラブ活動
- 所要時間：60分
- 対象場所：国分寺市立第四小学校 室内
- 指導者：講師1名

- 用具：・ペットボトルで作った花瓶
・ハサミ

- 花材：季節の花を使用（花を3~4本、葉を1本選ぶ）
 - ・スプレーバラ
 - ・スプレーカーネーション
 - ・スイートピー
 - ・ガーベラ
 - ・スターチス
 - ・レザーファン など

■ 活動内容（指導内容）

1. 花の流通について

①花の市場の話

「お店の花はどこから来るんだろう？」

※右図：参考資料

②市場のしくみについて

全国の花農家の花は、トラックで市場に運ばれてくる。

外国の花も船や飛行機で運ばれてくる。

③小売業（お花屋さん）

市場で買い付けた花や植物は、それぞれのお店に運ばれていく。

（花屋、スーパー、コンビニ、園芸店、ガーデンセンター、ホームセンターなど）



ペットボトルで作った花瓶



季節の花を用意する



説明資料：「花や緑友達になろう」抜粋

2. 切り花について

①花の名前を覚える

- ・指導者がホワイトボードに花の名前を書き花の特徴を説明する。

②花の香りを楽しむ

- ・自分の好きな香りを見つけたり、花の香を調べてもらう。

③切り花の扱い方を学ぶ

- ・ハサミの使い方や花の切り方を説明する。



花の名前を書いて説明する

3. フラワーアレンジメントの制作

①実際にペットボトル製の花瓶に切り花を生けてもらう。

- ・事前にペットボトルで花瓶を作成。
- ・ハサミの扱いに注意して生徒たちに自由に生けてもらう。

②花の特性を学ぶ

- ・使用する花の咲く時期や特徴などを説明する。



デザインを考えながら生けていく

4. 手入れ方法について

①毎日、花瓶の水を取り替える。

- 花瓶の水を放置しておくと雑菌が増えて、花を弱らせて腐る原因となる。
- 水は毎日、新鮮なきれいなものに取り替えることを教える。

②水を替えるときに、ハサミで茎先を斜めに切ると良い。

- 茎の導管*が詰まると、吸水が出来なくなり花が枯れるので毎回切り口を少し切ると良い。
- 水の中で茎を切ることを水揚げという。

※導管（どうかん）とは、茎の中にある水分を吸いあげる管

③花が長持ちする環境とは

- ・直射日光が当たらない、気温の低い場所。
- ・エアコンなどの風が当たらない場所。

■ 指導のポイント

1. 花の名前を覚える。
2. それぞれの花の特性を理解する。
3. 花の手入れ方法を学ぶ。
4. 切った花も生きているなど命の大切さを学ぶ。



ピンク色の花でアレンジメント

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

1. 花の特性の説明をすることで、花に対する理解や関心を深める。
2. 花は姿・形だけでなく、香りも楽しんでもらうものであることを体験してもらう。
3. フラワーアレンジメントの技能の習得ではなく、気軽に花に触れる機会を作り親しむ気持ちを育てる。

■ 経費

生徒1人当たり 700円（税込み）の予算で切り花、葉物を購入した。

■ これまでの成果

1. 多くの生徒に、花に対して親しみや関心を持ってもらうことができた。
2. 花は姿・形を見るだけでなく、香りをかいたり、人にプレゼントをしたり、さまざまな楽しみ方があることを知ってもらえた。

■ 参加者からの感想（生徒、保護者）

1. 楽しく花に親しむことができた。（生徒）
2. クラブ活動でアレンジメント制作を行うことで、花の扱い方を学ぶことができた。（生徒）
3. 花の手入れ方法を知ること、長い期間花を楽しむことができることを知った。（生徒）
4. 「生活の中に花がある」環境を体験できる花育は、花に親しむことができる有難い取り組みだ。（保護者）

■ 今後の課題やその改善方法

1. 今回はペットボトル製の花瓶を使用した。活動後も家に持ち帰り繰り返し使用できる安価な花瓶が用意できると良い。
ペットボトルの花瓶は、花育のきっかけ作りには良いが捨てられてしまう可能性がある。
2. 使用する道具（ハサミなど）は、使い慣れたものを学校側で準備してもらい資材（ペットボトル）は、時間短縮の為に事前に人数分を集めて花瓶に加工しておいてもらう必要がある。
3. 花育は継続的に実施することが重要であり、そのための予算の確保が必要である。
4. 予算等の問題を解決するには、すべての小学校で教育カリキュラムに花育を導入されることが望ましい。



フラワーアレンジメントが出来上がった



出来上がった作品をみんなで観賞する

高校生の協力を得て行った幼稚園での花育活動

作成者：有限会社千寿園 代表 千葉 道代

■ 実施主体

名称：有限会社千寿園

担当窓口：千葉 道代

所在地：静岡県静岡市



- ## ■ 取組地域
- 静岡県内の幼稚園、小学校～高校など
学校法人第三静岡学園 静岡学園幼稚園
静岡県立清水特別支援学校高等部

■ 概要

静岡市の高校生（清水特別支援学校高等部1年生、2年生）が、作業実習時間を利用して花育資材準備作業を行い、その資材を活用して静岡市内の幼稚園児がフラワーアレンジメント作りを実施した。

■ 取組開始時期・経緯

6年前から株式会社するが花き卸売市場が主催する花育活動を弊社が依頼をうけて指導を行っている。静岡県立清水特別支援学校中学部で、3年間継続して指導を行ってきた生徒達が、中学校を卒業後に同敷地内の高等部に進学したことから、高等部の作業実習の中で幼稚園での花育で使用する資材作りを依頼し実現に至った。幼稚園での花育を高校生の協力を得て行うことは、今年で3回目となった。

■ 目的（目標）

花育に携わる人の輪をつくり、その輪を大きくしていく

1. 園や学校の指導者に花育活動の主旨を伝え、日々実践してもらう
2. 花育の授業を受講した生徒が、後々別の形で花育に携われる機会をつくる
3. 花育活動の認知度をあげ興味のある学生、父兄に花育に積極的に携わってもらう

【取り組み内容】

- 対象者・人数：幼稚園年長児 5クラス 合計138名
- 所要時間：90分
- 対象場所：幼稚園
- 指導者：講師1名、アシスタント各クラス1名（5クラス5名）

【幼稚園 クリスマスのフラワーアレンジメント作り】

■ 資材

- ・①吸水性スポンジ（高校生が成形）
- ・②ラッピング資材（高校生がカット）
- ・③オーナメント（高校生が作成）
- ・④リボン（高校生がカット）
- ・名前シール（園で用意）
- ・持ち帰り用の袋



～特別支援学校高等部の生徒が資材の準備に協力～



飾りに使う部材作り



ラッピング資材を丁寧にカット

特別支援学校中等部で花育活動を体験した生徒達が高等部に進学し、高等部の作業実習の中で花育で使用する資材づくりに協力してくれた。

■ 花材

- ・トルコギキョウ
- ・スプレーカーネーション
- ・カスミソウ
- ・レザーファン
- ・マツボックリ（ピック付）
- ・小枝

■ 活動内容（指導内容）

1. 三つの約束ごと

①園児に話を聞いてほしいときの合図（手拍子）

「先生が、手拍子を始めたら作業を止めて、手拍子を返し全員の手拍子が揃ったら、お話をしますので、静かに聞いてください。」

（先生に協力してもらい手本を見た後、園児が実際にやってみる）



②園児が質問がある時、困った時の合図（手をあげる）

わからないことがあったら、その場で黙って手をあげて知らせる。

手のあがった順に、近くにいる講師アシスタントが対応する。

③花は生きているので大切に扱うこと。

2. 植物の特徴を意識しながらアレンジメントをつくる

園でフラワーアレンジメントを行うのは初めての試みであったため吸水性スポンジは、事前に吸水させて容器にセットをしてラッピングしたものを用意した。

容器に名前シールを貼る。



①花の香りを嗅いでみる

テーブルに置かれたレザーファンとカスミソウを手にとり香りをかいでみる。

各テーブルから、香りの感想が聞こえてきたらどんな香りがしたかを質問してみる。

この後、レザーファンを吸水性スポンジの4隅にいける。

②茎の切り方

次に、ハサミの使い方を説明して茎をハサミで切る。

園で使用している各自の工作用ハサミを使用する。

切花用のハサミを使用することもあるが、今回は年齢を考え安全面を優先して工作用のハサミを使用した。

花の茎が折れてしまった場合には、短くなった茎をおさえる手の位置に気を付けて、手を切らないように十分注意する。



すべての花を切りそろえた後、大きくて自分の気に入った花一輪を選び手に取る。

③花の正面を探す

花の茎をやさしく持ちゆっくりと回し花が一番きれいに見える正面（顔）を探す。



④花を活ける

花の正面を意識しながら、自分のアイデアで活ける。



- ⑤質問があるときは、ルールを守り手を上げて
知らせてくれた。
お話を聞いてほしい時のルールもしっかり
守ってくれた。



⑥作品の仕上げ

吸水性スポンジが見えているところに、レザーファンや
カスミソウなどを挿してうめる。



⑦管理方法の説明・片付け

完成したらテーブルの上を片付ける。
この後、水やりなど家での管理について説明。
全員で記念撮影。
ご挨拶をして解散。



■ 指導のポイント

- ・子供の自主性を大切にし、花育が楽しい時間であるように心がけている。
- ・簡単な短い言葉で説明する。
- ・注意をするときには、特に言葉に気を付けて、その場の雰囲気壊さないようにする。

- ・できた作品をどのようにしたいか意識させるようなラッピングとした。
(今回はお母さんにプレゼントする声がほとんどでした)
- ・吸水性スポンジに目安となる補助線をつけて花を挿しやすくした。
- ・スプレータイプの花材を使用し、花が破損した場合に予備を渡せるようにしている。

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・お散歩しているときにも見られるような身近にある木の実や枝を使用している。
- ・できるかぎり個々の花材と作品に手を触れず、茎がぐらぐらしている時やお花が混み合いすぎているなど、手直しが必要と思われるときに、園児が気づいているかどうかの問いかけをしている。技術的に難しい場合は手伝うようにしている。
- ・できるようになったことは、その場で誉めるようにしている。

■ 経費 クリスマスのフラワーアレンジメント

- ・1人当たり資材代 300円～500円

※花材は、株式会社するが花き卸売市場から提供

■ これまでの成果

〈高校生〉

- ・中学生の時に体験した花育活動を、高校生となってから幼稚園での花育活動の資材準備という形で生かすことができた。

〈幼稚園児〉

- ・園や学校の先生が花育に興味を持ち、実践してくれるようになった。

■ 参加者からの感想（児童、生徒、保護者）

学校法人第三静岡学園 静岡学園幼稚園 園長 杉谷法子先生

- ・いつもは落ち着いた子がとても真剣な表情で丁寧に生けていました。
 - ・「お母さん喜ぶね」、「早く家に帰って見せたい」と言っていました。
 - ・「お母さん、びっくりしてたよ」と次の日たくさんの子から報告がありました。
 - ・慎重に花を扱っている子が多かったです。
 - ・「株式会社するが花き卸売市場」様からお花をたくさん提供していただき、クリスマスケーキフラワーアレンジメントをすることができました。1つ1つのお花の感触を小さな手で受け止め、イメージを広げて楽しんで作品を作ることができました。
- このような貴重な経験をさせていただいて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。
- 子どもの情緒教育とはとても大切なことと改めて感じました。
- 今後もこの花育を続けていきたいと思えます。

■ 今後の課題やその改善方法

花育がイベント時だけでなく、日頃から継続して行われることが課題。

日常に花育を取り入れるために先生の協力は必要不可欠。

①園、学校関係の責任者に花育を理解してもらい様々な立場から花育に参加してもらう。

②現場で子供と接している先生方向けに、人数、予算、資材と花材の手配など実際を想定した花育実技講座をひらき、参加した先生が花育を実践できるところまでもっていく。

その際、各校で実施した場合の問題点を一緒に解決していく。

上記を実現するには、公共機関の計画的な協力がないと難しい。

■ 参考

静岡市内で花育を実践した 静岡南部特別支援学校 教諭 瀬戸脇正勝 先生からの感想
フラワーアレンジメント作りやコンテナガーデン作りなどを体験しており、作った作品を外
部の方 にプレゼントするなどの活動を行った。

<花育の活動を実践して>

- ・ アレンジした作品に子供達が素敵だという感動が持てたこと。
- ・ 作品に自分なりの意図を持って取り組んでいたこと。
- ・ 上に加えて、ここを切り、ここに置くと自分で決める、これで完成を自分できめていたこと。
- ・ 物怖じせずに、作品作りに取り組んでいたこと。
- ・ 地域のアレンジの先生と作品作りを通してコミュニケーションが取れていたこと。
など感じました。

<花育の成果として>

花の知識をちょっと知ったことが、周りの人や家族に教えることでちょっと鼻高になったこと。それぞれの特性等を知ることで、あまり身近に感じていなかった花や野菜に、興味があがったようです。

多くの花に出会うことで、子どもたちの表現する力も育つように思います。

プレゼント、身近な場所を飾るという行為は、中学生には、役に立つ等の観点からも、将来の仕事として一つとして題材にもなりました。

重度の障がいのある生徒にとっては、本人と相談しながら共にやるのですが、さわる、見る、匂いを嗅ぐことを通して、活動そのもの、出来上がりを共感できました。ふわふわしているね。綺麗だね、いい匂いだね。素敵に出来たね。と共に楽しめました。

<花育に期待すること>

花育を行っている時、子ども一人一人が褒められます。作品も一つの個性として褒められます。できた作品も、周りの方から、家族から感謝されます。自分自身に自信の持てない子どもたちが増えているように感じるこの頃、自尊感情を育てたり、仲間や家族や地域との縁を深めたりできるものだと感じています。

私たちの学校のように、入院生活を余儀なくされている子供達には、植物に触れる大切な機会でもあります。特に本校では、花等を通して四季を感じることを大切にしています。

花にまつわる仕事は多いように思います。キャリア教育の一環としても可能性の多い分野かなと思います。

ワンコインクラブ活動 小学校へのお花のお届けと「花の楽しみ方教室」

作成者：ワンコインクラブ 高木 凌介

■ 実施主体

名 称：ワンコインクラブ

代 表 磯村 信夫
副 代 表 守重 知量
実行委員 加藤 幹久
 上杉 圭祐
 井上 武志
 桐生 進
 森谷 克敏
 高木 凌介



H P : <http://www.onecoin-club.jp/index.html>

■ 団体等構成

会員は、花材機器関連、市場関係、生産者、県職員など花き業界関係者で構成している。

■ 取組地域 東京都、神奈川県川崎市、群馬県太田市

■ 概要

ワンコインクラブは、花きを通じて子供達の明るい未来を創出することを目的に花育活動をしている。年会費6000円を会員から集め、その資金で花や資材を購入し活動を行っている。

対象は小学校で、日本の花を多くの人に知ってもらえるように、外国人住民が多く国際化が進んでいる地域から選択し、学校に花育の提案をしている。

対象となった学校には、継続して活動を行っており、最も長い学校では10年、短い学校でも1年。現在も、対象校を増やしている。

■ 取組開始時期・経緯

2006年（平成18年）10月1日にワンコインクラブ設立。

2006年（平成18年）11月に花材の配布を開始。

設立前に花関係者（生産者、市場、仲卸、関連資材商社）で花を通じて子どもたちに教育の機会をつくることのできないかという話合いが設けられた。

その後、その実行機関としてワンコインクラブを設立。

■ 目的（目標）

私たちは、花き業界の仕事に携わるものとして、花（植物）が諸感に作用し、人間の心の深層にも暖かく作用することを知ることになった。長年その恩恵にあずかり、喜びも実感した。そして今、その恩恵を次世代の子供達に伝えていきたいと考えている。

花や緑を通して、こころの豊かさを実感できる機会をつくっていききたいと考えている。

- 活動校：東京都 世田谷区立池ノ上小学校
 世田谷区立代沢小学校
 新宿区立大久保小学校
 新宿区立津久戸小学校
 文京区立湯島小学校
 豊島区立池袋小学校
 群馬県 太田市立中央小学校
 神奈川県 川崎朝鮮初級学校

■ 活動内容

月1回の花のお届け、年に1回程度会員全員参加のアレンジメント教室、花の名前、花にまつわる話、花の扱い方など、花や植物に関する基本的な事を伝えている。

①月1回の花のお届け

学校全クラスに対して、月1回季節の花を届けている。そのうちの指定の小学校では一緒にフラワーアレンジメントを行っている。

②リーフレットの作成

お花のお届けと一緒にその花を紹介するリーフレットを一緒に作成し配布。

③年に1~2回程度、「花の楽しみ方教室」

会員が講師となって参加し、子供達一人一人にフラワーアレンジメントの楽しさを体感してもらう機会をつくっている。

■ 活動を具体的にを行う人員

運営委員会メンバーが上記活動を主に行い、会員への参加も呼び掛けている。



花を紹介する「リーフレット」

【取り組み内容】

- 教 科：生活科
- 所要時間：2時限（90分）花の楽しみ方教室
- 対象場所：小学校
- 指 導 者：講師3名、アシスタント2名

今回はワンコインクラブの活動のうち、お花のお届けと「花の楽しみ方教室」を実施。

■ 資材

- ・ フラワーアレンジメント用容器（プラスチックカップ）
- ・ 吸水性スポンジ
- ・ ハサミ

■ 花材

- ・ バラ（スプレー咲き）
- ・ トルコギキョウ
- ・ ナデシコ（ブレアンサス）
- ・ スターチス
- ・ リンドウ
- ・ ヤブラン など



使用した花材

■ 活動内容（指導内容）

- ①スライド等を使って花材の紹介
- ②花材紹介資料を別途作成して配布する。
- ③指導者によるフラワーアレンジメントの実演
- ④児童によるフラワーアレンジメントの実践

1. 花材の紹介

大型スクリーンを使って花材の紹介。

花材の原産国、属、また花の特徴をクイズ形式で紹介を行った。

クイズ形式にすることによって講師側からの一方的な紹介ではなく、児童も参加し考えながら覚えることができる。

児童も積極的にクイズに参加してくれた。



大型スクリーンを使った花材の紹介

2. 指導者によるフラワーアレンジメントの実演

フラワーアレンジメントを行うにあたって、花材の切り方、花を活ける順番、アレンジメントのコツなどを紹介。花材紹介の復習もしながら行った。



指導者によるフラワーアレンジメントの実演

3. 児童によるフラワーアレンジメントの実践

事前にクラスごとに分けておいた花材を配布した。

担任の先生を中心にアレンジメントを開始。

講師とアシスタントは、いくつかのクラスをまわりながら質問に答え、アドバイスをしながら一緒にアレンジメントを行った。

太田市立中央小学校は毎年、アレンジメント教室を行っているため花材の切り方や吸水性スポンジへの挿し方などうまくできている様子だった。



児童のフラワーアレンジメントの様子

■ 指導のポイント

- ・楽しくフラワーアレンジメントができるようにする。
- ・なるべく多くの花の種類や特徴を覚えてもらえるようにする。
- ・花も生き物であること、大切に扱うことを教える。

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・リーフレットを作成して、花材を紹介している。
- ・大型スクリーンを使った花材紹介では、クイズ形式を採用している。
- ・フラワーアレンジメント実践の際は、児童に積極的に話しかけて疑問点などを解消できるようにする。
- ・季節ごとに旬の花材を紹介。七夕など季節のイベントがあればそれに沿った花材を使用。
- ・なるべく毎回違った花材を使用。より多くの種類の花に触れる機会を作る。

■ 経費

- ・一単位を500円程度（卸ベース）で行う。
（月1回花のお届けならクラスあたり、年に一回なら個人あたり）

■ これまでの成果（花育を実施したことでどのような効果があったか）

- ・花を大切に扱うようになった。活動開始当初は、花を「もの」として扱って投げたりしてしまうことも見られたが、最近は丁寧に扱っており「生き物」として花への認識が変わってきているように見られる。
- ・家族のコミュニケーションのきっかけにもなっている。
フラワーアレンジメントの作品は、家に持ち帰っているため、母親に褒めてもらったなど会話のきっかけにもなっているようだ。
- ・花に触れる機会の増加。
フラワーアレンジメントをきっかけに花を知ることができる。プレゼントや贈り物として花をあげる子もいた。
- ・継続的に実施をしている学校もあり、最長で活動期間10年ほど続いている。
（既に社会人になっている方もいる）

■ 参加者からの感想（児童、生徒、保護者）

- ・1年に1回の花の楽しみ方教室を心待ちにしている。6年生からは最後の教室になるから残念という声もあった。
- ・作ったフラワーアレンジメントをお母さん、おばあちゃんにあげるととても喜んでくれた。
- ・花に興味を持った。花がキレイ、かわいい、大切にしたいと思うようになった。
- ・次のフラワーアレンジメントの花材が何かとても楽しみにしている。

- ・花から植物に興味を広がり、野菜を育てている。
- ・フラワーアレンジメントがとても楽しい。
自分でバランスを考えながら活けるのが楽しい。など

■ 今後の課題

- ・今後も実施する学校を増やしていく。現在は、資金が足りないため、会員を増やす。
関連会社や取引先まで今後も活動の機会をつくって、積極的に活動を紹介し、勧誘を行う。
- ・活動人員の確保。現在、実際に活動している会員が5人と少なく、運営が難しい状況。
活動してくれる会員を増やすために、会員内にも呼びかけを行う。

富山県内全域での「花の出前体験教室(フラワーアレンジメント・いけばな・チューリップ球根植付花育体験)」

作成者：富山フラワーネットワーク

■ 実施主体

名 称：富山フラワーネットワーク
担当窓口：富山フラワーネットワーク事務局
所 在 地：富山県富山市掛尾500番地
H P：www.t-chuou-kaki.com



■ 団体等構成

富山県花き生産者協議会、富山県花卉球根農業協同組合、富山県花き仲卸組合
全国農業協同組合連合会富山県支部、富山花き商業協同組合
一般社団法人 日本生花通信配達協会富山支部、富山県華道連合会
公益社団法人 日本フラワーデザイナー協会富山県支部、公益財団法人 花と緑の銀行
株式会社 富山中央花き園芸、富山県

■ 取組地域 富山県内全域

■ 概要

富山県では、全国一の出荷量を誇るチューリップ球根をはじめ、様々な花きを生産しているが、産出額では全国45位と低迷している。一方、消費面では、仏花需要等が堅調で、政令指定都市富山市の切り花購入金額は全国中位であり、若年層や男性を中心に、花きの消費には大きな伸び代が残されている。

このような中、これまで連携が十分でなかった花き業界関係者が一堂に会し、生産から消費までの各種課題の解決に連携して取り組み、それをもって県産花きの生産・供給体制の強化および需要拡大を図ることを目的として、「富山フラワーネットワーク」を設立。富山市公設地方卸売市場花き部の卸業者である(株)富山中央花き園芸が代表となり、県内11団体が参加している。

当ネットワークでは、花や緑のある生活空間とそれに触れることのできる機会を提供し、その活動において地元で生産されている花を紹介することで、より生活に密着した「花」に関心を抱かせることを目的として、フラワーアレンジメントやいけばな、チューリップ球根の植付け体験教室などの「花育」事業を展開している。

取組開始時期・経緯

より多くの子供達に花育活動を広げるため、平成27年度からは当ネットワークを窓口として、保育・幼稚園の年長児から小学生を対象とした「花の出前体験教室」を開催している。

県内の全保育・幼稚園、小学校へ募集チラシを配布し、周知するとともに、教室の様子や感想をHPに公開し、花育活動のPRを実施している。

目的（目標）

平成28年度の活動運営にあたっては、可能な限り、応募校の近隣にある小売店に担当していただき、花育活動を地域に根づかせる。また、花育活動を起点に、子供達が「花の文化」や「花の取り扱い方」を身につけるだけでなく、「地元の花き産地」や「近所の花屋さん」を知ることに関心を持ち、購買世代（親）と将来的な購買層（子）の掘り起こしとなって、需要拡大につながることを期待している。

【平成27年度実績】 幼稚園・保育所（園）25教室、小学校で7教室 （延べ1019人）

【平成28年度目標】 53教室 （延べ1200人）

【取り組み内容】

- 対象者・人数：年長児・小学生 32教室 延べ1,019人（H27年度実績）
- 所要時間：40分程度（実施内容により異なる）
- 対象場所：保育園・幼稚園・小学校・児童クラブ
- 指導者・アシスタント人数：講師1名、アシスタント数名（先生や保育士の方に年長児の場合5人、小学生の場合10人に1人程度のサポートを依頼）

活動内容(指導内容)

1 全体計画・スケジュール及び事前準備

- ①チラシやHP（富山中央花き園芸内）にて参加校を募集
↓
- ②応募校の要望等を考慮し、富山フラワーネットワーク事務局より、各構成団体へ出前教室の運営・参加を打診
 - a フラワーアレンジメント教室 担当
（富山花き商業協同組合、（公社）日本フラワーデザイナー協会富山県支部）
 - b いけばな教室 担当
（富山県華道連合会）
 - c チューリップ球根植付け教室 担当
（富山県花卉球根農業協同組合）↓
- ③担当講師（運営団体）決定後、応募校に出前教室の受諾を連絡
↓
- ④担当講師と応募校との事前打合せ
実施日2週間以上前には最低1回実施（必要に応じて数回実施）
当ネットワークが作成した「花の出前体験教室（アレンジメント教室・いけばな教室）作業要領」に基づき、担当講師（地元小売店等）と応募校の先生・保育士が協力して実施できるように、作業分担や当日の流れについて事前に協議する。

2 実施内容の詳細

【平成27年度実績32教室】

教室名	実施場所	
アレンジメント教室	小学校	黒部市1、舟橋村1、富山市2、高岡市1、射水市2、高岡市1、小矢部市1
	保育・幼稚園	立山町3、上市町1、富山市12、砺波市2
チューリップ球根植え付け教室	保育・幼稚園	立山町1、富山市2、高岡市1、氷見市1

【平成28年度予定（53教室）】

教室名	実施場所	
アレンジメント教室	小学校	魚津市1、舟橋村1、富山市2、射水市2、高岡市5、 砺波市1、小矢部市1、氷見市1
	保育・幼稚園	朝日町1、入善町1、立山町4、上市町1、富山市 18、射水市2、高岡市2、砺波市4、南砺市1、小矢 部市2、氷見市1
いけばな教室	保育・幼稚園	富山市1
チューリップ球根 植え付け教室	保育・幼稚園	富山市1

- ・ 資材や花材は季節やテーマに応じて教室毎に異なるが、花材選択において「富山県産花き」を優先して使用

3 当日の流れ

＜クリスマス为主题にアレンジメントを作成した事例（年長児23名が参加）＞

■ 資材：切り花用ハサミ（貸出し）

- 花器、吸水性スポンジ
- ワイヤー、竹串・爪楊枝
- リボン・ボールオーナメント、ピック
- お持ち帰り用の袋

■ 花材：ヒムロスギ・姫リンゴ

- ガーベラ・スプレーストック・ヒペリカム



① 準備

- ・ 保育室の作業机の上に新聞紙を敷く（保育士が実施）。
- ・ バケツに鮮度保持剤入りの水を入れ、1人分の材料となる切り花を分けて新聞紙に包み、保育室に並べる。
- ・ 吸水させたスポンジを器にセットする。
- ・ 見本となるアレンジを作製し、展示する。
- ・ 園児の座る席に、切り花以外の材料を置く。

② 富山県で生産されている花の説明

- ・ 「とやまけんでつくられているおはなポスター」を活用し、季節毎の県産花きの紹介や花の特徴や季節の行事と花の関係などを説明。

③ アレンジメントの＜手順1＞を説明

- ・ 利用する草花の名前や特徴を説明しながら、吸水性スポンジへの挿し方、ワイヤーの使い方、



オーナメントの付け方などを説明。

<手順1>

- ・ヒムロスギの枝を揉んで柔らかくした後、表と裏に注意しながらスポンジの両端に挿し、曲げて真ん中をワイヤーで止め、輪にする。
- ・ヒムロスギに、オーナメントを飾り付ける。



④アレンジ開始

- ・園児4～5人に講師又は保育士が1人つき、指導する。
- ・硬くて切れない茎や枝は講師又は保育士が切るなど、安全に配慮する。



⑤アレンジメントの<手順2>を説明し、アレンジ再開

- ・使用する草花の名前や特徴を説明しながら、それぞれの花の切り方や吸水性スポンジへの挿し方などを説明する。

<手順2>

- ・切り花の長さを決め、斜めに切って、スポンジに挿す。
- ・姫リンゴの下部に竹串・爪楊枝を挿し、スポンジに挿す。
- ・クリスマスの飾りに棒のついたピックをスポンジに挿す。
- ・スポンジが見えている部分に、短くしたヒムロスギを挿して隠す。



⑥作品が完成した園児から片付け、掃除

⑦アレンジメントを体験した感想を聞き、今後の管理方法を説明



年長児の作品（完成品）

■ 指導のポイント

- ・ 事前に作品の見本を作成し、子供達に見せながら作品の特徴や使用する花の特徴（県産花きの場合は産地等）を説明し、「花」をより身近に感じられる雰囲気づくりを心がける。
- ・ 作品にはできるだけ季節感（テーマ性）を演出し、作成した作品を介して、子供達の想いや感動を、親・祖父母世代に贈る。

【作品の利用例】学習発表会、保護者参観、卒業式の親への感謝の贈り物など

- ・ 指導にあたっては、年長児の場合5人、小学生の場合10人に1人のサポート体制となるよう、教職員に協力を依頼し、けがや事故がないよう配慮する。

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・ 多くの子供達が初めて体験する生徒達のため、初歩的な花の切り方や吸水性スポンジの使用法、完成した作品のお手入れの仕方を丁寧に説明する。
- ・ ポスター掲示で見てわかるよう工夫するとともに、プリント配布等により教職員や親世代と情報を共有させる。
- ・ 知っている花の名前や家の庭に咲いている花などの質問を挟み、（保育士に協力していただきながら）飽きさせないように工夫する。

■ 経費

1人当たり2,000円（税込み） 内訳：花材 1,600円・資材 400円

※ただし、国産花きイノベーション事業を利用しているため、現時点では無料

■ これまでの成果

- ・ 多くの子供達は、フラワーアレンジメントが初体験で、花の楽しさを肌で感じていた。特に男子の創造性には目を見張るものがあった等、周囲の教職員・保護者からも高く評価された。
- ・ 平成27年度に実施した体験後のアンケート結果（回答率88%）では、花育活動を継続（75%が実費負担してでも継続）したいとの要望があった。

■ 参加者からの感想（児童、生徒、保護者）

【参加校からアンケートより抜粋（平成27年度実施）】

- ・ とてもよかった。普段、花を生ける機会のない子どもたちは、とても楽しんで真剣に取り組んでいた。作品は学習発表会で展示し、保護者にも好評だった。
- ・ 「花育」のねらいを知り、とても素晴らしい活



お互いに見せ合いっこ
（HP上で写真を公開）

動だと思いました。幼児にも難なく楽しむことができました。

- ・子ども達の自由な発想のもと、一人一人の作品ができてとても良かったです。後日、いただいた花器に花屋さんで買ったものを生けていると聞きました。保護者にも大変好評でした。
- ・平成28年度からは、より多くの方に「花育」体験を知ってもらうため、参加校から写真や感想を提出いただき、出前教室の様子を随時HPに掲載することとしている。

■ 今後の課題やその改善方法

- ・今後も花育活動を継続していくためには、参加費を負担していただき、地域で自己完結可能な運営体制が必要。
- ・「安価でできる手軽な体験教室」に向け、安価な花材・資材の調達方法を工夫するとともにマニュアル化する必要がある。

奈良県 保育園で行う季節の花を使った「花育教室」

作成者： 奈良県花き植木農業協同組合 箕輪 繁

■ 実施主体

名称：奈良県花き振興協議会
担当窓口：奈良県花き植木農業協同組合
所在地：奈良県磯城郡田原本町八田208-1
HP：<http://www.narakaki.or.jp>



■ 団体等構成

奈良県花き植木農業協同組合、奈良県生花商組合
公益社団法人日本フラワーデザイナー協会奈良県支部
奈良県フラワー装飾技能士会、奈良県農業水産振興課

■ 取組地域：奈良県天理市、磯城郡田原本町内の保育園

■ 概要

園児が花に触れる事で、花の楽しさを覚えてもらう。

■ 取組開始時期・経緯

平成28年8月
今年度で国産花きイノベーション推進事業「花育教室」は3年目となる。

■ 目的（目標）

園児が花に触れる事で、花の楽しさを覚えてもらう。
今後も継続して花育教室を開催する。

【取り組み内容】

- 対象者・人数：保育園児7名～45名
- 所要時間：25分
- 対象場所：奈良県天理市、磯城郡田原本町内の保育園
- 指導者：講師3～5名＋保育士4～5名

<季節のフラワーアレンジメント>

- 資材：
 - ・アレンジメント用カゴ
 - ・アレンジメント用セロファン
 - ・吸水性スポンジ
 - ・ラッピングペーパー
 - ・ピック
 - ・ラッピング用カールリボン
- 花材：
 - ・季節の花、1人5種類、10～12本程度

■ 活動内容（指導内容）

8月26日の花育教室では、児童にメインになるお花（小輪ヒマワリ・ガーベラ・カーネーション）を各自で選んでもらい、フラワーアレンジメントを作成。

10月21日・26日・28日は、ハロウィンのイメージのアレンジメントを作成。

11月15日・16日は、お菓子のイメージのアレンジメントを作成。

■ 指導のポイント

園児の自主性を尊重する。

季節の行事（ハロウィン・お月見）と絡めて、行事に関心を持ってもらい、花を楽しんでもらう。

ヒマワリ小輪・ガーベラ・カーネーションを使った
フラワーアレンジメント作品

実施日：8月26日



「ハロウィンのフラワーアレンジメント」

実施日：10月21日、26日、28日



「お菓子（キャンディ）をイメージしたアレンジメント」

実施日：11月15日、16日



■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

8月26日の花育教室

- ・児童にメインになるお花（小輪ヒマワリ・ガーベラ・カーネーション）を各自で選んでもらう。

■ 経費

1人当たり（花材費1300円・資材費700円）2000円程度

■ これまでの成果

過去2年間で花育体験者数は計画を上回り、多くの児童に花との触れ合いを体験してもらうことが出来た。

平成26年度 花育教室7回 参加児童209人（目標200人）

平成27年度 花育教室8回 参加児童202人（目標200人）

■ 参加者からの感想（児童、生徒、保護者）

（保護者アンケート）

- ・フラワーアレンジメントを家庭に持ち帰ってからも、子どもが水やりをしている。花を思いやる姿勢が把握できた。
- ・アレンジメントも良いが、伝統的な華道、生け花も体験させてやりたい。
- ・保育園の園庭に、花の苗や球根等を植えて育てても良いのではないかと。園庭が難しい場合は、町に協力頂いて、地域の公園に花の苗を植えたりする活動も行っていただければ、もっと公園や花に親しみが深まるのではないかと思う。
- ・季節毎に花育教室の機会があれば良いのではないかと思う。

■ 今後の課題やその改善方法

フラワーアレンジメントを作る機会を、花育教室以外でも設けていきたい。

キク栽培を通じて人々と植物のかかわりについて学ぶ

作成者：長野県岡谷市三沢区民農園 林 弘旦

長野県岡谷市立川岸小学校 教諭 井出 竜也

■ 実施主体

名称：長野県岡谷市三沢区民農園
長野県岡谷市立川岸小学校
担当窓口：岡谷市三沢区民農園 林 弘旦
川岸小学校担当教諭 井出 竜也
所在地：長野県岡谷市川岸



秋に学校の玄関前を飾るキク

■ 取組地域 長野県岡谷市川岸地区

■ 概要

(平成28年度を中心として)

- ・岡谷市川岸地区の川岸小学校では、6年生全員が一人一鉢のキクづくりを行う伝統が根付いている。
- ・平成28年度も総合的な学習の時間の教科として取り上げ、2クラス66人が全員で栽培活動を行った。
- ・毎年、校内の正門付近で栽培をしているので、キクの栽培イメージは抱いているものの自分たちの手で育てるのは初めてであった。
- ・6月から11月までの半年間は、休日、修学旅行、夏休みなどキクの栽培から目を離すことも多かったが、天候の変化なども気にしながら管理を行い、秋にキクの花が咲きそろった時には全員が感動した。
- ・校内美化のほか、全校児童、来訪する保護者、来客など多くの人に活動の様子を実感してもらえた。

■ 取組開始時期・経緯

- ・当校においては伝統のあるキクづくりと伝えられるがいつ頃から始まったのかを知るため各年代層の卒業生に聞き取った結果、40年くらい前から始まったと推定された。
- ・平成28年度は6月上旬に、毎年苗の提供をうけているキク愛好家からポット苗を入手し、それとともに今年の商品の特性や栽培のポイントなどについて助言をうけ、6月下旬に全員による鉢上げ作業から今年のカキがはじまった。

■ 目的(目標)

- ・栽培や手入れが難しいといわれる「キク」を栽培することを通して、命あるものを育てる難しさを知り、植物が育つ環境条件を調整する技術を学ぶ。
- ・川岸小学校6年生が毎年取り組んでいる「キクづくり」の伝統を継承する。
- ・キクの立場に立って世話をすることを通して、相手への思いやりの意識をもった花づくりを体験する。
- ・これらの取り組みを通して豊かな人間性を育む。
- ・他の学年を含め、全校をあげて進めている「花による校内美化」に率先して取り組む。

【取り組み内容】

- 対象者・人数：小学校6年生 2クラス66名
- 教科：総合的な学習の時間
- 所要時間：授業10時間の他
早朝や休み時間および休日などの授業外時間に随時
- 対象場所：小学校
- 指導者：指導者1名、アシスタント・クラス担任教師2名



作業の説明

■ 資材・花材

- ・キク苗 90本程度（予備苗を含む）
- ・移植用鉢 5号鉢（鉢の内径15cm）90個
- ・定植用鉢 7号鉢90個
- ・鉢皿 90個
- ・キク用培養土（市販品）400㍓
- ・赤玉土（中粒）15㍓
- ・肥料
- ・市販の油粕系の固形肥料 10kg
- ・液肥（2種類） 2㍓
- ・成長調整剤（ビーナイン）
- ・殺虫剤（スプレー型） 5本
- ・支柱 270本
- ・ビニールタイ 1350本
- ・支柱の固定具 90個
- ・輪台 270個
- ・名札 66枚



はじめての作業開始

■ 活動内容（指導内容）

- ・栽培に関わる指導は地域内に居住し区民農園活動や園芸福祉活動などを行っている林が担当した。
- ・企画運営は担任教師と各クラスの「キクづくり委員」が担当した。
- ・年度当初に、キクづくりを進めるに当たっての目標や心構えなどを担任と確認し、共通の認識を持って指導した。



ポイント説明

キクづくりにあたっての心構え

- ①キクは植物であり生きていること。
- ②人間がごはんを食べるようにキクは葉っぱで栄養を作り、根から水を吸収し成長すること。
- ③栽培管理は常にキクに話しかけるように観察や世話をすると、秋には大きく立派な花が咲くこと。

活動内容

- ・品種選びと挿し芽の育成は近隣の栽培者に委託し、6月中旬にポット苗として確保した。

- ・仕立て方は大ギク3本に仕立てる「ダルマづくり」とし、学校にあるキクの栽培マニュアルにしたがって5号鉢移植、7号鉢定植で進めた。
- ・栽培は一人一鉢で、所有者を明確にして栽培することとした。
- ・鉢替えなどの作業は全員で行うこととし、生育の状態と授業計画などを見ながら日程を設定した。
- ・水やりや支柱立てなどの日常管理は、授業時間外に児童が個人ごとに進めた。
- ・指導者は時々生育の様子を確認に訪れたが、鉢の置き場所や置き方など以外、個々の鉢には手を加えないよう留意した。
- ・指導者の管理する鉢を参考として近くに置いた。
- ・栽培場所は玄関付近で皆の目につきやすく、しかも生育に好適な位置を選んだ。

1. 移植(1回目) ～ポット苗から5号鉢へ～ (6月下旬)

- ・ポットに植えてある苗を、5号鉢に移植した。
- ・排水性を考え、鉢底に網を敷き、赤玉土を適量入れ、その上にキク用の培養土を入れ移植した。
- ・作業にあたってはポットの土をなるべく崩さないように丁寧に行い、鉢の中央部に適度な深さに落ち着くように留意した。
- ・最後に固形肥料3個を土に押し込んだ。
- ・根付くまでは、しおれやすいのでこまめな水やりをしながら様子を観察した。
- ・茎の長さが10センチくらいに成長したころ、わき芽を発生させるため、端部を軽く摘む作業をしたが、鉢によっては生育の差があるので時期をみて個々に行った。



丁寧な作業を



ていねいな作業を

2. 移植2回目(定植) ～5号鉢から7号鉢へ～ (7月下旬)

- ・5号鉢に移植して一か月くらい経過した夏休み直前の7月下旬に一斉作業として定植を実施した。
- ・植え替え用の7号鉢の底部には網を敷き、赤玉土を入れて排水対策をしてから下部に培養土を入れた。
- ・下部に入れる培養土の量がポイントであるので、今までの鉢を仮置きしながら決めた。このときに下層部の根に与える固形肥料を置いた。
- ・植え替え作業にあたっては根鉢がくずれて根が傷まないように細心の注意をしながら、新しい鉢の中央に、支柱を固定する鉢の穴の方向に枝が向くように植えた。
- ・植え替え後の地表面が鉢の縁から数センチ下になり、灌水したときに水がたまる部分がとれることをポイントとした。



仲間とも協力しながら

- ・ 植え替え後は株元がぐらつかないように割り箸などで支えるなどの工夫を提案した。

3. 夏休み中の管理

- ・ この時期はキクにとっても過酷な環境となるので気象変化と生育状況を気にしながら水切れや、肥料切れなど手遅れにならないような管理をすることに心掛けた。
- ・ 休み中にも時々登校して様子を確認することが求められ、多くの児童はこのことを心掛けたが、時には水切れで萎れる鉢もみられた。
- ・ 友達の鉢の様子にも気遣う児童もみられた。
- ・ 担当の教職員や指導担当者もこの時期は時々様子を見て、必要な水やりを補助した。
- ・ 7月下旬から夏休み明けころまでは週一回、液肥をあたえることも指示したが、専用の液肥の取り寄せや夏休み中ということもあり、十分に行えないことがあった。8月10日より9月の中旬までは週一回液肥をあたえたえる指導をした。



枝の仕立て方説明

4. 夏休み明けの管理

- ・ 2学期に入り、登校した児童は夏休み中にも時々自分の鉢を観察していたので大きな変化は感ずることなく継続した管理をすすめた。
- ・ 高温時期を経過した鉢は生育の差が目立つようになり、中には枯れそうに衰弱したものもみられた。これらは予備のものと入れ替えるとともに、「水や液肥をあたえていても衰弱したのはなぜか…？」などという該当児童の悩みに対する答えを教え、教材として活かすように心掛けた。



つぼみの決め方が大切

5. 9月の管理

- ・ 伸び始めた枝が3本の支柱に達したのからビニールタイなどで誘引した。
- ・ 枝の揃いや伸ばす方向をみながら予備の枝を含めての慎重な作業ではあったが枝元が裂けるなどの失敗もみられた。そんな時、自分の指の傷でも治療するかのようにテープなどで補修する光景もあった。
- ・ 3本の側枝が決まってからも1本程度の予備枝を残しながら支柱への仮止めをした。仮止めとしたのは、開花時に茎の長さに見合った支柱に付けかえる必要があったためであったが、児童によっては念入りにビニタイを何度も巻き付ける例も多く、意欲の一端と感じられた。
- ・ 側枝のわき芽摘み作業を各自おこなった。

8月下旬ころ側枝の先端に花芽が形成されると、葉のわきに新芽がのび始める。花芽は目には見えないので、このころの状態はなるべく説明するようにし、作業目的の理解につとめた。

- ・9月の上～中旬になると茎の先端部に複数のつぼみが見え始める。

この時期に一つのつぼみを残して早めに摘み取る。この作業は毎年ベテランでも迷うほどの重要さがある。完全なつぼみなのか、葉を含む不完全なもの（ヤナギ芽）なのかの判断で、この際は指導者が手助けした。

6. 10月の管理

- ・つぼみが大きくなり茎の伸びが止まったころ3本の支柱の付け替えや茎の固定作業をした。
- ・途中で茎を欠損した場合などの2本仕立てや、児童の希望による4～5本仕立ても可とした。
- ・花卉が伸びだしたころ輪台をつけた。支柱と茎、茎と輪台をそれぞれビニールタイで固定するが、熟練を要する作業であるので手助けした。
- ・花がまっすぐ上を向いて咲くために時々鉢の方向を変えることや隣の鉢との間隔についても適宜支援した。

- ・10月下旬になり、見ごろになった花は校内音楽会の開催にあわせて会場入り口に展示して来賓や保護者の方を出迎えた。また、常時児童玄関の入り口に展示して登下校時に見てもらえるようにした。



児童の玄関も飾った



これも自慢の出来ばえ

7. 片付け(12月中旬)

- ・花の咲き終わりにあわせて鉢からキクを取り出して上部を切り片付けをした。キクの根元にはすでに来年の春にのびる芽が成長していることを観察し、命をつなぐ準備をして冬を迎えていることを学習した。
- ・その株を大切に家に持ち帰る児童もいた。

■ 児童に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・キクの栽培をはじめるとの心構えとして、キクも自分たちと同じように生きている植物であるので、いつもキクの立場にたって世話をすることが大切であることを意識づけた。
- ・わからないことがあったらいつでもキクに詳しい専門家に電話などで質問や相談をするように助言した。

- ・病害虫などの葉の異常現象（例：絵描き虫とも呼ばれるハモグリバエによる、葉の表面にみられる白い曲線）を見つけての質問には、丁寧に説明した。
- ・下葉などに変色が見られたとき、著しいものは見ばえが悪いので除去したくなるが、そのままにして観察を続けながら原因を考えるようにした。
- ・クラスごとにキクづくり委員をおき、委員を中心に活動を進めた。
- ・指導者からのアドバイスは担任教師からキクづくり委員を通して児童に伝え、手遅れにならないように対応した、できる限り学校へ出かけて気づいたことを担任教師に伝えた。
- ・児童からの質問は、キクづくり委員に報告があがり、担任教師を通して指導者へ連絡があり、わかりやすく回答することを心掛けた。
- ・図画工作では「キクと私」を題材に絵を描いて、開花した花を記録に残した。
- ・児童の目が届きやすい児童玄関前で菊を栽培するようにした。
- ・花を分解して構造を見せたり、なぜ秋に咲くのかななどの不思議な生理生態など説明しようと試みたが少し難しかったかもしれない。
- ・登下校の道端にもキクの仲間がいろいろと見られるという点に関しては興味を示した。



今年度は、絵画で表現した

観察記録集を作成した
こともあった過去には、キクを題材に
版画集も作成した

■ 経費

- ・前記した諸資材の経費は一人あたり約600円であった。
- ・キクのポット苗は、近隣の愛好家から例年どおり学校の児童が栽培することに快諾が得られ、格安に提供をうけた。
- ・ポットや支柱のほか、前年までに使用したものを再利用するなど心掛けた。

■ これまでの成果（花育を実施したことでどのような効果があったか）

- ・育てていくにつれて、興味や愛着が生まれ、キクに触れたり観察したりする時間が増えた。
- ・葉の色が淡くなったり、アブラムシが付いたり、次第に少しの変化にも敏感になり、児童が自主的に殺虫剤をもらいに来たり培養液を施す姿がみられた。

- ・観察日記に、「花を育てていくうちに、花が咲くのが楽しみになった…!」という記述が見られた。
この日記を書いた児童は風邪で3日間休んだ後の登校日に「キクの葉が萎れて来ている!」と水をやり、それからは児童玄関を通るたびに菊の様子を観察していた。
- ・予備で育てていた20鉢近くのキクにも積極的に水やりをしたり移植作業に取り組んだりする姿が見られるようになり、愛着がわいている様子がうかがえた。

■ 参加者からの感想（児童、保護者）

- ・ 植え方のコツを教えてもらい、上手に植えることができました。今日から、自分たちがこのキクを育てるので、水やりを忘れずにやって、きれいな花が咲くようにしっかり育てていきたいです。
(児童の日記より)
- ・ 最初、育て始めた時は、丈夫に大きく育つかすごく不安でした。だけど林さんから話をたくさん聞いたり、作業をしたりしていったら、花がさくのがすごく楽しみになりました。
(児童の作文より)
- ・ 今日、キクの片付けをしました。6月から育て始め、枯れるまで大切に育ててきました。最後の片付けまでしっかりできました。茎の根元に、新しい芽が出ていたので、家でお母さんと相談して育てたいです。新しい芽も、今回教わったように、水やりをしっかりして大切に育てたいです。
(児童の日記より)
- ・ 植物も新しい芽に命を託し、つないでいることや、暖かくなるまで根元でじっと待っていることを新たに知ることができました。
(児童の日記より)
- ・ 「キクのお礼の会」がありました。キクづくりを通して、枯れ始めた葉は切り捨ててしまいがちだけど、必要なものなんだということが分かったし、林さんへ、一年間の感謝の気持ち伝えることができたのでよかったです。
(児童の日記より)



講師へのお礼の手紙

■ 今後の課題やその改善方法

【指導者の立場から】

- ・ 当校において長い伝統があるといわれる「キクづくり」に今後どのようにかかわっていくべきなのか？
- ・ 各種の園芸植物の中でキクを学校の教材としてとりあげる意義は
 - ① 昔から多くの人々に親しまれる「和花」の代表種である。
 - ② 栽培期間が長く、季節の変化とともに変わってゆく生育の姿が観察できる。
 - ③ 学校などの装飾環境にあう。
 等々あるが「伝統が負担になってはいないか？」と気になる。
- ・ 全員での授業のとき、時間の制約などから児童からの疑問などに十分フォローできたか気になる。
- ・ 指導者も高齢化しているので、学校教育におけるキクづくりについて対応可能な指導者の計画的な確保が必要である。
- ・ 授業時間外での自主活動であれば指導者としての対応は可能である。

【学校の立場から】

- ・ 教職員は異動や担当の学年があるので、職員の中で本校におけるキクづくりの経緯やキクの栽培等について詳細を引き継いでいくことが難しい場面もある。担当の職員になった者が困らずできるようにしていく必要がある。
- ・ 学校での授業だと、学習をスタートするにあたって、「伝統だから」取り組む傾向がある。もちろん、その理由もあるが、子どもたちを誘い込み、本気にさせるには、それでは弱い。今年度はその反省から「人々と植物のかかわり」に焦点をあて、1シーズンの活動に取り組んだ。指導する立場の職員が何を大事にし、子どもたちに何を学ばせたいか、願いを持って取り組むことが、ただ活動で終わらせないために大事になる。
- ・ 夏休み中の管理が難しい。殺虫剤や液肥は薬剤なので、夏休み中は担任が液肥をやったり害虫駆除した。また、キクの水やり当番を決めたが、担任もキクの観察をしながら気温が高い日などに水やり等の補助をした。
- ・ キクの生育状況に個体差があるため、どのタイミングで指導者に次の作業を教えてもらえばよいか判断に迷った。相談して日程を決めたが、全員が同じ作業を行うことができず、後日改めて作業することになった児童もいた。
- ・ 専科の授業や行事の都合で、指導者に教えていただくにも十分な時間が確保できない。特に、花芽の選定や輪台の設置などには時間をかけて丁寧に行えるようにしたい。

青少年育成事業としての花育活動

作成者： 藤沢中央ライオンズクラブ 和田 晃一

■ 実施主体

名 称：藤沢中央ライオンズクラブ
会長 今井 雄一
担当窓口：和田 晃一
ライオンズクラブ国際協会330B8R1Z



■ 取組地域 神奈川県藤沢市

日本大学藤沢小学校
湘南学園小学校

■ 概要

人の心の中に、思いやり、感謝、癒しの気持ちを醸成をするためには、少年少女の頃から花の持つエネルギーを体感することが大切なことなのではないか。自分の作ったブーケでお母さんが喜ぶという、温かな感情を体験させることで、花の持つ優しさをより感じることはできないのではないか。このようなステップを踏みながら、中長期の展望をもって花に触れてもらい、まずは花を活ける楽しさを実践してもらった。

初等教育の中に、将来的に花にかかわる授業が将来的に科目として花開くことを期待し、まずは花に直接触れる喜びを体験してもらった。校長先生にもご賛同いただき、昨年に引き続き2回目の開催である。

授業の一環として、45分の中で花のアレンジメントの制作をした。形はドーム型で360度どこからでも見られる作品とした。小学生には少々難しいデザインかもしれないが、どうしたら作品がドーム型に見えるか 底辺と高さのバランスを考えるという「構造」についても教えながら作品制作をした。

素晴らしい作品が出来上がり、児童との楽しい活動となった。

■ 取組開始時期・経緯

平成26年2月21日藤沢中央ライオンズクラブ設立40周年の式典の事業の中に青少年育成事業の一部として「花育」を取り入れることを内外に発表した。

第1回の実施は、平成27年12月12日日本大学藤沢小学校「母へ送る感謝のアレンジメント」、第2回は平成28年3月1日湘南学園小学校3年生170名、平成28年12月3日日本大学藤沢小学校1年生親子70名で実施した。

事業の実施に当たり、予算の計上については、年度当初に理事会へ企画書並びに予算案を提出、次に全員例会での承認を受けてからレクチャー講師希望者を募集し、6名が私のスクールでの特訓を受けて現場での講師に就任した。今回は3回目でもあり、講師もフラワーデザイナーの風格が備わってきたように感じる。

目的（目標）

・「梅檀は双葉より芳し」（せんだんはふたばよりかんばし）

小さいころから花に親しむことで、花の持つ生命力を体感したり、作品を完成するための集中力を養い、安定した心を育てる。

家庭の中でも、花のある生活や空間を楽しんでもらいたい。

目指すもの

昔の学校の教室には、花瓶や一輪挿しに花が活けてあったと記憶している。

今の小学校の教室には、どのくらい花が飾られているのだろうか。

学校や教室に花があることで、心が落ち着いたり和んだりして、学校教育の中にある「いじめ」や様々な問題が少しでも減少すればよいと考えている。同じように、家庭の中にも1本の花が食卓に在ったら心が和むのではないか。また、レストランに行った時、たった1輪でもテーブルに花が在ったら、素敵だと感じるのではないか。

1輪の花による影響が、心の中に余波となって広がるには時間がかかると思うが、教育とは時間のかかることであり、今から少年少女の感性の中に花の持つ素晴らしさを感じてもらいたい。



開始前にスタッフミーティングを行い説明手順などを確認する



わかりやすく黒板に手順を書いておく



全体説明の後に、各クラスに分かれてフラワーアレンジメント作りを行う



教室では、児童のとなりに保護者が座り一緒にフラワーアレンジメントを作る

【取り組み内容】

- 対象者・人数：日本大学藤沢小学校
1年生4クラス
児童70名+保護者70名 140名
- 教 科：土曜日に実施
- 所要時間：2時限
- 対象場所：小学校教室
- 指導者：1クラス4名（12名）
- テーマ：親子で作るドーム型のフラワーアレンジメント



■ 資材

<制作サイズ>直径25センチ×高さ15センチ

- ・①花器（直径15cm）
アレンジ用バスケット 1個 茶色
- ・②吸水性スポンジ 1/2サイズ
- ・③セロファン（防水用） 1枚(45×45cm)
- ・④制作手順説明解説資料（図解） 1枚
- ・ハサミ、定規（生徒持参）
- ・持ち帰り袋 1枚
（作品が出来上がってから配布）



■ 花材（一人分ずつセロファンで巻いておく）

- ・ホールカーネーション 1本
- ・スプレーカーネーション 5本
- ・カスミソウ 1本
- ・スターチス 2本
- ・レザーファン 3枚



机の上には、事前にバスケットにセットした吸水性スポンジと花材、資料を置いておく

■制作手順詳細

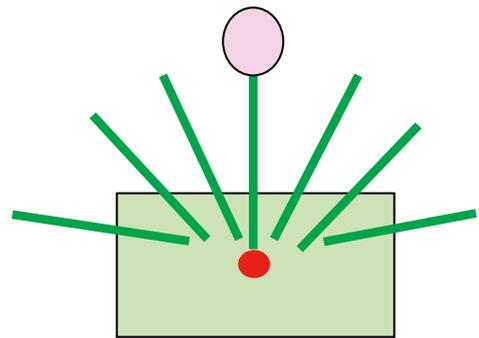
1. 完成形の説明、ドーム型とはどんな形か、底辺と高さの比率。どうしたら綺麗に見えるか。
2. 完成寸法の確認、今回は底辺を25cmに、高さを15cmに設定した。小学校1年生には難しいかもしれないが、アレンジメントの完成形のバランスを体験の中で体得してほしいと考え企画をした。
3. 吸水性スポンジの性質説明
毛細管現象、毎日の給水の必要性の説明など。
4. 花の挿し込みの長さ等について
吸水性スポンジの中に設定した1点に向かって、茎が放射状になるように挿すことで茎が吸水性スポンジの中で交差しないようにする。茎を吸水性スポンジに3~4cmの深さまで挿し込むとよい。

■事前の準備

1. 容器（バスケット）にセロファンを敷き、十分に水を吸わせた吸水性スポンジをセットする。
2. 容器の縁の吸水性スポンジに10センチにカットしたレザーファンを8枚円形に挿し込む。
上下各1枚、左右各1枚、次にその間に各1枚を挿す。
3. ホールカーネーション1本を、高さ18~19cmにカットする。
4. スプレーカーネーションの開花14輪分を、高さ10~15cmに茎を切り分ける。



使用する花を使って説明する



横から見た断面図



容器の縁にレザーファンを挿していく



花を切る長さは、指を使って説明

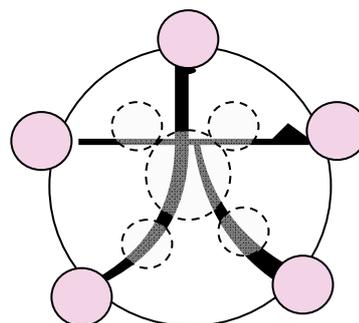
■ 制作

1. ホールカーネーション1本を吸水性スポンジの中央に垂直に挿し込む、容器の縁から高さ10～13センチに設定する。次にその周りにスプレーカーネーション4本を15度傾けて挿し込む。



ホールカーネーションを
吸水性スポンジの中心に挿します

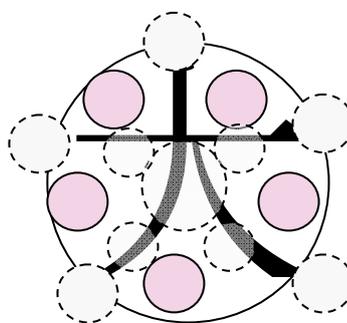
次にスプレーカーネーションを側面に対して水平に5本配置する。この時に、1年生にもわかりやすくするために、漢字の大的字をイメージして配置すると五角形に近い形になる。



2. 次に側面に挿した花の位置から30度ほど上がった場所の大的字の間に、カーネーションを5本挿していく。これで、ドーム型の配置が完成です。



カーネーションがドーム型になるように挿していく



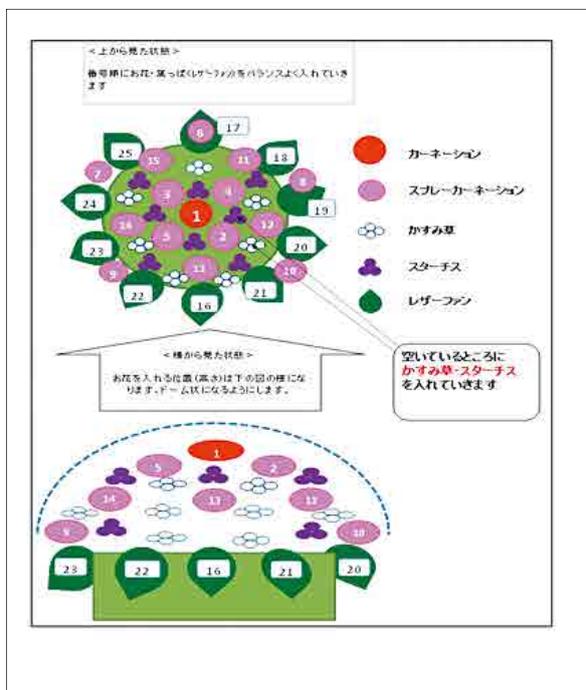
3. 空いている空間に、10～15cmの長さにカットしたスターチスを挿していきます。動きを付けるために、カスミソウをスターチスやカーネーションの少し上になるように配置すると高低差ができて動きがでます。これでドーム型は完成です。



ドーム型のフラワーアレンジメントが完成

■ 指導ポイント

1. まず出来上がっている作品を見せて、これから作る作品をイメージしやすくする。ここで、作品や花そのもの美しさを感じてもらい、生徒が関心をもてるようにする。
2. どのようにフラワーアレンジメントが出来るのか、きれいなドームの型に見えるように仕上げる事が出来るにはどうしたらいいのかを説明する。
3. この時に花の寸法も説明することが大切。数字ではなく、見た目の感覚で説明する場合は、「親指と人差し指の間の長さ」、「親指と中指の間の長さ」など、身近な体の部分を使って説明することも必要。



保護者用の制作手順解説資料（図解）



完成のイメージができるように見本を用意



親指と人差し指で、花を切る長さを確認



ハサミを使うときは、保護者にも手伝ってもらう

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

1. まずは、児童の日常生活の中で、誰かに喜んでもらいたいという深層心理に着目をするとういと考えた。今回は、お母さんに自分で生けた花をプレゼントすることを基本とした。大人になった時にも、子供のころに味わった感動やうれしかった気持ちを覚えていてほしい。



デザインを考えながら生けていく



藤沢中央ライオンズクラブの花育指導者

2. 今回の経費は

藤沢中央ライオンズクラブの青少年育成プログラムからの提供です。
生徒には金銭的負担は有りません。

3. 経費

1人当たりの花材・資材費 約2,000円程

ホールカーネーション	1本	スプレーカーネーション	5本
スターチス	2本	カスミソウ	1本
レザーファン	3枚	吸水性スポンジ	1/2個
バスケット	1個	セロファン	1枚



完成したフラワーアレンジメント作品



作品は、学校の出窓にも飾りました

■ 学校からのお礼の手紙

和田晃一先生

拝啓

師走の候 何かとご多用のことと存じます。

先日は、特別講座を実施していただき、誠にありがとうございました。今年もたくさんの感謝の声が寄せられております。先生をはじめ、当日ご指導いただいた皆様方に感謝申し上げます。

さて、今年も児童の書いた手紙を送らせていただきます。それぞれが思いを込めて書いておりました。ご一読いただけると幸いです。

これからもお付き合いのほど、よろしくお願いいたします。

寒さ厳しき折、くれぐれもお身体ご自愛ください。

敬具

日本大学藤沢小学校



藤沢中央ライオンズクラブ 指導担当 和田 晃一（左）と
日本大学藤沢小学校 校長 坂庭 眞吾先生（右）の記念撮影

■ 今後の課題

1,2年連続で3回の実施をしたが、予算は藤沢中央ライオンズクラブの青少年育成プログラムから支出した。

現在、私の所属してる藤沢ライオンズクラブでは、今後も継続的に花育を実施する方向に進めているが、助成等があれば経済的な負担が削減できる。

農業高校における花育活動

公益財団法人全国学校農場協会 常務理事

千葉県立鶴舞桜が丘高等学校 教諭 風間 龍夫

はじめに

全国の農業高校は約380校あり、農業高校としての特性を活かし、地域と連携しながらさまざまな地域活動に取り組んでいる、地域活動の中で、花いっぱい運動、花のまちづくり活動には多くの学校が以前から取り組み、農場協会の例年の調査では3割以上の学校が行っていると回答し、近年では花育活動にも積極的に取り組む学校が1割ほどに増えている。今年度は、昨年度に続き、全国の農業高校の、地域の人に働きかけて花を育てることの楽しさを伝え、花をいかに生活の中に取り入れて心豊かな生活を築いていくかという花育の観点に立ち実践している花育活動の取り組みをいくつか紹介する。

(注 農業高校は農業に関する科目を学習する学校をいうが、農業関係高校というべきで、農業学科だけからなる単独校、農業学科のある普通科等の他学科との併置校、総合学科校等からなる。)

1 北海道旭川農業高等学校(旭川市)の事例

「花の魅力地域に発信！」

記載 教諭 齊藤 睦

■ 活動の概要

旭川農業高校は、農業科学科・食品科学科・森林科学科・生活科学科の4学科が設置される全校生徒475名の学校です。北海道北部の農業後継者育成を目的に設立され、これまで多くの農業の担い手を輩出してきました。近年は、女子生徒の入学者が増加し65%を占める状況にあります。

草花を活用した学習は、生活科学科の1年生『農業と環境』、2・3年生『草花』、2・3年生コース選択科目『園芸デザイン』『園芸セラピー』に位置づけられ鉢花を中心に教育活動が実践されています。草花の生産学習と年7回の販売学習をとおして、多くの市民に草花の魅力を発信しています。また、草花を活用し専攻班活動が中心となり、幼稚園や小学校、老人福祉施設などと交流を深めています。

■ 草花交流班の活動

草花交流班は、低迷する草花の消費拡大と普及を目的に活動しています。自分たちで栽培したバラをプリザーブドフラワーに加工し、イベントでのアレンジ講習や小学校との交流を行い、昨年からは花の6次産業化を目指した研究も始めました。

1 食べるたいせつフェスティバル

10月コープさっぽろが主催するこの催しに、昨年から参加しています。花のPRとプリザーブドフラワーの知名度を上げることを目的にプリザアレンジ講習を行っています。おもな体験者は小学生が8~9割です。バラのプリザーブドフラワーをメインにアレンジしますが、思い思いのアレンジを製作し楽しんでもらっています。

直径5cmほどの花器にアレンジしクリアケースの中に入れて完成となります。教えるのは例年2年生、アレンジの経験も指導経験も浅く最初は緊張して会話もあまりできずにいますが、入れ替わり体験者が来ることで徐々に慣れ、催事が終わる頃には自信あふれる講師の顔になっています。小学生から大人まで、自分たちが加工したプリザーブドフラワーを紹介しながら指導していく体験は何よりも生徒を大きく成長させてくれています。



食べるたいせつフェスティバル

2 旭川市立永山東小学校1年生とのクリスマスツリー製作

12月今年度から学校近くの永山東小学校と連携し、クリスマスツリー製作を実施しました。

プロジェクト活動で加工しているコニファのプリザーブドフラワーに装飾しクリスマスツリーを製作する交流です。1年生13名を対象に本校草花交流班2年生10名が講師となり交流するものですが、どういう装飾をどういう手順で行うか学校で打合せを重ね、花材や飾りも事前に準備しました。1年生ということもあり、長時間の集中は厳しいことも予想され1時間程度の交流となりましたが、子どもたちは熱心にクリスマスツリーづくりに取り組み、それぞれ個性的なものをつくりあげました。

本校生徒の活動後の感想では、小学校に出向いての活動は初めてだったこともあり緊張したようですが、有意義な体験であり今後も是非実施したい活動であるとのことでした。小学校とも相談の結果、次年度以降も継続していこうと話しを進めています。



永山東小学校活動

■ 園芸福祉班の活動

園芸福祉班は、園芸福祉プログラムとして、幼稚園や支援学校、老人福祉施設などと交流学习を実施しています。花の寄せ植えを一緒に製作し楽しんだり、花壇造成や野菜の収穫体験など多くの交流学习を実践しています。園芸福祉班の生徒は、保育士や福祉施設を希望する生徒が多く交流活動に積極的に取り組んでいます。

○特別養護老人ホーム「永山園」との園芸福祉交流

学校に隣接する「永山園」とは例年園芸福祉交流を実施しています。6月には、総合実習の時間に花壇造成として本校で生産している花の苗を用いてデザイン、植え付けを行っています。また、今年は天候の関係から8月と遅くなってしまいましたが、園芸テーブルへの花苗の植え込みを行いました。園芸テーブルは車いすの方でも植え込みができるように製作したテーブル花壇で、通常の花壇では見るだけで植え込みはできなかった方々も生徒と一緒にテーブル花壇に植え付けることができます。生徒が来園することを例年楽しみにしてくださり、生徒にとっても老人との交流は良い体験になっています。また、散歩を兼ねてもっと学校に足を運んでもらい温室などで花を楽しんでもらいたい、そして学校でも一緒に花壇に花を植え込みたいと考え、レイズドベットも製作しました。H型の花壇で、車いすの方々も手が届くよう工夫したものです。今年度2つめが完成し来年は学校に来てもらい一緒に植え込む予定です。



園芸テーブル



レイズドベット

■ おわりに

草花を活用した学習は、かつては園芸科が中心となり実施していましたが学科転換によって生活科学科がその役割を担っています。花苗の生産、鉢花、切り花、プリザーブドフラワーの加工と学習展開は多岐にわたっていますが、地域からの期待も強く感じています。草花の需要は比較的年齢が高く消費も減少傾向にありますが、草花を学習する学校としては、小さな子どもたちからお年寄りまで花を楽しんでもらえる活動をしていくことが大切であると考えています。今後も地域に支えられながら草花の魅力を多くの人に伝え、生徒たちの心を育む取り組みを実践していきたいと思います。

2 群馬県立藤岡北高等学校(藤岡市)の事例 「生徒が伝える花育活動」

記載 教諭 高野 覚

■ 活動の概要

本校は、生物生産科・環境土木科・ヒューマンサービス科の3学科6コースの農業高校です。ヒューマンサービス科フローラルライフコースでは、草花園芸に関して栽培から活用まで幅広く学習し、その役割や必要性を理解し、美しく豊かな生活環境や地域社会の創造を目指し様々な活動をしています。

本校で栽培した草花を使い、生徒が身に付けた知識と技術で子供たちへの花育活動を実施しています。

■ 活動内容

(1) シンビジウムのコサージュ作成

群馬県藤岡市は洋ランであるシンビジウムの切り花生産が盛んであり、全国でも有数の産地です。しかし、切り花シンビジウムは東京などの都市部に出荷され、地域での流通はほとんどありません。小学生・中学生を対象に卒業式用のコサージュをシンビジウムで作成することで、地域の花に親しんでもらいたいと思っています。

小学校・中学校に出向き、作成方法を高校生が教えながら一緒に作ります。コサージュに使用する葉は、それぞれの学校にあるツバキの葉を使います。一本一本ワイヤリングする本格的な方法で作成しますが、簡単に付けやすいように安全ピンを用います。地域のシンビジウム農家の方々にも協力していただき、花の特徴などを説明してもらいました。

卒業式のコサージュということでみんな真剣に作ってくれました。シンビジウムを知らない子どもも多くおり、地域の花に触れる良い機会となりました。



卒業式のコサージュ



コサージュのワイヤリング

(2) 「おひさま教室」の実施

今から7年前、「自分たちが学習した内容で子供達と花育をしたい！」と生徒からの申し出がありました。自分たちで交流内容を考え、参加者募集から運営まで生徒自身がおこなう「おひさ

ま教室」です。屋外のおひさまの下、親子で参加する花育をテーマに始まりました。最初は希望者の3年生4名で実施しましたが、年々規模が拡大し、コース全体での活動になりました。参加者も年々増加し、今年度は約70名の子供達が参加してくれました。

呼びかける対象は、幼児から小学生低学年。内容は、生徒達がグループになり花育体験ブースをつくり、子供達に自由に回ってもらっています。担当する生徒によって、毎年変わりますが、今年度は以下のような内容で実施しました。

草花の寄せ植え 校内のバラを使ったフラワーアレンジメント 押し花しおりづくり
花育紙芝居 草木染めを使った小物づくり お花探しゲーム お花のお絵かき

生徒自身が、子供でも楽しんでできるように工夫し、安全にも考慮して実施しています。参加してくれた親子は、笑顔で楽しそうに体験してくれました。親子で花に触れる良い機会になったと感じています。



屋外で行う「おひさま教室」



子供たちに説明

■ 成果と課題

シンビジウムのコサージュ作成は、地域特産の花を使うことでシンビジウムへの愛着が増し、地域農業生産を知るきっかけになりました。また、シンビジウムは、花持ちが良く、コサージュに利用するのに適しています。卒業式を華やかにするシンビジウムコサージュを多くの学校に広めていきたいと考えています。

おひさま教室では、教員が最小限の条件や注意点を生徒に伝え、内容を生徒に考えさせることで、いろいろなアイデアが生まれました。地域の方々にも大変好評で、感謝の言葉も頂いています。

高校生が、先生役になって花育の指導をすることで、自分たちが学んでいることがより定着し、想像力やコミュニケーション能力も向上するなどの効果が期待できます。高校生がおこなう花育活動は双方向で有意義な活動であると感じます。

今後は、設定時期や対象年齢を考えたプログラムを作成し、年間を通した花育活動が展開できるとより効果的だと考えています。

3 千葉県立茂原樟陽高等学校(茂原市)の事例

「私たちの茂原駅前花壇！ 地域交流がはじまる」

記載 教諭 河内 麻友子

■ はじめに

本校は、生産技術科、生産流通科、緑地計画科、電子機械科、電気科、環境化学科の6学科からなる農業科と工業科の専門高等学校です。「真理を探究し、創造に挑戦する学校」、「広い視野を持ち豊かな感性を育む学校」「個性を伸張し、夢を叶える学校」「国際社会に開き、地域とともに輝く学校」を目指して各学科ともこれまで様々な取り組みを行ってきました。

生産技術科の園芸コース草花専攻では、2年次より草花を専攻して学習をしています。

■ 活動概要

JR外房線沿いにある学校の最寄り駅である茂原駅は多くの生徒や地域の方が利用する駅です。数年前、茂原市環境整備課の方から、「茂原樟陽高校の花苗で、駅前の花壇を作成してほしい」という依頼をいただき、高校生でも社会貢献ができると思い、科目「課題研究」の一環として、取り組むことにしました。地域に密着した活動のスタートです。



JR外房線 茂原駅



都市公園内占有許可書

■ 活動内容

市役所から使用の許可書をいただきました。活動の目的は、実習で栽培した花苗を公共の場に植栽することで地域住民への安らぎの場を提供し、茂原駅周辺の環境美化を推進することです。花壇により癒し効果が期待でき、社会貢献につながると考えました。茂原駅東口は、ロータリーの中心にある5つの花壇（エリアA～D2）と、商店街の両側に配置されている14のコンテナです。エリアAはロータリーのバスの発着地であり、バス利用者が主に目にするところです。Bは駅の正面口で、乙女の像を右側に配置し、2段仕立ての花壇で一番人目に触れる場所です。CとD1は、ロータリー右側の三角形の花壇で、D2は、メインストリートの突き当りにある花壇です。5つの花壇には1200株、商店街のコンテナには400株の花苗を使用しました。

まずは駅前に飾る看板作りです。多くの人に見ていただきたいと思い、駅正面口にあるエリア

Bに設置しました。平成27年5月の春花壇の作成に始まり、6月のアンケート調査、10月の社会福祉協議会の方との交流会、10月末の秋花壇の作成、そして28年度の春花壇の作成です。

ロータリーの花壇は、背後につつじが植栽されており、道路側から見やすいよう、背の低い花を手前に植えて、後ろの花の見栄えが良くなるようにデザインをしました。当日の作業効率を考え、株間は20cmで固定し、作業道具の準備をしました。



看板作り



エリアBに看板の設置

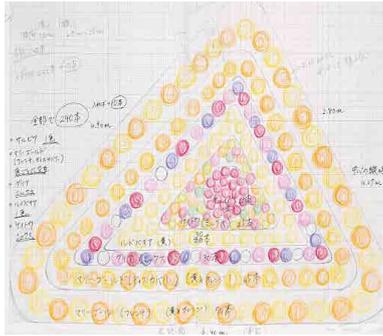
①平成27年度 駅花壇

27年度の春花壇は5月29日に行いました。使用した花の種類は、マリーゴールド、コリウス、サルビア、カンパニュラ、ルドベキア、ダリア、ノースポール、ケイトウの8種類です。27年度の秋花壇は10月30日に行いました。使用したのは、パンジー、ビオラ、ダイアンサス、ノースポール、キンギョソウ、ネメシア、アリッサムの7種類です。

エリアAの春花壇は、マリーゴールドとサルビアを、秋花壇はパンジーをメインに使用しました。エリアBの春花壇は、黄色系のマリーゴールドを使い、秋花壇はノースポールやダイアンサスをメインに使用しました。エリアCの春花壇は中央を寄せ植えに周囲を年輪状に配置し、秋花壇はベルト状にいろいろな花材を混ぜて植えました。エリアD1の春花壇は手前が明るい花になるようグラデーションを配置し、秋花壇は3種類に絞ってピラミッド状に配置しました。エリアD2は範囲が狭い分、春花壇はマリーゴールドを、秋花壇はビオラとキンギョソウに絞って配置しました。商店街の春のコンテナは7パターンを考え、色鮮やかにデザインしました。秋コンテナは、パンジーやネメシアなど、1、2種類の品種配置をしたことで、コンテナの統一感ができました。植栽活動を終えて4か月ほど経ったころの花壇の状態が、自分たちが思い描いていたデザインと違ってしまったことが反省点です。カンパニュラの生育が悪かったことや、株間、条間が正しくとれなかったことが課題点です。



植栽活動中



春・エリアCのデザイン画



コンテナ植栽完成



全員で集合写真

②アンケート調査

春花壇の制作を終えてアンケート調査を地域住民への調査や、本校生徒への調査、89件のアンケート調査を行いました。茂原駅利用者や商店街の方のご意見は参考になりました。商店街に花壇があることで華やかになったと答えてくれた方がほとんどでした。この植栽活動について多くの方から、今後も続けたほうが良いとお褒めの言葉をいただきました。

花を見たことにより、癒された、元気をももらった、という意見や中には全体の色をそろえたほうが良いとアドバイスや、花壇をハートや星などの模様にするほうがきれいというご意見もありました。今後も花壇作成とともに地域活性化させるため、このアンケート調査も続けていきたいと思えます。



地域住民への調査

③交流会

10月16日に社会福祉協議会と茂原市役所の方々が本校に来校され、交流会を行いました。プロジェクターをつかい、お互いの活動や作業手順などを話し合い、活発な意見交換ができました。最後にアンケートに答えていただき、多くの貴重なご意見をいただきました。



交流会で意見交換



生徒も意欲的に発言

④平成27年度 秋花壇

秋花壇は、交流会での活発な意見交換のおかげもあり、秋花壇当日の植栽は協力して効率よく行うことができました。作業の最後は、全員で記念写真を撮り、高校生も、社会福祉協議会の皆さんも笑顔があふれました。本校の活動が地元新聞に取り上げられ、地域の方からの反響も良かったです。

⑤平成28年度 春花壇

平成28年度の春花壇の作成がスタートし、エリアAは、ななめに区分けする作業が難しく、時間がかかりましたが、サルビアの見栄えが良くなりました。エリアBは、乙女の像を中心に複数の円を組み合わせるデザインです。苗の配置が複雑でしたが、社会福祉協議会の方々と効率よく作業をすることができ、はかどりました。エリアCは、3種類の花材をベルト状に配置したデザインです。20cm間隔のひもによりバランスよく作成することができました。エリアD1は、白いペチュニアがきれいに花壇を彩り、華やかで効果的でした。エリアD2は、デザイン通りにできたのですが、作業スペースが狭く、手順書のとおり作業を行うのが大変でした。これは、商店街に配置しているコンテナです。黄色とオレンジのマリーゴールドやニチニチソウとマツバボタンは大好評でした。

コンテナは定植できる数が決められている分、株間に余裕を持たせることを重視しました。すべての花壇が完成しました。春花壇は、晴天に恵まれ、作業がスムーズに行えました。今年度今回も活動を取り上げてもらいました。

このように地域交流として駅花壇の植栽をしてきましたが、大切だと思うことは地域の方と継続して活動に取り組むこと、更に活動の幅を広げていくことです。地域の方々や駅利用者にとさらに興味をもっていただくためにアンケート調査を参考に華やかなデザインを作成することが課題となりました。



エリアC植栽活動



地元新聞に掲載

■ まとめ・今後の課題

茂原駅前花壇全体のデザインが統一できるようにテーマを決め、花材と色を考えることです。花苗の栽培管理や手入れを率先して行うこと、よりわかりやすい手順書を作成して、社会福祉協議会の方と積極的に作業の打ち合わせを行う、植栽後は、アンケートを取り、地域に根付いた活動を目指すことです。この活動を通じて生徒たちの地域へ思いや関わりを大切にしていきたいと考えています。

4 兵庫県立但馬農業高等学校（養父市）の事例

「花育は優しい心を育てる活動 ～五感で感じる草花とのふれあい～」

記載 教諭 上垣 弘也

■ はじめに

花育は、平成26年に公布された「花きの振興に関する法律」の中にも、「児童、生徒に対する花きを活用した教育、地域における花きを活用した取組の推進」と位置づけられており、本県においても、行政をはじめ花き産業を取り巻く様々な立場から「花育」が実践されている。本校でも、環境教育を「心の教育」と捉え、人の心にアプローチする手法として「花育」に着目し、平成27年度より、課題研究の新たな試みとして花育に取り組んだ。

連携先を模索したところ、近隣の小学校との交流機会に恵まれ、6年生の児童を対象に「花育」を目的とした体験授業をおこなうこととなった。

この事例報告は、本校生徒が科目「課題研究」で取り組んだ「花育授業の研究内容」を中心に構成されている。

■ 「花育」を目的とした授業

花育授業は、花との「親しみ方」を提案するというスタンスに立って授業を組み立てることとし、児童の視覚のみならず、触覚や嗅覚、味覚などの感覚にはたらきかける体験型授業を行うことにした。この授業で使用するために研究・作製したのが「センサー・コンテナガーデン」である。

※センサー・コンテナガーデン

センサーガーデンは、「(sensory) 感覚の庭」であり、感覚を刺激し、植物の香りや感触などを楽しむことを目的とした庭である。そうした特徴をコンテナガーデンで再現するものとして「センサー・コンテナガーデン」の製作に取り組んだ。

【花育を想定して作製したセンサー・コンテナガーデンの利点】

- ・草花の植え込みには、発泡スチロールのレジャークーラーを使用した。このことで、授業の際、1区画を抜き取ることができ、児童に花を提示しやすいものとなった。また、栽培特性の異なる草花を別々に個別管理することも可能で、季節や授業対象、目的に応じて入れ替えができ、汎用性の高いコンテナガーデンとなった。
- ・持ち運びが可能である。脚は折りたたみ式で、運搬しやすく、準備もスピーディーにおこなえる。
- ・コンテナに高さ(脚90cm)を持たせることで、児童が対象の活動においては、多角的に観察することができる。
- ・座った状態での使用も可能であり、福祉施設等に活動の場を広げる可能性が確保された。



センサー・コンテナガーデン



植え込みに発泡スチロールのレジャークーラーを使用

■ 花育授業の実践

- (1) 目的：草花と関わる活動を通して、草花への興味・関心を喚起し、花を身近に感じてもらうとともに、花を慈しむ優しい心を育てる。
- (2) 対象：近隣小学校 6年生（男子5名、女子3名）
- (3) 場所：小学校会議室
- (4) 時間：準備10分、活動45分、片付10分
- (5) 花材：コリウス、ヒマワリ、ケイトウ、サルビア
アップルミント、ローズマリー、パイナップルミント



発泡スチロール容器に植える

- (6) 内容：上記の花材を活用し、五感を刺激する活動メニューを体験する。（以下参照）

感覚	花材	活動の内容
視	コリウス	スケッチに取り組む。（「葉にも観賞価値がある」ということを伝えるため、観察機会をつくる。）
触	ヒマワリ・ケイトウ	ヒマワリの茎、ケイトウの花を触ってもらい、その感触をカタカナ4文字で表現（記入）する。
嗅	ハーブ	ハーブの香りを嗅ぎ、アップルミント、ローズマリー、パイナップルミントの3択クイズに挑戦する。
味	ハーブ・サルビア	アンケートを記入。並行して、ハーブはハーブティ、サルビアは蜜を味わう。

(7) 考察

今回の取組では、「五感を刺激する」ことをテーマとしながらも、「聴覚」に働きかけるメニューを準備できず、検討の余地が残った。しかし、活動のようすを見てみると、児童はとても楽しそうな表情を見せ、意見を交換しながら積極的に活動に取り組んでおり、興味・関心の高さがうかがえた。記録用紙の記入にもたいへん意欲的で、バラエティー豊かで、ユニークなコメントを数多く書き残してくれた。

活動後のアンケートによると、「活動の前と後で、花への興味はどのように変化しましたか。」という問いに対して、8名中7名が「興味が大きくなった」と答えてくれた。また、自由記述の感想欄には、「普段できないことが体験できてよかった。」「植物を五感で感じる事ができた。」「花をじっくり見ると、新しい発見があった。」などの記述が見られ、活動の評価としては、一定の満足感を得ることができた。

児童の記述は、先入観にとらわれず、思ったことをストレートに表現してくれるので、「書くこと」「表現すること」は、花育活動において、重要な要素であると感じた。また児童は、一つ一つの活動に丁寧に取り組んでくれたため、想定を超える時間を必要とした。特に、スケッチでは、「最後まで描き上げたい。」「もっとスケッチしたい。」等の声が聞かれたので、時間設定においても改善が必要と感じた。

今回の花育授業は、本校生徒にとっても「教える側」に立つことで、学ぶことが多い取組となった。児童に対して、「見る」こと以外の草花の楽しみ方を提案したことで、「草花との関わり方」という点においては、特に学びを深めることができた。また、体験授業を作り上げていく過程において、アイデアを出し合い、試行錯誤を重ねたことで、ひとまわり大きく成長することができたように思われる。

今後は、活動内容にバリエーションを増やし、学年の違いや、活動場所の違いにも対応し得る準備が必要であると感じている。

こうした活動を通して、将来の生き方を考える上で、「花育」というキーワードを念頭に置きながら、草花との関わりを大切に、それを「伝える」姿勢を持ち続けてもらいたい。

1 目で楽しもう (視覚)
 コリウスの葉の輪郭をスケッチしてみよう!

表


裏




4 口で楽しもう (味覚)
 まずは、サルビアの蜜(みつ)を吸ってみよう! どんな味がする? (自由に書いてみよう)

えんじゅが甘くておいしい、少し苦み茶の味が程々
 少しかき入っていたい、



次は、ハーブティーを楽しみましょう。(口も使いますが、鼻も使って楽しみましょう。)
 どんな味がする? どんな香りがする? (自由に書いてみよう)

アップルミント

ローズマリー

油断の味い味が、ローズマリーを
 混ぜると味がよくなる、ローズマリー
 1とたいていかなんか
 1がして、茶にはいい、

2 触って楽しもう (触覚)
 ヒマワリの茎を触るとどんな感じ? カタカナで表現してみよう! (いくつ書いてもいいよ)

ザラザラ、ジリジリ、チクチク

ケイトウの花を触るとどんな感じ? カタカナで表現してみよう! (いくつ書いてもいいよ)

フサフサ、ホワホワ

5 今日、どんなことを学べたと思いますか?

花でいろいろすることを通してやるのがよかったです
 ハーブティー家ではなかなかのまなびから
 よかったです。



3 鼻で楽しもう (嗅覚)
 ハーブの香りをかいで、ハーブの名前をあててみよう!

A	こたえ: パインナップルミント
B	こたえ: アップルミント
C	こたえ: ローズマリー



この中に正解があるよ!

アップルミント
ローズマリー
パイナップルミント

6 アンケートに協力してください

1. 家に花はかざってありますか? (はい) (いいえ)
2. 家にある花を毎日見ますか? (見る) (あまり見ない)
3. 学校以外で植物を使って遊ぶことはありますか?
 (よく遊ぶ・たまに遊ぶ・まったく遊ばない)
4. 今日の交流会の前と終わったあとでは、花への興味はどのようになりましたか?
 (大きくなった・変わらない・小さくなった)
5. もしもう一度、このような交流会があれば、どんなことに挑戦してみたいですか?

フローアールミントがほしい、

記録用紙

■ おわりに

地域の子どもたちが、以前のように野山を駆け回って外遊びをする光景が見られなくなり、農村部に暮らしながらも自然と触れあう機会が減少している今日、「花育」を通して「草花との親しみ方」を伝えることには、たいへん大きな意義があると感じた。

本校が所在する養父市の花き産業は、農家戸数の減少もあって、厳しい状況がうかがえる。そうした中で、地域の未来を担う子ども達の視線を「草花」に向け、花の価値を伝えることには、ある種の使命を感じている。まずは、こうした取組を継続できるように、地盤を固め、活動の充実を図りたい。

5 岡山県立高松農業高等学校（岡山市）の事例

「スリー Sハートフルプロジェクト～文化の華香る街づくり～」

記載 教諭 松岡 隆雄

■ はじめに

2011年3月11日、東北地方を中心に日本を襲った大地震、津波が押し寄せ家屋は倒壊し、全てが波と共に流されていった。私たちは、被災地の方々に岡山から勇気と希望を届けようとJR岡山駅に立体花壇を造った。それがきっかけとなり、立体花壇で学校のある地域を明るく文化の華薫る街にしようとしたのが「スリー Sハートフルプロジェクト」だ。私たちが毎日利用しているJR備中高松駅、通学路、学校の3つの頭文字からスリー S（表1）と名付けた。



表1 スリーSとは

■ 活動の概要

私たちの学校の周りには、豊臣秀吉が水攻めをしたことで有名な「備中高松城址」をはじめ「造山古墳」「最上稲荷」などの名所・旧跡がたくさんある。私たちが日々栽培している草花を用いて、地域の子供たちから高齢者の方々も巻き込んで、この地域の観光地とも結びつけた明るく活気ある街づくりを目的に取り組みを始めた。

1 JR備中高松駅

駅構内にJR西日本岡山支社の許可を得て造山古墳の形をした立体花壇を造った。設計から施工まで、すべて本校農業土木科の生徒が行った。花壇の上には備中高松城と備中国分寺（五重の塔）の模型を置き、四季の草花やいろいろなハーブ・野菜を植え付けて新しいタイプの立体花壇（写真2）ができあがった。



写真1 駅構内の造山花壇

2 通学路

約150mの通学路の左側にレイズドベッドといわれる車椅子の方でも植え付けや管理ができる花壇4個（1m×1.5m×0.8m）（写真2）と、交差点にはハーブと四季折々の草花を植えられる花壇（約20㎡）、フェンスにはハンギングバスケットを10個取り付け、五感で楽しむことのできる鮮やかなストリートとなった。



写真2 レイズドベッド

3 学校

校門から校舎までの左右にある植物園（約50m）には、ハンギングバスケット16個と豚やうさぎなどの動物トピアリーを置き、楽しみホットする癒やしの空間となった。



写真3 動物トピアリー

■ 活動の内容

2年目以降は、地域の方々との交流活動に重点をおいて、景観創造（Scene）、起業学習（Study）、社会教育（Social）の頭文字のSを新たなスリーSと称して取り組んでいる。今回は、地域の方々と草花の装飾活動・管理を協働で行っている、その一端を紹介する。

1 寄せ植え作り・ハンギングバスケット作り



写真3 寄せ植え作り



写真4 ハンギングバスケット作り

年間2回、春は寄せ植え作り、秋にハンギングバスケット作りを地域の方に呼びかけて開放講座の一環で行っている。参加者は15人から20人程度、保護者・地域の高齢者が中心である。企業学習及び社会教育活動として、生徒に草花や作り方の説明をさせ、日頃学んだ技術や知識に磨きを掛けている。参加された方々の「ありがとう」「きれいにできたよ」という言葉に励まされ、緊張しながらも楽しく行っている。

2 花壇造り



写真5 寄せ植え作り



写真6 ハンギングバスケット作り

年間2回、春と秋に地域や保護者に呼びかけ実施している。生徒が準備した草花とデザインをもとに、みんなで駅構内の造山花壇（写真5）と通学路のレイズドベッド（写真6）4個カ所を植え付ける。参加者はほとんど同じ顔ぶれの10人程度。「家の前が明るくなるわー」「駅が華やかだね」とよく言ってくれる。また、新入生の社会貢献活動として、地域の環境美化活動と兼ねて交差点花壇（写真7）の植え付けや花壇の草花の手入れを行っている。



写真7 社会貢献活動

3 押し花 しおり作り



写真8 草花〇×クイズ



写真9 押し花しおり作り

スリーS活動が5年経過した時、認知度や関心度についてアンケートを実施した。対象者は、地域の方（60人）、教員（20人）、生徒（120人）。その結果、1/3しか知られておらず、特に中学生以下は誰も知らなかった。そこで、平成27年の12月からは、生徒の発案で地元の保育園と交流を持つようになった。草花の名前や利用についての〇×クイズ（写真8）と押し花でしおり作り（写真9）を行った。園児（36人）は、草花についての興味・関心が高まり、日々の生活に草花がどのように利用されているかなどを知ることができたと思う。生徒は、園児の元気に圧倒されながらも笑顔いっぱい会話したり、指示を出したりしていた。

■ 課題

活動の方法はかなり定着したといえる。しかし、校内外の行事や諸活動におわれ、実施日が制限されてしまい、思うように地域協働活動ができていない。また、限られた人たちとの交流活動となっており、PR活動をとおして輪を広げていきたい。小学生や中学生とも草花を題材にした交流を考えていきたい。今後、この活動を長続きさせるためには、人的な面もあるが、草花苗や用土、管理に関わる経費を確保することも重要な課題である。

■ 効果

この活動は、他学科との連携、学校のPRに繋がった。また、高松地区の街並みに変化し、多くの観光客の目に触れ、高松地域のPRにも貢献していると考えられる。そして、草花を用いて環境を整備したり、装飾活動や管理作業を協働で行うことで地域の人たちとの絆も深まった。

生徒は自らが指導者となるため、教えてもらう立場から教える立場になり、積極性が身についた。また、播種を含めた栽培計画から花材の準備、装飾や交流活動（利用）まで、一連の流れを体験できるので、達成感や充実感を味わうことができ、企画・立案力、準備・運営力、コミュニケーション能力など、多くの力がついたことはいままでもない。

■ おわりに

平成22年度から始めたこの活動も7年が経過する。科目「総合実習」「課題研究」、学校設定科目「園芸装飾」間のスケジュールを上手に立て、できるだけ多くの生徒、教員、幼児から高齢

者までが楽しく参加できる活動にしていきたい。地元企業や商工会議所、観光地とのタイアップも図り、今まで以上に地域の方の理解と協力を得て、文化の薫る地域づくりを目指して精力的に活動していきたい。

さいごに

今年度も全国の農業高校の、花育という観点に立ち実践している花育活動の取り組みをいくつか紹介した。一昨年度まで紹介した、花いっぱい運動・花のまちづくり活動の地域を花と緑で飾る活動と若干重なるものもあるが、どれも農業高校生が地域の人に働きかけ、地域の人と花を介して交流・活動し、花を活用する花育の観点に立ったものである。活動内容は草花の寄せ植え・コンテナガーデン・フラワーアレンジメント・コサージュ・花壇作り等と多岐にわたっている。対象者も、園児・小学生・中学生・地域住民・老人等と幅広く、活動場所は自分達の学校だけでなく、幼稚園・保育園・小中学校・福祉施設・駅・地域イベント等の外部に出向くことも多い。活動形態は、生徒が指導役となり地域の人々に懇切丁寧に教える・生徒が人前で説明する・地域アンケートを行なう・地域交流会をもつ・クイズ形式にする・花育紙芝居を作る・花育授業を実践するなど活動は多彩で、花育の効果的な進め方を研究し改善を図っている。

活動の取り組み状況は、写真でも分かるように、生徒と参加者がみな笑顔で生き生きと取り組み、花育が「花や緑をとおして、命を育み、やさしさや美しさを感じる気持ちを育む」ということがまさによく理解される。農業高校の花育活動の特徴は、農業高校生が地域の人たちを対象に、生徒自らが、主体的に取り組んでいることである。各執筆者が述べているように、花育活動の効果は生徒にとって、学習したことを確かなものとし、人のためになるということで学習意欲を高め、成就感、達成感を持たせることができる。さらに、人とのふれあいをとおして、コミュニケーション能力を高め、社会性、人間性の涵養に効果があるものと思われる。

農業高校の学習の特徴は、体験的な学習をとおして農業に関する知識と技術を習得することで、その学習方法はプロジェクト学習といい、自ら課題を設定し解決していく課題解決型学習である。知識を詰め込むだけの教室の黒板と教科書の授業ではなく、実践的な学習である。

さらに、今回の農業高校の花育活動は、学習したことをもとにして地域に働きかけ、地域と交流し、そのことによって地域から学ぶという循環の中で行われていくものである。この人とのふれあいをとおしての学習は、地域貢献型の学習であり、体験的学習を発展させた新たな学習方法である。農業高校にとって花育は大変教育的価値が高く、これからも積極的に取り組む農業高校が増えていくものと思われる。皆さんには、今後とも全国の農業高校生が取り組む花育活動にご注目いただければと存じます。

花を観察して生けてみよう「一花一葉」

作成者：株式会社姫路生花卸売市場 清田 秀豊

■ 実施主体

名称：花の街ひめじ実行委員会

担当窓口：株式会社姫路生花卸売市場

花育アドバイザー 清田 秀豊

所在地：兵庫県姫路市御国野町深志野300番地

H P：http://himehana.jp

■ 団体等構成（協力会員）

安田 由紀 フラワーデザイナー gold flower 代表

佐野 愛子 未生流中山文甫会 佐野茶華道教室

株式会社永谷園芸 生産者

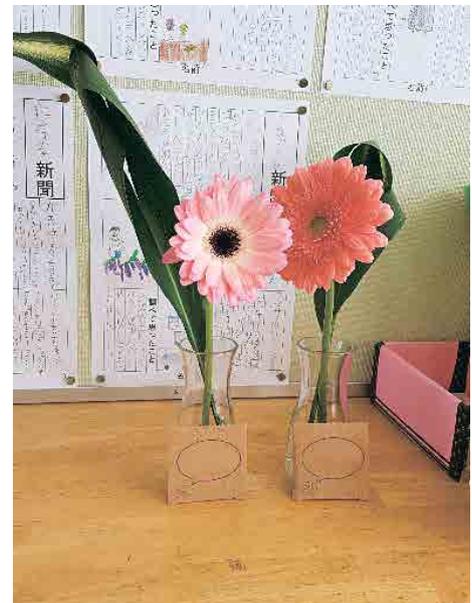
山崎花卉園芸 生産者

山口 順治 生産者

井上農園 生産者

春本園芸 生産者

■ 取組地域 兵庫県姫路市内



■ 概要

姫路市教育委員会の認可を受けて、花を使った環境体験教育を実施しています。

子どもたちが花や緑に触れあう機会を通じて

- ①豊かな創造力を発揮する機会を育みます。
- ②心身共に癒され優しさや美しいと思う健全で豊かな心を養います。
- ③自然環境や生態系との関わりを知り、自然や命の大切さを学びます。
- ④親子のコミュニケーション機会を作ります。
- ⑤友達や学校、地域社会との交流機会を広げます。

■ 取組開始時期・経緯

2010年ごろから、小学校より花壇作りや寄せ植えを教えて欲しいと依頼があり、子どもたちと一緒に寄せ植えを作る機会が増え、植え方や育て方を説明しているうちに、もっと子供たちに花のことを知ってもらうために何かできないかと考えるようになりました。

2011年、「一花一葉」の花育プログラムを紹介いただいて、取組みをはじめました。姫路市教育委員会に花育プログラムを提案し、認可をいただいて姫路市内の全小学校へご案内させていただくようになり、お申込みをいただいた小学校で実施しています。

■ 目的（目標）

姫路市内の小学校69校に、授業カリキュラムとして取り入れていただきたいと考えています。

【取り組み内容】

■ 対象者：姫路市立八幡小学校 3年生5クラス170名

■ 教科：総合的な学習の時間

■ 所要時間：2時限 90分

■ 対象場所：小学校教室内

■ 指導者：講師1名、サポートスタッフ2名

■ 資材：花育花びん ※花育用の花びん

■ 花材

「一花一葉」用

ガーベラ、ハラン

「みんなで生けるクラスの花」用

アルストロメリア、スプレーカーネーション、バラ、オンシジューム、トルコギキョウ、ヒペリカム、グラジオラス

タイムスケジュール 花育授業 「花を観察していけてみよう」

8：45 開始挨拶 講師スタッフ全員で自己紹介、順番に1人ずつ元気よく挨拶

- ・「おはようございます ひめじ生花卸売市場の〇〇といたします。どうぞよろしく申し上げます。」
- 「私たちは姫路市内の小学校で花育という授業をさせていただいています。」

◇本日の授業についての説明をする 黒板に書いて説明する

- ・「ではこれからみなさんと一緒に花育という授業を行います。まず1時間目は 花を観察する 2時間目は 花を生ける という内容の授業です。」

◇ガーベラの花を持って見せる

- ・「このお花は何のお花か知っていますか？ 他に知っているお花はありますか？ 通学路に咲いているお花をみつけたことありますか？」
- ・「みんなより強いと思う？ 弱いと思う？」
- 「みんなより弱いものなので大切に扱って、守ってあげてください。」
- ・「これから2つの約束をしてください。」

◇2つの約束

- 1 「お花は切った後も水を吸って生きています。みんなより弱い生き物なので、大切に守ってあげてください。」
- 2 「あとで水、ハサミとホッチキスを使うときに、絶対にふざけたり、暴れたりしないこと。水がこぼれると、作品が台無しになりますし、ケガをすることがあります。」「この2つの約束をしてください。約束できる人？」

◇ワークシートの配布

「ワークシートに名前を書いてください」

8:55 ガーベラの産地紹介DVD視聴

◇産地紹介のポイント

- ・「今からガーベラの産地の映像をみんなで見ましょう。このガーベラのことをよく知ってもらいたいと思います。和歌山県の産地です。こちらでは一年中ガーベラを生産出荷しています」。
- ・「ベンチ栽培という方法で栽培しています。ハウスの中は23℃の温度で保たれています。湿度も高く、自動で換気をして調整しています。」
- ・「水やりは1日7回、1回に30cc、45分に1回栄養と一緒に自動で与えています。害虫から守るため、消毒も行っています。」
- ・「花を収穫する時は、花粉管が少しでてきたものを取ります。花粉管が出すぎると花粉が増えてカビのもとになるので、注意してみています。ガーベラはハサミで切ったりしません、根本から折ってとります。」
- ・「取った花は、選別しながら花キャップをつけます。そのあと長さを調整して花の裏側を選別して水につけます。殺菌も同時に行います。冷蔵庫に入れて保管し、翌日出荷します。」
- ・「新しいハウスです、750坪 体育館より少し大きいぐらいです。15,000株がここに入ります。1日6,000本～季節によっては10,000本取れます。どうですか、こうやって生産者の方が大事に育てたガーベラが、花市場に送られてきます。そしてお花屋さんが仕入れにきて、お花屋さんに並びます。そしてみなさんがお花屋さんで買っていくということになります。」

9:00 花を配布する 1本ずつ両手で丁寧に手渡し、「はいどうぞ」

◇ガーベラを配布

- ・「見てもらったように、生産者の方が毎日欠かさず手間をかけて、大事に育てられて出荷された花がこのガーベラです。今からみなさんに1本ずつ配りますので最後まで大事に守ってあげてください。命あるお花です、落としたり、折ったりしないようにやさしく丁寧に扱ってください、それからガーベラのなに色がいいとか選ぶのではなく、渡されたガーベラを自分の花として、自分の友達として大事にしてください。」

9:05 ワークシートを使って観察

◇花を観察して絵を描く

- ・「花の観察をしたことありますか？ ふだんでも気にして見ていると、いろんな所にお花は咲いていますよ。」
- ・「花全体をじっくり見て、絵に描きましょう、花全体を見ます、花びら、花の芯は花芯、花びらを支えているところはガクといいます、そして茎、大事なお花をよく見るということは、この花のことをよく知ることです。花と友達になって、よく知ることによって仲良くなれるということですよ。」

「上手に描けたとか、下手とか関係ありませんよ。最後まで描けなくても大丈夫です。よく見て描くと花びら1枚しか描けないかもしれません。それでも大丈夫です。とにかくよく見て丁寧に描いてください。」

(この間は、静かに見てまわって認める言葉をかけてあげる)

◇さらに虫めがねで観察し、発見したことを描く

- ・「花の一部分をよく見て、絵に描きましょう、虫めがねを使って全体を見てみます。普通に見えないものが大きくみえるので、なにか新しい発見ができると思います。発見したこと、気づいたことを一部分だけ絵に描きましょう。お花のことをよく知りましょう。」

◇花の香りを嗅ぐ

- ・「においを嗅いで感じたこと、気が付いたことを言葉で書きましょう、実はガーベラのおいには弱いものです、そんな時は目を閉じて自分の花と向き合って静かに鼻をすまします。花を手で覆って鼻に近づけて、集中してみてください、なにかにおいを感じると思います。いままで普段の生活のなかでいろんなにおいをかいでいると思います。なにかの匂いに似ていないか思い出してみてください。なになにみたいなにおいがすると書いてください。中にはまったくにおいがしないものがあるかもしれません、においがしない人はにおいがしないと書いてもいいですよ。」

◇触って感じたことを書く

- ・「花や、くきを触って感じたこと、気づいたことを言葉で書きましょう、さあ、このガーベラを触ります、やさしく丁寧に触ります。本当は花びらを触ったり、花芯を触ったりすると、お花にはよくないかもしれませんが、今日はお花と友達になったので、大丈夫だと思います。強く握ったり、押さえたりするとなにを触っても同じ感覚しかしません、そおと、親指と人差し指で触るか触らないかのところでやさしく触って感じてみてください。お友達を傷つけないように触りましょう。触って感じたことを書いてください。例えば、花はなになにしている、茎はなになにしている、というように書いてください。」
- ・「はいこれで観察は終わりです。みんなガーベラのことをよく知ることができたと思います。」

友達になることができたと思います。みんなよく集中できましたね。」

- ・「どうでした？お花を観察してお友達のことがよくわかりましたか？いろんなことを発見できましたか？どんなこと発見しましたか？何か質問はありますか？」
- ・「これからもいろんなお花を観察してみてください。いろんなことを発見しましょう。」
「いろんなお花と友達になりましょう。」
- ・「このワークシートはおうちに持って帰って、あとで思い出せるように大切にしてください。おうちの方にも見せてあげてください。」



9:20 トイレ休憩

9:25 講師からの生けかた説明とサポート

◇花を生ける

- ・「では、今から花を生ける授業です。」

「まずは、講師の先生のお花の生けかたの説明を聞きましょう。」

目の前で生け花を見せる、いろんなお花を生けて見せる（花育花びんに生ける）

「お花は太陽の方を向いて成長して咲きます。」

「花の気持ちになって、自分が太陽になって、お花と向き合って生けます。お花の顔を見ながら、どうしたら花が気持ちよくいられるかな、お花のことを考えていけます。」

（斜めにいけたり、長さを変えたりしていろんな表情を見せる）

- ・ハランの形を見せる

（優しく揉んで曲げる、葉脈に沿って割く、割いた葉を結ぶ）

「ハランは葉脈があり、葉脈に沿って割くこと、いろんなイメージがふくらむと思います。長さによってもイメージが変わります。」

- ・ハランとガーベラをいろんな表情で生けて見せる。

9:35 花育花びんを配布、花を生ける

◇花びんの準備ができたなら水とハランを配る

(見て回って困っている人がいたら聞いてあげる)

- ・「先にハランの形を考えてハランから生けましょう、ハランの形が決まったらハランを生けてガーベラを生けましょう。こうしたいけどうまくできないという人は先生に聞いてみましょう。」
- ・「必ずお花の気持ちになって、お花と向き合って生けましょう。」
- ・「完成した人は手をあげてください、後ろの棚に展示します。」
- ・展示するときは、端から順番に展示する(サポートして倒れないように展示してあげる)
「作品が完成したら後ろの棚に展示してください、倒れないように気をつけましょう。」
「まだ作品を作っている人もいますので、終わった人は身の回りをきれいにしましょう。」
「最後まできれいにすることが、お花を生けることです。」
- ・「ワークシートの裏に感想を書いて静かに待ちましょう」
(この間に担任の先生に大きな花器をつくってもらう)
- ・「他の人の作品を見てどうですか? いろんな作品がありますね、みんな個性があってみんな違って素敵です。」



9:50 お花の説明、 みんなでクラスの花器に花を生ける

「では、みんなで生ける花の名前と産地を紹介します。みんな覚えてくださいね。ワークシートの裏に書いてもいいですよ。」

- ・黒板に花の名前と産地の名前を書いて、花を紹介する。
「〇〇という名前の花です、〇〇県でつくられました。」

10:00 クラスの花をみんなで生ける

- ・「では今から、クラスの花をクラスみんなの為に花を生けます。クラスみんなにいつもありがとうという気持ちを込めて、1人1本ずつ生けていきます。」
- ・「1人ずつ順番に生けてもらいますが、みんなこのお花を生ける時にどこにどのお花を生けるか、お花の色、長さを考えてどんなふう完成させたいかイメージして生けましょう。」
「では1人ずつ前にでてきてもらって、お花を渡します。自分の花を生けてください。」
- ・順番に1人1本ずつ手渡して生けてもらう
「〇〇〇〇です、はいどうぞ」
(保護者の方がいる場合は参加してもらう)



10:10 クラスの花の完成

- ・「完成しました、見てくださいとても素晴らしい作品ができました、この作品は1人1人の個性が集まったクラスと同じです、みんなの気持ちが詰まった、みんなで生けたクラスの花です、みんな違う個性が1人1人集まった作品がこのクラスの花です。」

「みなさんの周りにも自然のお花がたくさんあると思います。またご家庭でおうちの方と一緒にいろんなお花を生けてみてください。」

- ・「みんなイメージどおり生けることができましたか？自分の花を生けてみて、クラスの花を生けてみてどう思いますか？」
- ・「感想を發表しましょう。」
- ・「何か質問はありますか？」

- ・「この花はみんな生きているお花です、だからやがて枯れてしまいます。せっかくのクラスのお花を長持ちさせたいですね、今からお花を長持ちさせる方法を説明します。

お花に元気がなくなってきたら少し切ってあげます、新しい切り口から水を吸い上げて元気になります。水が濁っていたり、汚れていると茎の切り口が詰まってしまいます。切るときは斜めに切って水を吸う面積を大きくします。」

「水が汚れる前にきれいな水に替えましょう。」

「クラスのお花は、たくさん生きているお花が元気よく水を吸いますので、水が減ったら足してあげてください。毎日みて観察することが大事です。元気が無いお花を見つけたら、元気にしてあげましょう。クラスのお花をみんなで大切にしましょう、生きているお花です、みんなと同じ生きている友達です、変わったことがあったら気づいてあげましょう。」

10:20 終了

「今日はみなさんととてもいい授業ができました。花育授業はこれで終わりです、ありがとうございました。」

■ 指導のポイント

- ・花は物ではなく命あるものとして大切に扱う事を伝え、自らもそのようにする。
- ・スケッチしている時、創作している時には必ず認める声掛けをする。
- ・雰囲気を見て、話し方に強弱をつける。
- ・子どもたちに問いかけて、常に意見を發表してもらおう。
- ・個性があって、みんな違うこと、みんなと同じでなくても良いことを伝える。
- ・どんな時も急かさずに導く。

■ 児童・生徒に感心を持ってもらえるように工夫している点

- ・説明するときは必ず手をとめて、注目してもらえるように促す。

- ・ 問いかけをして、自分の意見を発表してもらいそれを認めてあげる。
- ・ 観察を通して花の特徴を発見できるように導く。
- ・ 生けかたの工夫次第でいろんな花の表情が見ることができることを伝える。

■ 経費

- ・ 学校や生徒個人に負担がないように無償で行っています。

■ これまでの成果

子供たちには、花のお手入れ方法をしっかり伝えて、ちゃんと実行していることを聞いた。お手入れを続けると花保ちがよくなることを体験して理解している。

花育花びんを持って帰って、いろんな花を挿して飾っているとのこと。花を毎日観察して変化に気が付くようになり、弱った花にはきれいな水に替えたり、切り戻しをしたり、優しい心や思いやりの心を育てている。

また、お陰様で先生方のご理解や評価をいただき、毎年実施校が増え、花育授業の回数も増えている。

■ 参加者からの感想

- ・ 子供たちは、初めての体験でとても喜んでいきます。
- ・ 花の事をいろいろ教えてもらえて嬉しそうです。
- ・ 保護者の方には、オープンスクールの日に参加していただき、クラスのみんなといっしょに花を生けていただいたりしています。喜んで参加していただいています。

またご家庭でも、子どもたちが自分の生けた花を、教えられたとおりに大事にお手入れをしている姿をみて感心されているようです。

■ 今後の課題やその改善方法

- ・ 花育授業にご協力いただける講師、サポートスタッフの人数が少なく、スケジュール調整が困難である。

少しでも興味のある方には、花育授業を見学していただいてご理解とご協力をいただけるように案内している。

小学校の授業カリキュラムとして取り入れていただくには、小学校の校長先生や担当の先生方に花育授業を知ってもらう必要があるので、姫路市教育委員会の校長会や環境体験事業説明会で花育授業の説明をさせていただいている。

花市場での花育事業 湖東白ゆり保育園

作成者：株式会社浜松生花地方卸売市場 開発営業部 谷口 伸彦

■ 実施主体

名称：株式会社浜松生花地方卸売市場
担当窓口：開発営業部 谷口 伸彦
所在地：静岡県浜松市西区湖東町5851-2
HP：<http://www.hamasei.jp>



■ 実施保育園 湖東白ゆり保育園（浜松市西区湖東町）

■ 取組地域 静岡県浜松市内



■ 概要

弊社近くにある湖東白ゆり保育園で、年間を通して子供たちの成長を見守りながら、様々な花育事業を行っている。

フラワーアレンジメントや花苗の寄せ植え、リース作りや、多肉植物寄せ植え、芝ぼうや作りなどを実施している。季節やイベントに合わせて企画し、専門の講師は呼ばずに、市場のスタッフが講師を務めて指導をしている。子供たちが自由に発想し自由に創造することを重視して行っている。

■ 取組開始時期・経緯

取組開始時期：平成27年4月から

経緯：以前から年1回の花育事業を行っていたが、弊社近くに保育園が開園したことをきっかけに、子供たちの成長を見守りながら、継続的に花育事業を企画し実施したい旨を園に伝えたところ、同じような思いを保育園の方々と共有することができ活動が始まった。

■ 目的（目標）

- ・子供たちが花や植物と関わることを通して、感性や創造力を育み、近隣にある花市場のスタッフが訪問することで、地域の人達との交流や関わりを体験する。
- ・年間を通して実施することで、子供たちが季節折々の花に触れる機会を作り、より花に親しんでもらえるようにする。

【取り組み内容】

- 対象者・人数：年長組5歳児 20名
- 所要時間：60分
- 対象場所：保育園
- 指導者：講師（市場社員）2名、保育園先生5名

＜卒園記念の寄せ植え作り＞

■ 資材（当日）

- ・7号丸鉢（プラスチック製）25鉢
- ・スコップ
- ・培養土5袋 赤玉土2袋（前日）
- ・丸鉢の表面に子供たちが似顔絵を描いた



- 花材：リナリア、ロベリア、ムルチコーレ、アリッサム、キンセンカ、ペチュニアの6種類



■ 活動内容（指導内容）

「3月 卒園記念の寄せ植え作り」

事前に、プラスチックの7寸鉢を渡して、園児達が鉢の側面に思い思いの絵を油性ペンで描いた。花の絵や太陽、似顔絵や家族の絵など、自由に描きこれで自分だけのオリジナルの鉢が完成。名前も書いて自分の鉢だとわかるようになっている。

子供たちが6種類の花苗の中から、好きな花を3種類ずつ選び、ポットからの抜き方、土の入れ方を説明した上で鉢に自由に植えてもらう。

完成した寄せ植えは、子供たちの卒園式に飾られ、卒園式後は家庭に持ち帰った。

【作業手順】

1. 子供たちは、寒い寒いと言いながらも、自分で絵を描いた鉢を持って、熱心に説明を聞いていた。まずは、花苗の説明から行った。用意した苗はペチュニア、リナリア、ロベリア、ムルチコレ、アリッサム、キンセンカの6種類、いずれも春の苗物として代表的なものを紹介した。

花の名前を一緒に言ってもらいながら、どれを選びたいか考えてもらった。

2. 土の種類と入れ方を説明

鉢に、赤玉土を入れて、その上に少しだけ培養土を入れる。子供たちは寒いのも忘れて一斉に駆け寄り、土を入れた。

3. 1人3種類の花を選んでもらう。

大人の感覚でのバランスや見た目を指導しないで、子供たちの感性で好きな苗を選んでもらった。

4. 苗をポットから出す方法を説明し、花を傷めないように、土をこぼさないようにして鉢の中に配置する。

どの子供たちも真剣な表情で取り組んでいた。あまり強く押さえつけないように、ふんわりと土で包むようにやさしく植える。



5. 苗と苗の間にも土を入れて、先生に少しだけ手直ししてもらって、完成した。



6. 自分の鉢を持ってうれしそうに、また誇らしげに見せてくれた。
この花はかわいい、いい香りがするなど、それぞれに感想を持ち、子供によって感じる場所は違っていた。



7. 最後に一列に並んで記念撮影をしたところ、3月で卒園する子供たちが寄せ書きを作って渡してくれた。



※「浜名湖花フェスタ2016」開催に当たり、はままつフラワーパーク招待券50枚を当社から高柳園長先生に進呈した。子供たちが家族と共にフラワーパークを訪れて花を楽しむことができる大変喜ばれた。



■ 指導のポイント

子供たちは、自分で作った寄せ植えを卒園式に飾ることをとても意識をしていたようだ。鉢に絵を描いて花を植える。なぜ植えるのか。何のために植えるのか。そして植えるとどうなるのか。楽しかったと同時に、まわりが花できれいになったことを感じてもらうことができたと思う。

花を飾ろうと言葉で伝えても、その実感は伝わりにくいと思う。

こうして、自分の手で体験すれば、決して忘れない記憶として、大きく成長しても残っていくことだろう。素直に受け止められる子供たちだからこそ、この花育の経験は強く残っていくと思う。

また、花とともに、関わった私たちに寄せ書きを贈るという人と人との関係にまで思いを発展させることができたことは、大きな成果だと思う。一回きりではなく、数回実施することが大切だと思う。

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

・毎回、同じメンバーで訪問、指導している。

(子供たちは、講師の顔を覚えていて、楽しみにしているようだ)

■ 経費 1人当たり花材費・資材費

・7号プラスチック鉢 300円程度

・花苗（ポット苗） 3種類 500円程度

■ これまでの成果

子供たちだけでなく、その周りにはいる親世代の植物にあまり関心を持ってこなかった大人にも、花を植えて楽しいことが伝わることになるだろう。

普段、保育園の活動に参加ができない親達が、子供たちが保育園から楽しそうに花を持って帰る姿に驚いているようだ。

■ 参加者からの感想（子供たち、保護者、先生）

毎回、楽しい企画を考えて、子供たちも楽しく過ごしている。ぜひ、今後も続けて欲しい。

■ 今後の課題やその改善方法

2016年度湖東白ゆり保育園で6月、9月、12月、3月と4回に渡り花育活動を実施してきたが、繰り返し実施することにより、子供たちの意識は大きく変わってきていると感じる。次年度も継続して同保育園で実施し、子供たちの成長を見守っていきたい。

子供たちの寄せ書き↓



静岡新聞 2016年3月12日（土）朝刊記事↓

(第三種郵便物認可) 責争

西区 保育園児が寄せ植え
 浜松市西区湖東町の湖東白ゆり保育園（高柳益江園長）で10日、年中、年長園児16人が寄せ植え作りを体験した＝写真＝。地元の浜松生花

したオリジナルの鉢を見せ合って喜んだ。体験後には年度を通して事業を行ってきた同社に園児が感謝の言葉をつづった寄せ書きを贈った。



地方卸売市場が行う花育事業の一環で、完成した寄せ植えの鉢は26日の卒園式で飾られる。
 アリッサムやペチュニアなど、色とりどりの花が用意され、園児らは「いいにおい」と花を楽しみながら、自由に苗を三つ選んだ。同社の社員から手ほどきを受け、太陽や笑顔など好きな絵を描いた直径約20センチの鉢に植えると、完成

ま ち ト ピ



2015年6月 芝ぼうやづくり



2015年6月 野菜苗の植え付け



2015年9月 敬老の日のアレンジメント



2015年12月 クリスマスリースづくり



2016年6月 多肉植物 箱庭づくり



2016年6月 野菜苗の植え付け



2016年9月 敬老の日のアレンジメント



2016年12月 クリスマスの寄せ植えづくり

2016市場まつり・花育 「ガーデンシクラメンのウェルカムボード」作り

作成者：株式会社東京砦花き園芸市場 矢島 武志

■ 実施主体

名称：株式会社東京砦花き園芸市場

担当窓口：販売企画部

所在地：東京都世田谷区大蔵1-4-1

H P：http://www.kinuta-kaki.co.jp

■ 概要

一年に一度、10月に世田谷市場内で行われる「世田谷市場まつり」は、地域住民の方へ卸売市場に対する理解を深めてもらうとともに、食生活の向上や食育・花育の普及などを目的として開催するイベント。新鮮な花などの即売コーナーの他、体験コーナーでは、花育教室を毎年行っている。

日時：2016年10月16日（日）（2回開催）

1回目 10時から10時30分（30分）

2回目 11時から11時30分（30分）

■ 目的：花の普及

今まで花や緑にあまり興味を持っていなかった方にも、作る楽しみ、育てる楽しみ、飾る楽しみを味わっていただき、地域住民の方に植物との関わりを深めてもらう。

対象者・人数：市場まつり来場者の幼児、小学生、親子

指導者：講師1名 アシスタント4名

■ 資材

・ウェルカムボード（土台となるボードは事前に作成）

・テラコッタ鉢 ・鉢底ネット

・培養土（元肥入り）

<その他の備品>

・割りばし ・プラスチックカップ

・鉢皿 ・ビニール袋（持ち帰り用）

・ビニールシート（テーブルクロス）

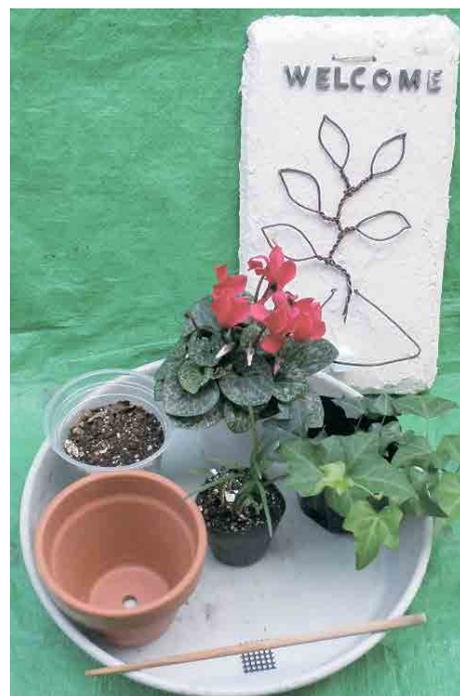
・テーブル15脚 ・椅子20脚

・作成手順説明パネル

■ 花材

・ガーデンシクラメン ・ヘデラ

・リュウノヒゲ



【取り組み内容】

家庭内でも花を楽しみ、玄関先に花を飾ってもらいたい、手軽に長期間観賞してもらいたいとの思いで、ハンギング（吊り下げ）タイプのウェルカムボードを使用した。ウェルカムボードの土台は、断熱材などに使われる板状の発泡ポリスチレンに漆喰を塗り、ワイヤーを取りつけた市場の花育担当者が作成したオリジナルの資材。花材は、長期開花性のガーデンシクラメン、丈夫で耐寒性のあるヘデラ、リュウノヒゲを選んだ。

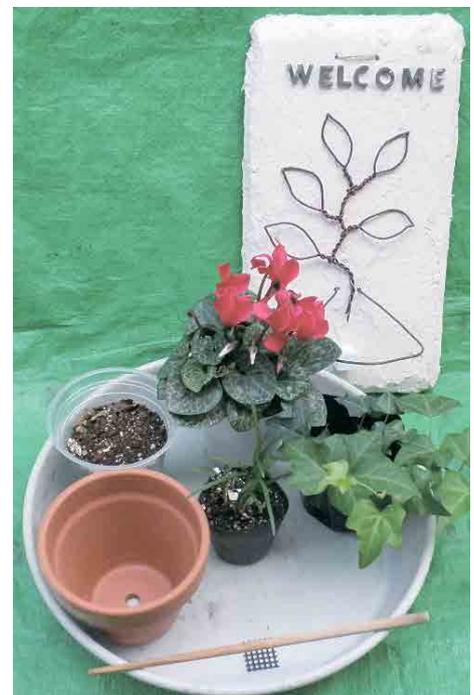
<作り方の手順>

1. 資材・花材

- ・使用する資材や花材は1人分ずつにわけておく。



市場のスタッフから説明を聞く



2. テラコッタ鉢の穴を鉢底ネットで塞ぐ

- ・鉢底ネットは、鉢が塞がるぐらいの大きさに切る。
- ・培養土の流出防止、害虫の侵入防止の為。



3. 植え込み

- ・ 植え込み作業は、大きめの鉢皿の中で行うと土などが広がらず後片付けが簡単にできる。
- ・ 鉢の表（ロゴ刻印）を正面に向ける。
- ・ 培養土を適量入れた後に、ヘデラ、リュウノヒゲを鉢の後方に設置する。



・ ガーデンシクラメンを植え込む

苗を回しながら、一番きれいに見える面を探し正面に向けて植える

※ポットから出して土に植えるときに根を切りすぎたり乾燥させたりして根を傷めないように注意する。

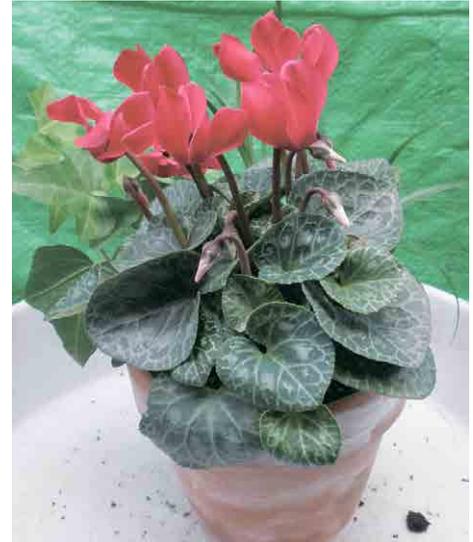
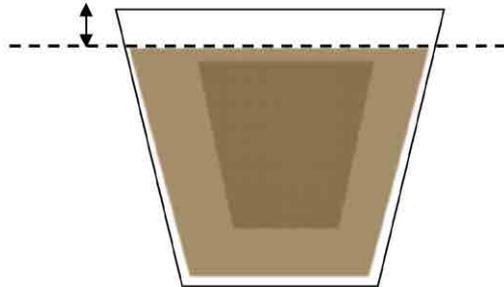


- ・ 鉢と根鉢の間に隙間ができないよう、割りばしを土にさして軽く動かす土が沈んだら、培養土を補充する。



4. 植え込み完成

- ・培養土が鉢の縁から2cmぐらいまでしっかり入ったら完成



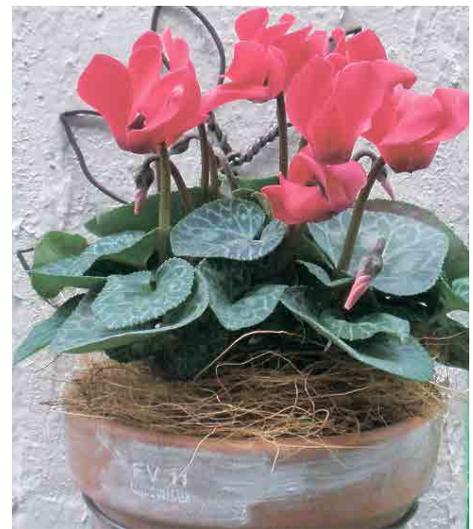
5. ウェルカムボードへ取り付けと仕上げ

ウェルカムボードに付いている針金の輪を広げ鉢を乗せてはめる。

鉢の表面の培養土が見えないように、ヤシ繊維で覆う。

このことをマルチングと言う。

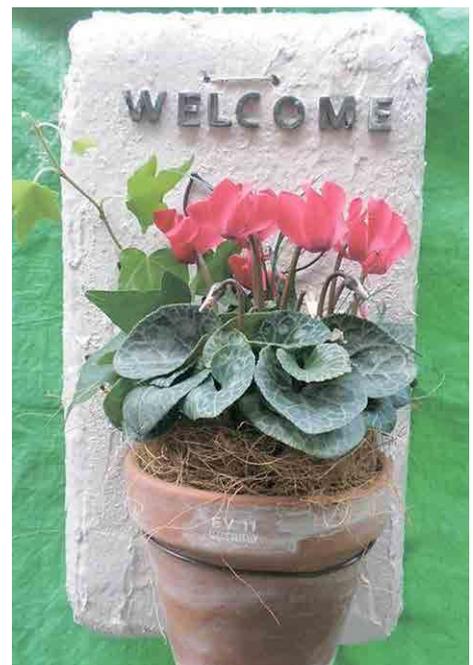
(美観向上、培養土流出防止、乾燥防止、防寒の効果あり)



6. 完成



子供や家族が参加して賑わう会場



■ 管理の説明

- ・ 水やり 家に持ち帰ったら、鉢の根元にたっぷりと水を与える。
秋は毎日、冬は2日ごとに。
- ・ 置き場所 屋外の日当たりのいい場所に置く。（極寒期、降雪期は軒下に移動）
- ・ 花がら摘み 枯れた花を摘み取る、結実防止、病気発生防止などを説明。

■ 指導のポイント

- ・ 初めての方にも参加しやすいようにワンコインで廉価に、簡単で手軽にできる内容を設定。実施会場は、別のイベントと併用して使用している為、時間的な制約があり、設置、講義、撤収を30分で行う。そのため、下準備を事前に行いスムーズに実施ができるようにした。
- ・ 近隣の住民の方を対象としている為、園芸の未経験者も多いが、限られた時間で簡単にできることが条件であったので参加者4人から5人に対し指導スタッフを1名確保し十分なサポートを行い、初心者や子供でも時間内に作成できるようにした。
- ・ 全体の流れを確認できるように作成手順のパネルを使って説明した。



作成手順のパネル

■ 工夫している点

- ・ 「店で売っていないものを自分で作る」をコンセプトに、オリジナルの器や装飾を事前に施した資材を使用。
- ・ 植物に興味を持ってもらうために参加者にマザーリーフ（セイロンベンケイソウ）を配布して育ててもらっている。葉の周りに小さな芽がたくさん付き、増えていく。とても成長が早いことから人気の植物。
- ・ 花育教室体験後には、さまざまな植物にも関心を持ってもらうために人気の多肉植物を全員にプレゼントしている。くじ引きで、引いた番号によってプレゼントされる品種が決まる。



マザーリーフの育て方と見本



多肉植物も、参加者全員にプレゼント

■ 経費

- ・花材、資材で1人当たり500円ほど（人件費、会場設営、運営備品代は含めない）
- 器、ハンギング資材は、主催者側で自作し経費節減している。

■ 参加者からの感想

- ・「こういうの欲しかった」
- ・「昨年に続き参加させていただきました」

■ 今後の課題

- ・ワンコインなど低価格で花育体験ができるように、アイデアにつなげる為の情報収集を行う。

■ 世田谷市場まつり



イベントパンフレット



花即売所には多くの花鉢や苗が並ぶ

日本の伝統文化 五節句を学ぼう 「重陽の節句フラワーアレンジメント体験授業」

作成者：特定非営利活動法人フワークラブなな夢 村上 博子

■ 実施主体

名称：特定非営利活動法人フワークラブなな夢
担当窓口：村上 博子
所在地：神奈川県横浜市青葉区



■ 取組地域 横浜市・川崎市を中心に活動
神奈川県立相模原養護学校

■ 概要

日本に古くから 伝わる行事の多くは、季節の花や植物とも関わりが深い。
1年の中で重要な五つの節句について学ぶと共に、実施時期の10月にちなんで、キクの節句と言われる「重陽の節句」で使われるキクを題材にして、フラワーアレンジメントを体験してもらうこととした。
私たちの考える「花育」とは、花や緑に親しみ、育てる機会を通して「思いやり」「やさしさ」「命の大切さ」を感じる心を育む活動である。

■ 取組開始時期・経緯

神奈川県花き・植木振興地域協議会からの依頼により、神奈川県立相模原養護学校 高等部1年生に花育授業を指導することとなった。

2016年 8月 ・学校との打ち合わせを実施
・五節句の一つ、重陽の節句をテーマとした花育を実施することが決まった

2016年10月 ・花育授業を実施

特定非営利活動法人フワークラブなな夢は、2008年に活動を開始して神奈川県横浜市・川崎市を中心に花育活動を行っており、2015年2月にNPO法人として設立。

2016年度で活動開始から8年目を迎えた。

■ 目的（目標）

「花育」で目指す“7つの育み”

- ①「感謝」する気持ちを育む。
- ②「思いやり」を育む。
- ③「想像力」を育む。
- ④「コミュニケーション」を育む。
- ⑤「達成感」を育む。
- ⑥「自信」を育む。
- ⑦「夢」を育む。

【取り組み内容】

- 対象者・人数：高等部1年生 30名（4クラス合同）
- 教 科：美術
- 所 要 時 間：120分
- 対 象 場 所：神奈川県立相模原養護学校
- 指導者・アシスタント人数：美術の先生1名・指導者（なな夢スタッフ）2名・アシスタント14名

<重陽の節句フラワーアレンジメント体験授業>

■ 資材

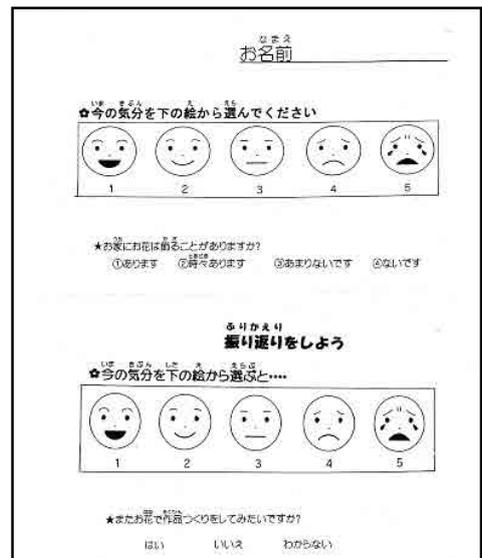
- ・五節句についての説明（スライド用）
- ・ワークシート（生徒に配布）
- ・基準紙（生徒に配布）
- ・花器
- ・吸水性スポンジ
- ・リボン+針金のセットした物
- ・持ち帰り用の袋
- ・アンケート
- ・フェイススケール※
- ・ハサミ・えんぴつ・消しゴム

※フェイススケールとは

自分の現在の気持ちを、「笑った顔」「泣き顔」などを5~6段階の表情の変化で表したスケールで、花育の実施前と後に、生徒達に自分の気持ちに近いものを選んでもらい花育を始める前の気持ちと実施後の気持ちがどのように変化していくのかを測定するのに活用している。

■ 花材

- ・ 輪ギク 1本
- ・ 小ギク（黄色） 2本
- ・ スプレーギク（ピンク） 2本
- ・ 小ギク（白） 2本
- ・ ベアグラス 3本（希望者のみ）
- ・ 月桂樹
- ・ アイビー



フェイススケール



フラワーアレンジメントに使用する色々な種類のキク

■ 活動内容（指導内容）

1部：美術の先生による座学

日本の伝統文化である五節句について学び、特にその中の「キクの節句」について学ぶ。
(神奈川県立相模原養護学校の美術の先生が説明)

1. 今日の授業の流れを説明

これから何をするのか、不安にならないようにするために授業の流れを書いた紙を黒板に貼りながら説明をする。

説明が終わったら黒板に貼ってある紙を1つずつ取っていく。

(紙を黒板から取ることで、今どこまで進んでいるのか把握できる)

- ①はじめの挨拶。
- ②説明を聞く。
- ③フェイススケールに今の気持ちを書く。
- ④「五節句について」の説明資料を見てワークシートに記入する。

(字の書けない生徒は紙を張る)

- ⑤花のアレンジメントの説明。
スライドを見ながら作り方の流れを説明
(休憩)

- ⑥花をアレンジ。
スライドを見ながら、花を切って吸水性スポンジに挿すことを伝える。
リボンをつけて完成。

- ⑦ (フェイススケールにいまの気持ちを) 書く。

- ⑧掃除

- ⑨おわりのあいさつ



授業の流れを書いた紙を黒板に貼りながら説明

2. 「フラワーアレンジメント」と「五節句」について説明 (スライドを使用して説明する)

(神奈川県立相模原養護学校の美術の先生が説明)

- ①普段、花に接することが全くない生徒がいるので、フラワーアレンジメントとはどういうものかの説明。

生活のなかで 花をたのしむこと



「生活の中でお花を楽しみたいですね。
今日は、NPO法人フラワークラブなな夢さんが、
フラワーアレンジメントを教えてください」

②五節句についての説明。

「五節句とは聞いたことありますか？難しい名前ですが
みんなが知っている行事です。

中国の考え方からできた、日本の季節の行事です」



<五節句（ごせっく）>

1月7日 ^{じんじつ} 人日の節句・七草がゆの節句



七種類の野草や草花をおかゆに入れて食べ、無病息災を祈りました。

3月3日 ^{じょうし} 上巳の節句・桃の節句



桃が咲く時期と重なることから「桃の節句」とも言われ、女の子の健やかな成長を願う節句でお雛様を飾ります。

5月5日 ^{たんご} 端午の節句・^{しょうぶ} 菖蒲の節句



子供の日です。子供の健やかな成長を祈り、鯉のぼりを上げたり、柏餅を食べたりします。古くから柏の木には神が宿るとされてきました。

7月7日 ^{たなばた} 七夕の節句



織姫と彦星が年に1度会うというお話を聞いたことがあるかもしれませんね。

9月9日 ^{ちようよう} 重陽の節句・キクの節句



「昔の人はキクの花を楽しみました。」

「昔は9月9日でしたが、今のカレンダーでは10月20日ごろになります。今日は10月12日ですので、あと少しで重陽の節句のタイミングですね。」



着せ綿とは

「夜、キクの花の上に色を付けた綿を乗せて、朝、夜露でキクの香りの移った綿で元気で長生きができるようにと顔や体をふきました。」

※指導者が、実際にキクの上に綿を乗せた状態と、綿で顔を拭くことを実演して生徒達に見せた。



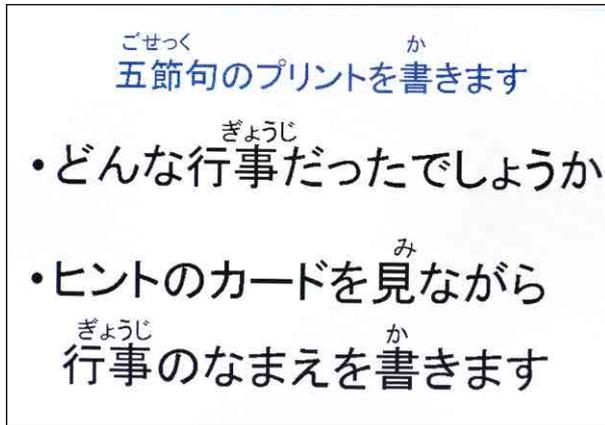
着せ綿をイメージしたお菓子



「お酒にキクの香りを移して飲みました。」

「着せ綿に見たてたお菓子もあります。食べてみたいですね。」

④五節句について説明をした後、生徒にワークシートを記入してもらう。



いつ	行事のなまえ	どんなことをするのか	関係のある植物
1月7日	七草がゆ	7種類の野菜を入れたおかゆを食べて元気にすごす	春の七草
3月3日		お雛様と桃の花を飾る	桃の花
5月5日		しょうぶ湯にはいる	菖蒲、柏の葉、よもぎ
7月7日		七夕飾りをして星をながめる	笹の葉
9月9日	重陽の節句	菊の花にわたをのせて朝露を採るふくと長生きする	菊の花

答えは各机の上であり、それを見て書いたり、文字の書けない生徒はシールを貼ったりした。

1月7日	七草がゆ
3月3日	ひなまつり
5月5日	こどもの日
7月7日	七夕 (たなばた)
9月9日	重陽の節句

3. 休憩15分

2部：キクのフラワーアレンジメント

指導：NPO法人フラワークラブなな夢

4. 後半は実際にキクを使ってフラワーアレンジメント作成

- ・あいさつ、何を作るのかを説明。

「こんにちは。今日は秋のお花、キクを使ってアレンジメントを作りたいと思います。」

自己紹介

- ・「私たちはNPO法人フラワークラブなな夢からきました。」
- ・「私たちの考える「花育」とは花や緑に親しみ、育てる機会を通して、「思いやり」や「やさしさ」や「命の大切さ」を感じる心を育む活動です。」





これを作ります

何を作るのか具体的に目に見える形で説明。
「今日は、このキクのアレンジメントを作ります」

① 大きなキクをカットします



ゆび 2本のながさ

机の上にあるバケツから大きなキク（輪キク）を1本ずつ取ってもらい、一緒に切る。
「指の幅2本分の長さで切ります。」

② 小さなキクもぜんぶカットします



ゆび 2本のながさ

小さなキク（小ギク・スプレーギク）も全部カット。「指の幅2本分の長さで切ります。」机の上に吸水性スポンジの入っている茶色の器を確認。

③ オアシスにさします



机の上に吸水性スポンジの入っている茶色の器を確認。

④ まわりに葉をさす



使用する月桂樹、キクの葉は、美術の先生の自宅で栽培したものも使用した。
デザインを考えて生けていく。
スライドを見ながら一緒に作成。

⑤ まんなかに大きなキクをさす



「大きなキクを真ん中に挿します」
キクは必ずしも真ん中に挿さなくても良いことを伝える。

⑥まわりに 小さいキクをさす



小さいキクを全部入れる。
スライドと違っていても良いと伝える。

⑦小さいキクをさす



斜めのデザイン。

⑧まわりを うめていく



大きなキクの周りから小ギクを埋めていくデザイン。

⑨リボンをつける



最後までできた生徒に手を挙げてもらい、一人ずつ作品を確認。
「とってもよくできました」
「キクを端にデザインしたの？ 凄いアイデアですね」などの声を必ずかける。
出来上がった生徒にリボンを渡す。

⑩フラワーアレンジメント作品



完成したフラワーアレンジメント作品
(ベアグラスは、希望する生徒に配布)

⑪てさげ袋にいれる



持ち帰り用の手提げ袋を受け取り作品を入れる。



手提げ袋の側面に、自分の名前シールを貼って完成。

時間をかけて、とても丁寧に作っている生徒もいた。

「大丈夫、時間はあるからゆっくり作ろうね。」と声をかけた。



感想を聞いて終了。

「今日は楽しかったですか？」

大勢の児童が手を挙げてくれた。

美術室を掃除して終了

■ 指導のポイント

- ・説明をする時は、言葉と合わせて目で見えてわかるような説明資料を用意。
- ・漢字が読めない生徒や、いままで花を扱ったことのない生徒も大勢いるとのことで、学校の美術の先生（里井先生）が生徒がわかりやすいようにと五節句についての資料とワークシートを用意した。

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・事前に教師から、興味が無くなったら、何人かは教室から出て行ってしまふかもしれないと聞いていたが、スライドなどを使ってわかりやすく説明を行ったので、立ち歩いたり、教室を出ていく生徒はいなかった。
- ・説明資料は、写真を多く用意。説明は順を追って短くゆっくりした口調で話し、作品づくりは生徒と一緒にいった。
- ・学びたいという気持ちが継続できるように、指導者から生徒に質問をしたり興味を持ってもらえるように工夫した。
- ・事前に美術の里井先生と、生徒達が作りやすいデザインを考案したり、話の進め方、順番などを綿密に打ち合わせした。
- ・簡単だと飽きてしまう。難しいと投げ出してしまふ。少しだけ難しい内容には興味をもって取り組むことが分かった。

■ 経費

1人当たり花材費・資材費 約1035円（花は市場での購入金額）

（花材費・資材費・諸謝金などは、「神奈川県花き・植木地域振興協議会の補助金」で行われた。）

■ アンケート

フェイススケールによる実施前と後の気持ちの変化の測定 (生徒27名)

	とてもニコニコ	ニコニコ	普通	悲しい	とても悲しい
実施前	7	9	6	1	4
実施後	16	6	3	0	2

生徒の中には、花は好きにはなれないと思う生徒がいたかもしれないが、結果は概ね気持ちが上昇していたと思う。実施後には「とてもニコニコ」であると回答した生徒が開始前に比べて二倍以上になり、大多数を占めた。

■ 参加者からの感想

<先生方からの感想>

- ・自分で生けた素敵なお花を持ちかえることが出来て幸せ。
- ・作業の内容もわかりやすく、生徒たちも主体的に活動することができた。良い体験ができた。
- ・「楽しかった」という言葉をたくさん聞くことができた。
- ・誰にでもできて、創意工夫ができるところがよい。セラピーとしても有効。
- ・とても生き活きして楽しそうに取り組んでいた。機会があればまたお願いしたい。
- ・生徒が興味津々に取り組んでおり、満足できた様子がうかがえた。
- ・作品完成後、友達や教員に自分の作品を見せている場面があり、良い機会だなと感じた。
- ・神奈川でどのような花材が生産されているかを学び、それを使ってアレンジを作るのも良い。
- ・生きている花・植物を扱うことで、心が癒されていくのだと思う。

■ 今後の課題

- ・1度だけの体験ではなく、季節ごとに数回取り組みたい。
- ・どこの学校も金銭的に厳しいのが現状で、費用面の負担が課題。
- ・花育の実施時間は、1~2時間程度だが、そのための準備は膨大なものになる。
- ・事前の作業はどこの団体でも同じだと思うので、どのような工夫をしているのか他団体との情報交換なども行っていきたい。
- ・安全面の問題

「万が一事故にあった場合の補償（校内外）はどのようにするか」

（花育に参加した児童・保護者・先生・講師・ボランティアのスタッフを含む）

イベント保険などの加入などを事前に確認しておく必要がある。

- ・学校で花育を実施するためには、学校・保護者に理解をしてもらうことが大切。一度、花育を行った学校や団体からは、また取り組みたいという意見が多いので、体験することで花や植物への理解が深まり、関心を持ってもらえたと確信している。

地域のコミュニティを育む花・緑の街 ～みんなで創る住みよい街・片平～

作成者：名古屋市緑区片平学区連絡協議会 会長 杉野 友昭

■ 実施主体

名称：名古屋市緑区片平学区連絡協議会

担当窓口：会長 杉野 友昭

所在地：愛知県名古屋市緑区鳴海町

■ 団体等構成

名古屋市の市区行政を円滑に運営する
小学校単位の住民自治組織

■ 取組地域

名古屋市緑区片平学区地内

■ 概要



愛知県名古屋市緑区の区政方針のもと、小学校区として地域社会の福祉の増進と住民自治の向上発展を図る事を目的として活動。

市区政に係る活動の中、個人・世帯での「自助」、行政の「公助」、地域で支えあう「共助」が重要と考えると共にもう一つ「近助（互助——向こう3軒両隣の近い関係）」を認識しつつ「安心・安全で快適なまちづくり」「地域で支えあう共助の仕組みづくり」「住環境向上——美化運動による環境課題への意識改革」をベースに「地域のコミュニティを育む花・緑の街～みんなで創る住みよい街・名古屋市緑区片平」を標榜しつつの活動である。

■ 取組開始時期・経緯

平成22年2月に地域において孤独死が発生した事による、高齢者の外出誘導としてコミュニティカフェの開設とシルバーパワーの活用のため新たな老人クラブの設立と従来ある老人クラブの活性化を図るため花をベースに『花いっぱい運動』を展開した。

その小さな活動が平成25年には環境省の「家庭環境教育強化事業」の環境課題に取り組む地域コミュニティ支援に採択をうけた事により、地域の環境づくり学習会として『Ecoカフェミーティング』としてその後も継続実施している。

■ 目的（目標）

「少子高齢化」「地域における人と人との繋がり希薄化」「地域コミュニティ機能の衰退・弱体化」「防犯・防災体制の確立」等の問題を解決するため

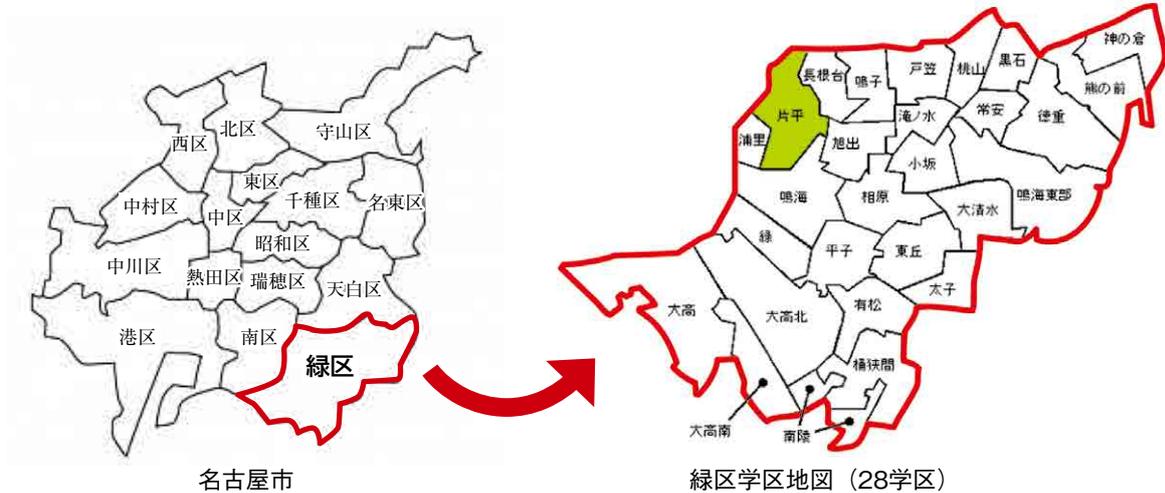
『地域での問題・課題の解決に向けて地域でできる事は地域で！』

を目標とする。

解決する手段として、花いっぱい運動をベースに、『花育』の基本理念の浸透と併せてシルバーパワーの活用と子供会、中学校園芸部との協働等の展開を行う。又、防犯・防災体制の確立として「一軒一灯運動」と自主防災訓練等の展開を継続実施している。

わたしたちのまちはどこにある？

片平学区は、名古屋市南東部に位置する緑区を構成する28学区のうちの一つで、下記に位置しています



名古屋市

緑区学区地図（28学区）

【1】地域の環境づくり学習会「Eco カフェミーティング」の開催

平成25年に環境省より「家庭環境教育強化及び体験の機会の場認定促進業務」における環境問題に取り組んでいる地域コミュニティに対して支援されたことにより以後継続実施をしている。

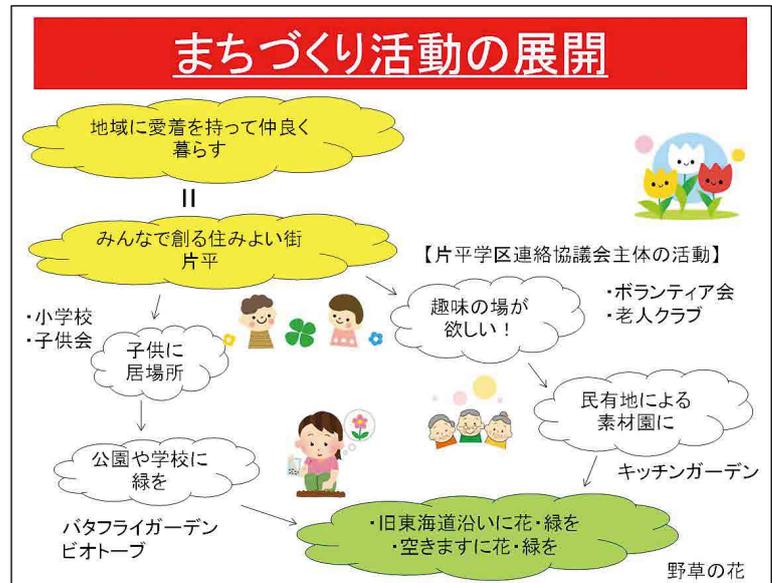
1. 第1回開催 日時：平成25年12月16日（月） 場所：片平ふれあいセンター
 - ・セミナー 「地域のコミュニティを育む緑」 講師 赤沢 宏樹（兵庫県立大）
 - ・ワークショップ（参加型学習会） 「みんなで創る住みよい街・片平」
講師 千頭 聡（日本福祉大学）

2. 第2回開催 日時：平成26年11月2日（日） 場所：片平ふれあいセンター
 - ・講義 「はじめませんか！花育」
講師 （一社）日本ハンキングバスケット協会 愛知県支部長 伴 和彦
 - ・環境メッセージ「花育」の発信と花種の配布
コーディネーター 千頭 聡（日本福祉大学）
 - ・講義①「竹林の現状と活用法を学びます」 講師 雑木林研究会 眞弓 浩二
 - ②工作 竹材を使って「花入れ」「竹ポックリ」づくりに挑戦！ 講師なごや竹和会

3. 第3回開催 日時：平成27年11月1日（日） 場所：片平ふれあいセンター
 - ・講義 「ゆるゆる園芸で玄関先から始めるまちづくり」
 - ・実技 防犯コンテナづくり
講師 まちづくりコーディネーター グリーンアドバイザー愛知 伊藤代表
※花の種と共に手作りの「ハーブソルト」を配布

【2】花いっぱい運動の展開

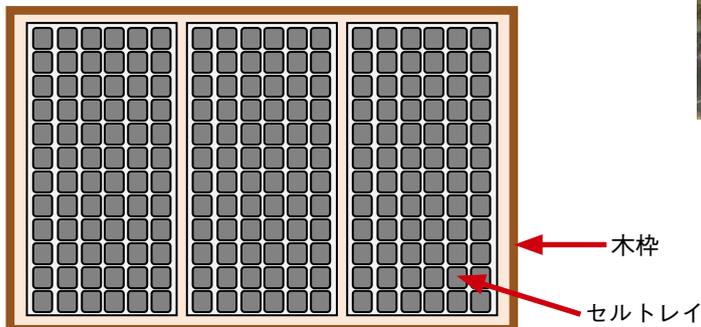
1. まちづくり活動の方向性の確認と決定（平成00年0月00日）



2. セルトレイでの栽培のための木枠づくり（平成28年3月24日）

- ①木枠の大きさ 60cm×94cm
21枠（7地区×3枠）製作・配布

- ②セルトレイの大きさ 28cm×55cm 72穴を使用
1つの木枠の中に、セルトレイが3個入る大きさ



3. セルトレイへの種まき作業（平成28年4月20日）

地域の人たちとの協働作業



つまようじで、一種一種をセルトレイへ



各地区10ヶ所で作業開始 マリーゴールドの種を播種



全体の種投入量は4,500粒



4. 種まき後の成長過程（平成28年5月5日）

セルトレイでの成長過程

木枠にビニールシートを貼り、その中に水を入れて
トレイの下から水を吸収させる手法を採用。

この時点で80%位の発芽率。



5. セルトレイからポットへの移植（平成28年5月13日）



6. ポットでの成長過程（平成28年5月28日）

順調に成長している。



名古屋市緑区のマスコットキャラクター「みどりっち」

安心・安全で快適なまち・緑区を推進しPRするため、「みどりっち」は「まちづくり隊長」「観光大使」として日々奮闘しています。緑の豊かさを象徴する「あたま」の部分には、大好きな「緑区」のシンボルマーク、耳元には若葉を飾ったお洒落な「みどりっち」。首元には緑区の特産品「絞り」のマフラーを巻き、有松の特徴ある町並み「なまこ壁」と、区内に見所も多い桜の花びら模様をあしらった洋服など、デザインの随所に緑区の特徴が散りばめられています。



7. 植付け作業（平成28年5月29日）

- ⇒各地でそれぞれが活動
- ⇒シルバーパワーの活躍



8. 花いっぱい運動の展開（平成28年6月4日）

子供会との親子ファミリー・老人クラブ会員等との多世代交流を兼ねた運動の展開
（空きますへの植付け）



【3】防犯・防災体制の確立

⇒花をベースにした快適な街づくりに加えて
地域の安心・安全な街づくりへの更なる展開

1. 一軒一灯運動の展開——全戸配布

⇒各家庭玄関灯や門灯を夜間に点灯させて
街全体を明るくし、空き巣や車上狙いなどの
犯罪を未然に防止する運動



玄関先に花のプランターを設置
プランターの下に防災グッズを入れている

2. 自主防災訓練の実施 (28/9/25)

①在宅防災訓練 (シェイクアウト) の実施

安全行動の1-2-3

Drop! 姿勢を低く

Cover! 体・頭を守って

Hold On! 揺れが収まるまでじっとして

家族の安否を確認した後、安否確認情報として

⇒「わが家は無事です」カードの掲示



②避難しながら避難経路の危険個所をチェックしながら避難実施 (各自治町内会単位)

赤シール 道幅が狭いので倒壊家屋で通れなくなる

黄シール かけ崩れの心配がある

青シール 高低差があり避難ができない

③負傷者発生を想定した応急救護訓練他

・ AED 仮設トイレの組み立て訓練 応急担架訓練 三角巾作成及び煙道体験の実施



④100円均一で揃う防災用品コーナー
緑区社会福祉協議会の展示コーナー

⇒地震対応として家具転倒防止器具の展示と
実演も同時開催する。



■ 活動参加者や小学校、など地域の方からの声

○老人クラブの男性会員よりの声

男性は、現役時代は地域との結びつきが弱く、周囲の人々と親しくする機会が少なかった。
しかし老人会に関わり、特に今回は「花いっぱい運動」に参加して周囲の方々と親しくなり地
域の一体感を感じるようになった。

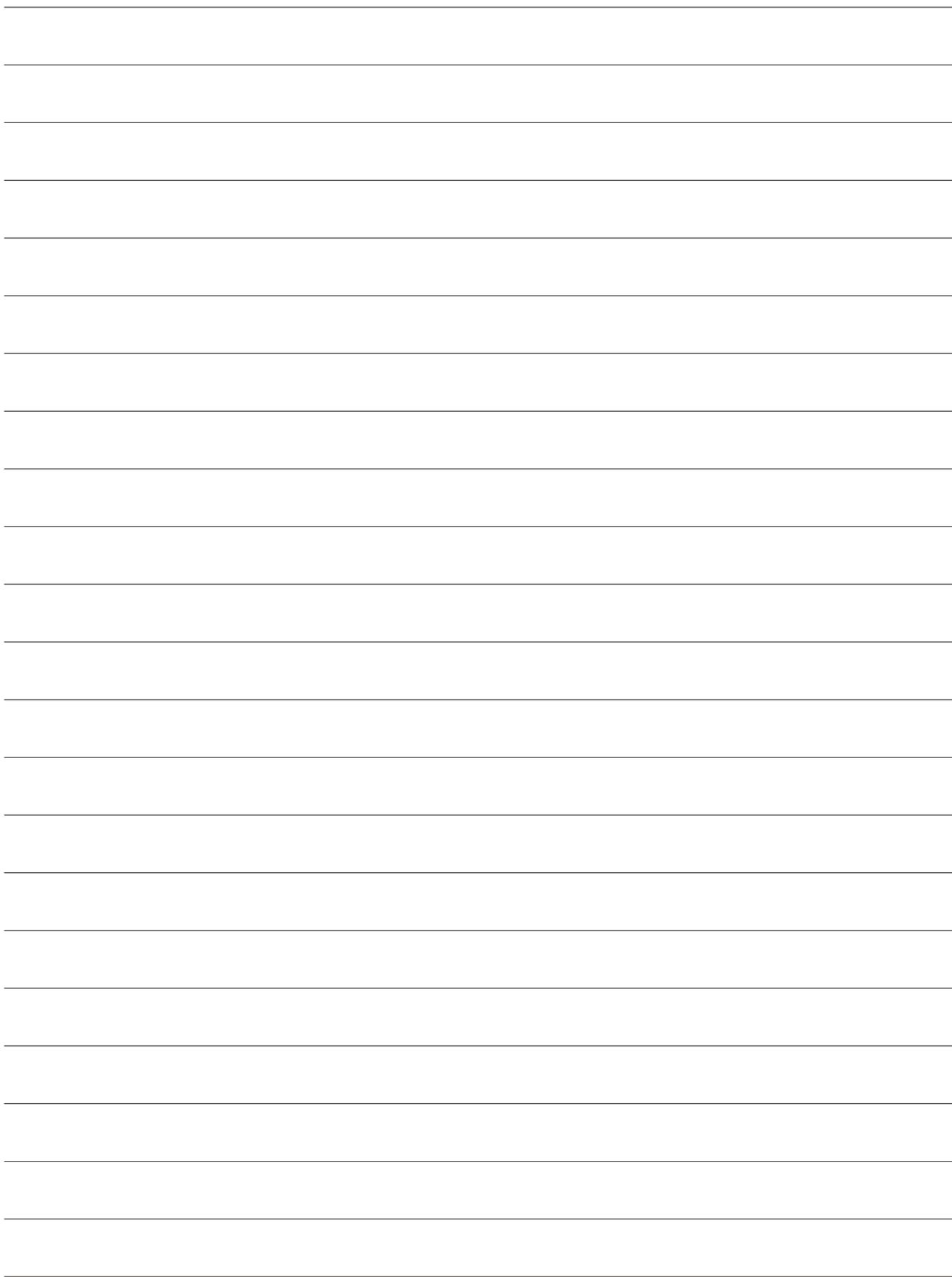
○サロンを運営している女性よりの声

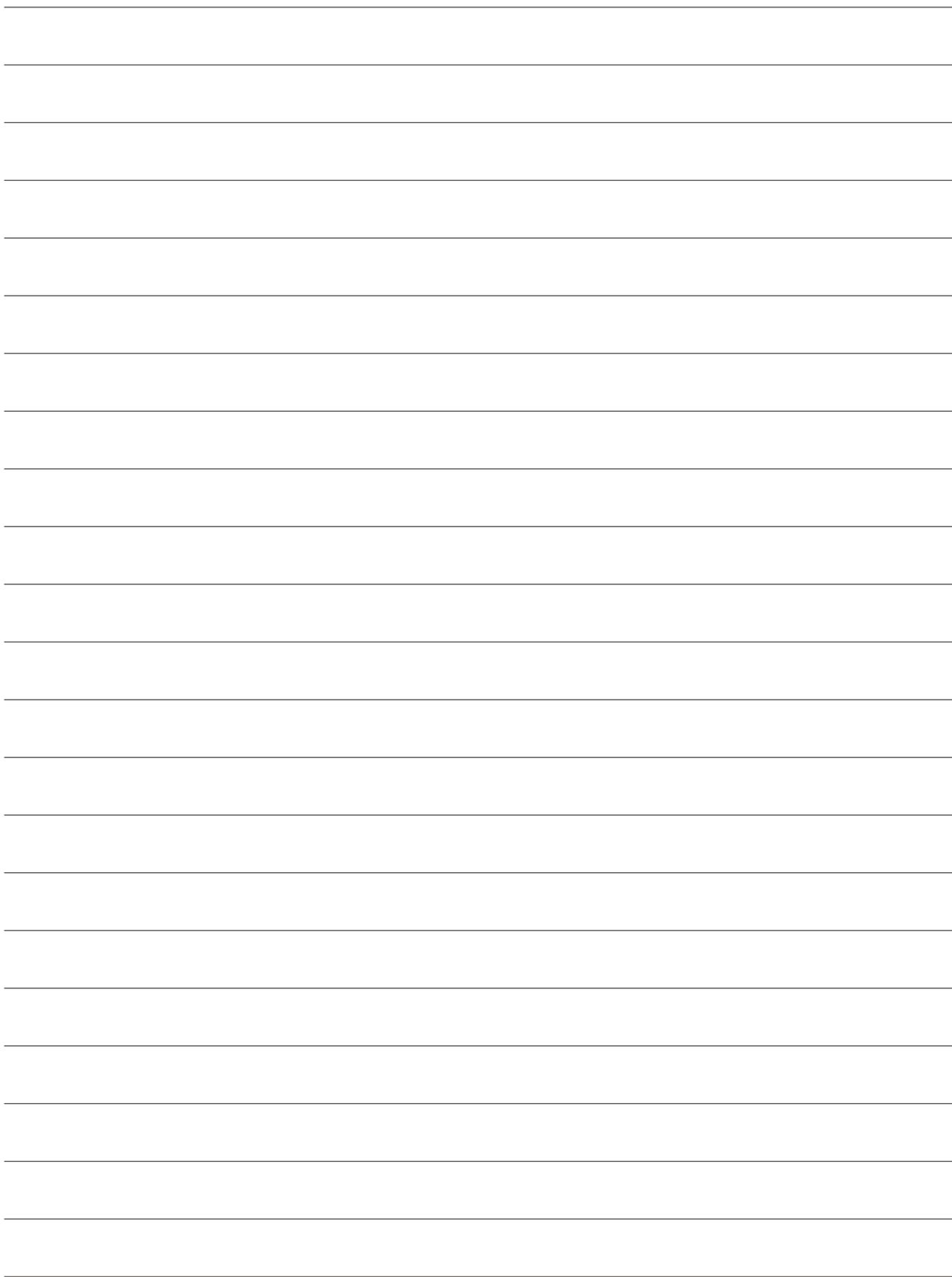
地域の方々が花植に携わり外にでるようになり、元気がもらえるようになった。
周りの方々にも声かけし、水やり・草取り、笑い声でにぎやかに。
老いも若きも子供達と一緒に作業し、これからも盛り上げていけたらいいなと思っております。

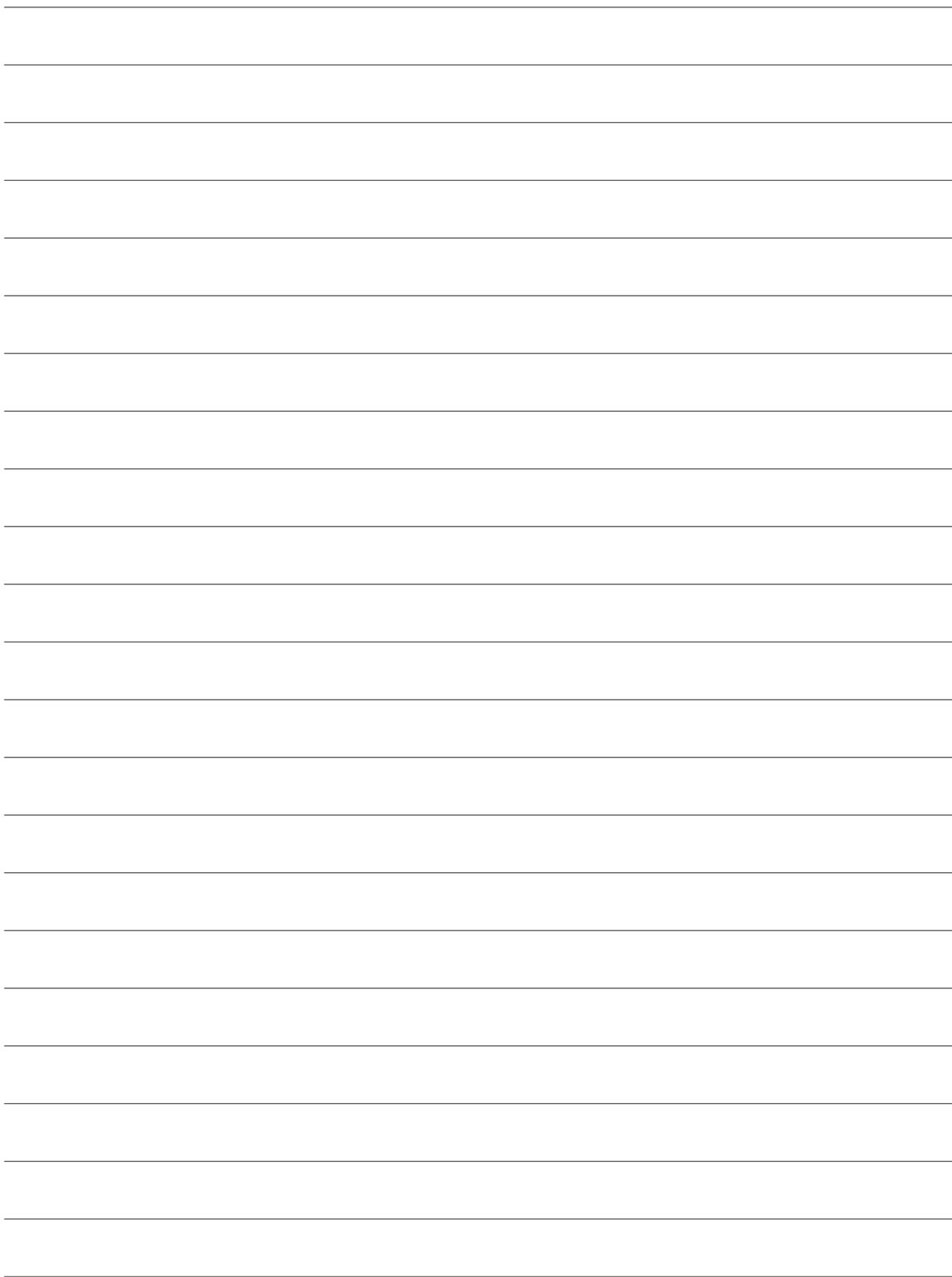
○学区連絡協議会の役員よりの声

自助・公助・共助・互助の中で学区として「地域で支えあう共助の仕組みづくり」を重点に
活動する中、学区委員のみではなく子供会の親子さん、老人クラブの人達、中学校の園芸部の
皆さん等みんなで、わいわいがやがやしながらの活動の広がりこそが互助・共助ではないかと
喜んでいる。









「花育活動図鑑」参考データ一覧

参考データは、「花育」ウェブサイトからダウンロードしてご使用ください。

<http://www.hanaiku.gr.jp>

花育資料集

- 基本的な花と緑の知識「花づくり 土づくり」
- 花ごよみ366「花ことば・誕生花」
- 季節の行事と花
- 漢字で見る植物の名前
- 全国の植物園一覧
- 生活と花と緑のQ&A
- 植物に関するQ&A

花育アドバイザー

- 花育アドバイザー登録制度実施要領

平成28年度 農林水産省 産地活性化総合対策事業
国産花きイノベーション推進事業（花育活動全国推進事業）

全国花育活動事例集

発行日：平成29年3月 発行

編集・発行：全国花育活動推進協議会

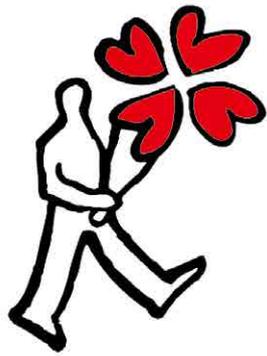
連絡先：〒103-0004

東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階

一般財団法人日本花普及センター内

電話：03-3664-8739 FAX：03-3664-8743

E-mail：jfpc@jfpc.or.jp



育てる楽しさ、
花咲くよるこび。